

# 北条時房・顕時邸跡

雪ノ下一丁目 269 番 1 地点

## 例 言

1. 本報は北条時房・顕時邸跡（鎌倉市No.278）の内、雪ノ下◎地点における埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査期間は以下の通りである。  
平成 18 年 4 月 4 日～平成 18 年 6 月 13 日
3. 調査体制は次の通りである。  
担 当 者 齋木秀雄  
調 査 員 鯉淵義紀、三ツ橋正夫  
調査補助員 村松彩美  
調査参加者 （鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報告に関する資料整理は以下の体制で行った。  
担 当 者 降矢順子  
調 査 員 加藤千尋、伊藤博邦、岡田慶子、三浦恵
5. 本報告の執筆は、降矢順子と齋木秀雄が分担した。
6. 本書に使用した遺構、遺物図版の縮尺は以下の通りである。  
遺構全体図 1/300  
個別遺構 1/60、1/30  
遺構図の水糸高は、海拔を示す。  
遺物実測は 1/3
7. 出土品、図面などの資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。

# 目 次

## 本文目次

第1章 調査概観	125
第1節 調査地点の位置と歴史環境	125
第2節 周辺の調査	125
第3節 調査の経過と堆積土層	127
第4節 調査軸の設定	128
第2章 検出された遺構と出土遺物	129
第1節 1面の遺構と遺物	129
第2節 2面の遺構と遺物	131
第3節 3面の遺構と遺物	137
第4節 4面の遺構と遺物	148
第5節 5面の遺構と遺物	155
第6節 下層の調査	160
第3章 まとめ	165

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	126
図2 調査軸設定図	127
図3 堆積土層（模式図）	128
図4 1面・2面全体図	130
図5 1面検出遺構	131
図6 1面遺構・面出土遺物	131
図7 2面検出遺構	132
図8 2面遺構出土遺物（1）	133
図9 2面遺構出土遺物（2）	134
図10 2面遺構出土遺物（3）	135
図11 2面出土遺物	136
図12 3面・4面全体図	138
図13 3面検出遺構（1）	139
図14 3面検出遺構（2）	140
図15 3面遺構出土遺物（1）	141
図16 3面遺構出土遺物（2）	142
図17 3面遺構出土遺物（3）	143
図18 3面遺構出土遺物（4）	144
図19 3面遺構出土遺物（5）	145
図20 3面遺構出土遺物（6）	146
図21 3面遺構出土遺物（7）	147

図 22	3 面出土遺物	-----	148
図 23	4 面検出遺構 (1)	-----	149
図 24	4 面検出遺構 (2)	-----	150
図 25	4 面遺構出土遺物 (1)	-----	151
図 26	4 面遺構出土遺物 (2)	-----	152
図 27	4 面遺構出土遺物 (3)	-----	153
図 28	4 面遺構出土遺物 (4)	-----	154
図 29	4 面出土遺物	-----	155
図 30	5 面・6 面全体図	-----	156
図 31	5 面検出遺構 (1)	-----	157
図 32	5 面検出遺構 (2)	-----	158
図 33	5 面検出遺構 (3)	-----	159
図 34	5 面検出遺構 (4)	-----	160
図 35	5 面遺構出土遺物	-----	161
図 36	5 面出土遺物 (1)	-----	162
図 37	5 面出土遺物 (2)	-----	163

## 写真図版目次

図版 1	1. I 区 1 面全景 (西から) 2. II 区 1 面全景 (西から) 3. II 区 1 面遺構 47・溝 (北から) 4. II 区 1 面全景 (東から) 5. II 区 2 面全景 (西から)	-----	185
図版 2	1. I 区 2 面遺構 1 (かわらけ溜り) 2. 同 3. 同 4. I 区 2 面遺物出土状況 (北から) 5. I 区 5 面遺構 18 (北から) 6. 同堆積土層	-----	186
図版 3	1. I 区 2 面全景 (西から) 2. II 区 2 面全景 (西から) 3. I 区 2 面土丹検出状況 (西から) 4. I 区 4 面全景 (西から)	-----	187
図版 4	1. II 区 4 面遺構 65、66、69 (西から) 2. II 区 4 面遺構 67、68 (東から) 3. II 区 4 面遺構 67、 68 (南から) 4. II 区 4 面遺構 67、68 (東から)	-----	188
図版 5	1. I 区 5 面全景 (東から) 2. I 区 5 面柱穴検出状況 (南から) 3. I 区 5 面西側部分 (東から) 4. I 区 5 面板材・杭検出状況 (東から)	-----	189
図版 6	1. II 区 4 面遺構 2. 木組み溝部分 3. 遺構 69 西壁板検出状況 (北～) 4. 木組み溝部分 5. 遺構 65、66、69 (東から) 6. 堆積土層 (西から)	-----	190
図版 7	1. I 区 5 面全景 (東から) 2. II 区 5 面全景 (東から) 3. I 区 5 面 (西から) 4. II 区中世基 盤層上面 (東から)	-----	191
図版 8	1. 2 面銅製品出土状況 (東から) 2. 3 面かわらけ出土状況 (南から) 3. 5 面木製品出土状況 (南から) 4. 5 面白磁皿出土状況 (北から) 5. 遺構 6 礎板出土状況 (東から) 6. 木組み溝 検出の地覆材	-----	192
図版 9	出土遺物 (1)	-----	193
図版 10	出土遺物 (2)	-----	194

# 第1章 調査概観

## 第1節 調査地点の位置と歴史的環境

調査地点は鎌倉市雪ノ下一丁目 269 番地 1 地点にあり、鎌倉市の定めた「北条時房・顕時邸跡 (No. 278)」範囲内に含まれる。本遺跡は北が鶴岡八幡宮南の道路、西が小町通り、東が若宮大路、南が若宮大路から聖ミカエル教会に向かう道路までの範囲を含んでいる。

現況に沿って説明をくわえると、若宮大路に沿った本遺跡内中ほどに、三河屋酒店がある。調査地点は三河屋酒店の敷地内北側に位置し、調査対象地の東側は若宮大路西側の歩道に面している。現況で、地表面海拔は 8.82m～8.90m である。

調査地の名称にある北条時房 (1175-1240) は、北条時政の子で佐介氏を称し、大仏殿と号した人物である。奥州合戦 (1189)、畠山重忠との合戦 (1205)、和田氏との合戦 (1213) などに参加し、承久の変 (1221) の後には初代の六波羅南探題になっている。連署・相模守は元仁元年 (1224) から死没するまで勤めている。また、北条顕時 (1248-1301) は北条実時の子で引付衆、評定衆などの要職を歴任した人物である。しかし、弘安八年 (1285) に妻の父・安達泰盛が起こした霜月騒動のため下総に配流されている。父・実時の開いた称名寺を整備し、下総に配流される前に多くの領地を称名寺に寄進している。

源頼朝は鎌倉に入った直後に由比郷から小林郷北山に、由比若宮を遷している。これが鶴岡八幡宮である。由比の若宮は、源頼義が康平六年 (1063) に京都の岩清水八幡宮を勧請した社である。若宮大路は、鶴岡八幡宮の参道として治承四年 (1180) に造営した、鎌倉の中心的街路である。寿永元年 (1182) には、妻の北条政子の安産を祈願して段葛を造営している。

## 第2節 周辺の調査

本遺跡範囲内では幾つかの地点で発掘調査が実施されている。紙数の都合もあって、個々の調査結果について詳細に触れる事はできない。しかし、概要を述べると若宮大路に沿った地点では現在の若宮大路西側歩道に沿って木組み溝が確認されている。この木組み溝については若宮大路の東側でも確認されていることなどから、若宮大路の側溝とする説が有力である。しかし、東西で確認されている溝の数が異なっている事や東側で検出された木組みの一部が、御成町 763 番 5 大路の地点で検出された溝状の掘り込み内に土台角材を据えた塀に類似するなどやや疑問点も残る。若宮調査がなされていないため確証は得られないが、この木組み溝は若宮大路の東西にある屋敷や幕府を取り囲む区画溝であり、若宮大路の側溝は別に設けられたか、この区画溝が大路の排水も担っていた可能性が高いと考えている。

調査結果を概観すると、若宮大路に沿った地点 2 から地点 5 では木組み溝が検出され、少なくともこの範囲はある時期に同じ屋敷であったことが確認されている。屋敷内の様子は、各地点で掘立柱建物と多くの礎石を失った礎石建物が確認され、建物規模はわからないものの、頻繁に建物が造られていた痕跡が確認されている。注目すべき遺構としては、地点 4 で 13 世紀後半頃に作られた池状の落ち込みが、地点 5 で木組み溝の西側で囲炉裏を持つ板壁建物が確認されている。また、出土遺物は 12 世紀末あるいは 13 世紀初頭の京都系手づくねかわらけ皿が多く出土しており、この頃には開発が行われていたことを証明している。地点 5 で見つかった長屋状の板壁建物は、間接的に、若宮大路側に屋敷の門がなく、雑舎が建てられた空間であったという説を補強している。

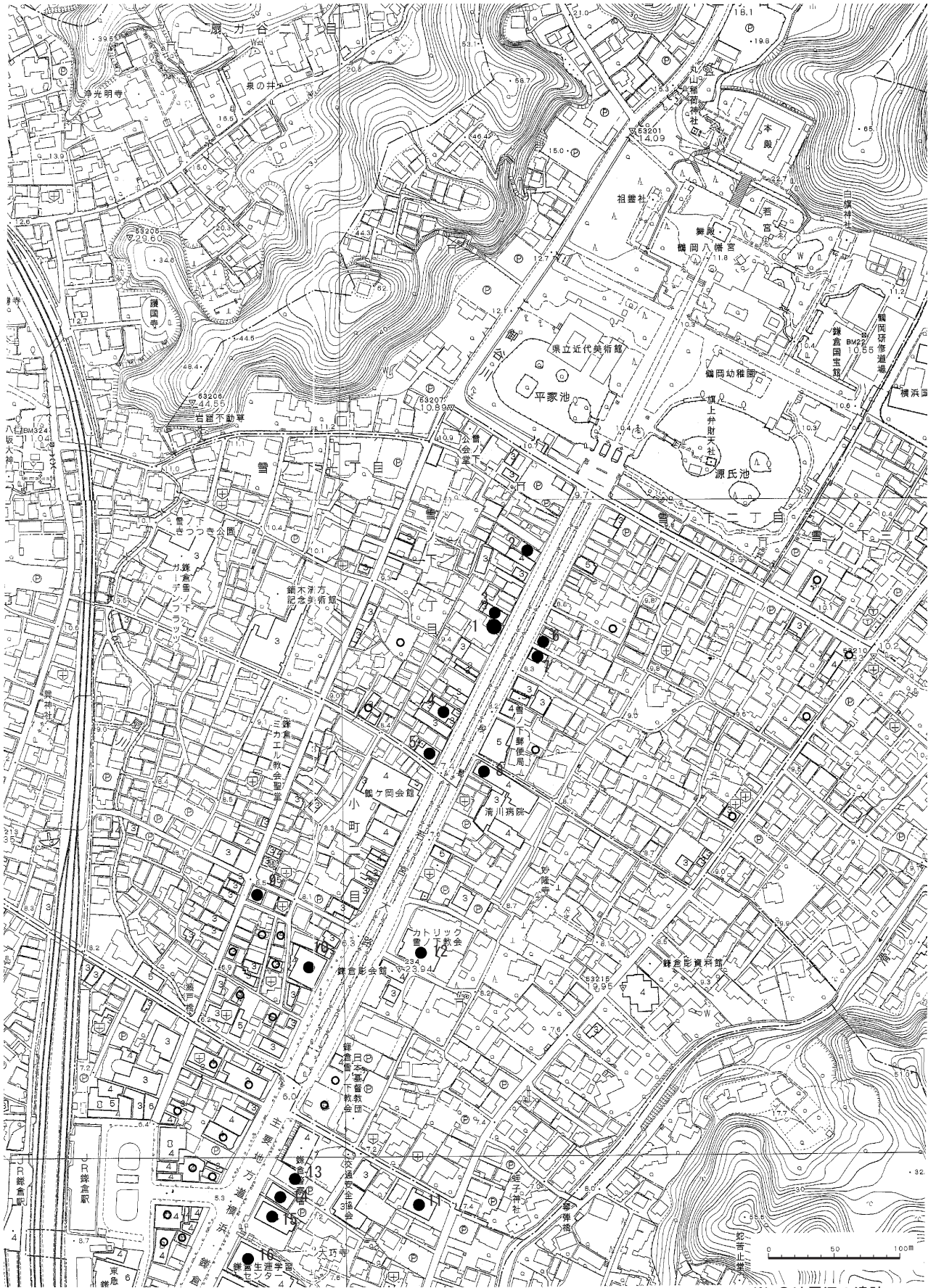


図1 調査地点と周辺の遺跡

※ ●は周辺の遺跡

- |                         |                            |                            |
|-------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. 本調査地点                | 2. 北条時房・顕時邸跡 (雪ノ下 1-265-3) | 10. 若宮大路周辺遺跡群 (豊島屋店舗用地)    |
| 3. " (雪ノ下 1-271-1)      | 4. " (雪ノ下 1-273-口)         | 11. " (小町 1-352-イ 外)       |
| 5. " (雪ノ下 1-2274-2)     | 6. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下 1-371-1) | 12. 小町 2-345-2地点 (雪ノ下教会)   |
| 7. " (雪ノ下 1-372-7)      | 8. 宇津宮辻子幕府跡 (小町 2-366-1)   | 13. 伝 藤内定員邸跡 (スイミングスクール用地) |
| 9. 若宮大道周辺遺跡群 (小町 2-5-8) |                            | 14. " (島森書店用地)             |
|                         |                            | 15. " (鎌倉中央郵便局用地)          |
|                         |                            | 16. " (新中央公民館用地)           |



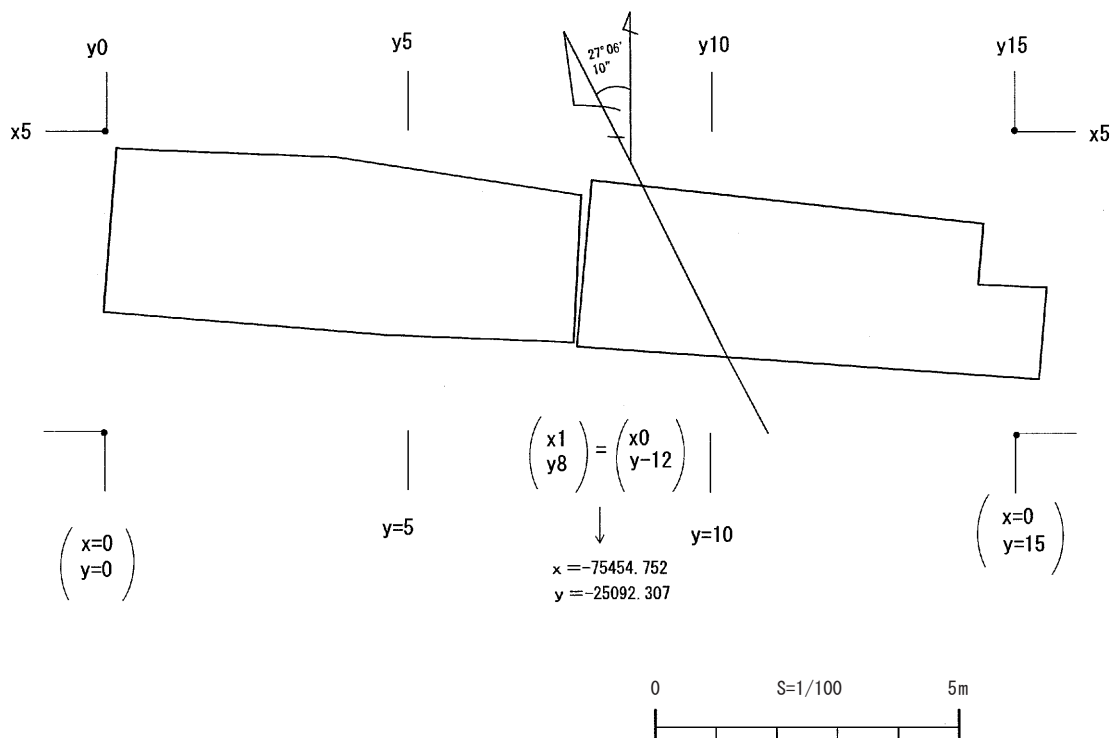


図2 調査軸設定図

時房・顕時邸の内部については、調査件数が少なくかつ地点が離れているため、屋敷の規模、建物の配置、門の位置など、全体の様相はつかめていない。また、若宮大路に沿った木組み溝が検出されていない内部の調査では、検出された複数の生活面のどれが時房・顕時邸あるいは木組み溝と同じ年代の構築物であるのか明確にすることが困難な状況である。

### 第3節 調査の経過と堆積土層

調査は個人住宅の建設に伴う事前調査として、調査を行った。調査では現地表から50cm前後を重機によって掘削し、以下を人力で掘り下げて遺構確認を行っていった。

調査にあたっては、表土・調査発生土を敷地内で処理したため、対象面積を1回で掘削する事が困難であった。そのため、対象面積を2分割して調査を行なった。便宜的に、最初に調査した部分をⅠ区、次いで調査した部分をⅡ区としている。また、Ⅰ区を埋めた発生土が崩落する危険性も考えられたので2分割した調査区間にはベルト状の未調査区を残した。

本地点で確認した土層は、中世の遺構面や包含層を一括して1層にまとめると、およそ6層の堆積土に区分できる。第1層は表土・現代造成土で地表レベルは8.90mほどである。第2層は茶褐色砂質土で近世耕作土と呼んでいる。この土層はⅠ区ではほとんど確認できなかった。Ⅱ区では、若宮大路の西側歩道の際から580cmほどで色調や土質が変化している。ここより西側では所謂近世耕作土に類似する土質であるが、東では色調は類似しているが粘土層で砂分はなく異なった土層に見える。この変化は水に浸かっていたか否かに因ると考えているが確かではない。

通常、中世の遺構や包含層は第2層の近世耕作土に覆われていることが多い。第2層が堆積する以前に中世の堆積土が一定の高さで削平されたと考えている。これは、畑あるいは水田を開墾する際の削平と考えている。

第3層は中世の生活面群である。破碎泥岩（土丹）や砂を使用した整地・版築が繰り返されている。

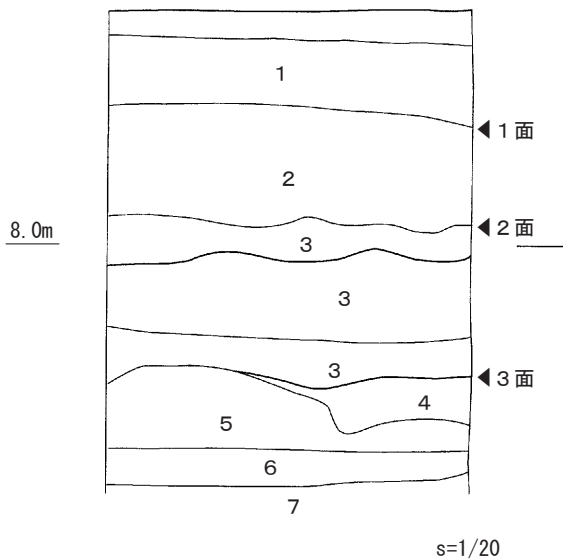


図3 堆積土層（模式図）

- 第1層 表土・造成土あるいは火災層。
- 第2層 キメの細かい茶褐色砂質土あるいは粘質土。近世耕作土。
- 第3層 遺構覆土・生活面群
- 第4層 暗褐色粘質土（中世基盤層）
- 第5層 青灰褐色砂質粘土（中世以前の遺構覆土）
- 第6層 黄褐色（砂質）粘土。
- 第7層 黒褐色粘土。

#### 第4節 調査軸の設定。

調査測量に当たっては、調査区の形状に合わせた任意の座標軸を設け、主に光波測距儀を用いて平面図の作成を行った。図2には、この任意座標軸と国土座標軸との関係を示した。本報告では、前者の座標値を用いて記載を進める。図中には示していないが、国土座標値は鎌倉市4級基準点「S111」と「S112」2点間の関係から、開放トラバース測量によって算出した。国土座標値は旧測地系に準じ、図中では任意の2点について世界測地系の値を提示した。座標値の算出には、国土地理院が公開する座標変換ソフト「Web版TKY2JGD」を使用した。

第4層が鎌倉市街地の中世基盤層である。周辺の調査では、この土層の分析で多量のプラントオペールが抽出されている。確認レベルは7.72m前後。

第6層は黄褐色（砂質）粘土層で、色調が同じでも粘性の強い地点もある。第6層に落ち込んだ遺構は人工的か否かの判断が出来なかった。周辺では人工的な溝等も確認されているが、出土遺物が少なく年代は明らかでは無い。本地点で検出した落ち込み覆土の清灰褐色砂質粘土は調査区西半分で、西に向かって大きく落ち込んでいる。第6層の下は黒褐色の締った粘土層で、大倉地域では第6層と第7層に類似する土層が交互に数層堆積することが確認されている。



## 第2章 検出された遺構と遺物

本章では、調査したⅠ区、Ⅱ区で検出した遺構を合成して提示し、それに沿って説明を加える。なお、土坑などの説明にあたっては遺物が出土している遺構を優先したが、各面で図示できる遺物の出土している遺構が少ない場合は、形状のわかる遺構については幾つか説明を加えた。

### 第1節 第1面の遺構と遺物

1面は表土下約30cm、標高8.60m前後で検出された。明確な生活面ではなく、第2層に削平されて、結果として残った面であるが、遺物取り上げ等の都合もあり1面とした。1面で検出した遺構は覆土が焼土や土丹を含むもの（覆土A）、近世耕作土を埋土とするもの（覆土B）、暗褐色粘質土で小さな土丹を含むもの（覆土C）に分かれる。このうち、確実に中世に属するのは覆土Cで、覆土Aは近世耕作土より新しい。おそらく、関東大震災頃の遺構と考えられる。

Ⅰ区で図示した遺構はすべて覆土Aあるいは覆土Bで、近世以降の構築と考えられる。Ⅱ区の遺構は土坑1基、溝2条が本期に含まれ、覆土はBである。やはり、これらの遺構も近世以降の構築と考えられる。

#### 遺構47 Ⅱ区溝（道路に沿った落ち込み）

調査区東端で検出した、若宮大路に並行する落ち込みである。Ⅱ区の南壁でみると、第2層中あるいは上部から掘り込まれている。確認規模は東西3.50m、深さ50cm弱、断面形は箱型で、調査区の東側と南北に延びる。覆土は灰褐色粘土層でわずかに炭化物を含むが柔らかく締りのない土層である。近世耕作土とされるキメの細かい茶褐色砂質土より灰色を帯びて粘性に富んでいる。第2層は、Ⅱ区では1面を覆っているが、Ⅰ区では現代の攪乱で確認できない。本遺構は、第2層の堆積中に構築された落ち込みと判断した。ほとんど遺物を含まないが、底面で中世遺物の包含層を壊して、遺物が混じっている。下端による計測では、軸方向はほぼ真北である。

遺物は少なく、5点が図示できた。図6-1~5は糸切りかわらけ皿。2、3は小皿で、3は器高が高く器壁は丸みを持つ、4は薄手タイプの中皿、5は薄手タイプの大皿。

#### 遺構49 Ⅱ区溝 47の西側

遺構47の底面で確認した、若宮大路に並行する溝である。確認規模は幅23cm~34cm、深さ3cm~9cmで覆土は灰褐色粘土層に暗褐色粘質土が混じった土層。本来2面に帰属する遺構が遺構47に上部を壊されたのか、遺構47に伴う溝か判断に苦しむが、遺構47に上部を壊された溝と判断した。溝の軸はN-10°-Eで遺構47とは異なる。

図示できる出土遺物はない。

#### 遺構50

Ⅱ区の西端で確認した土坑である。覆土はB。平面形は楕円形で、確認規模は長径87cm、短径75cm、深さ29cm、底面レベル8.23mを測る。

図示できる出土遺物はない。

#### 1面出土遺物

1面の遺構を調査中に出土した遺物をここに含めた。3点が図示できた。図6-6は糸切りかわらけ皿の薄手タイプ、7は銅銭で寛永通寶である。8は石製品の砥石で鳴滝産、石材は細粒泥岩である。

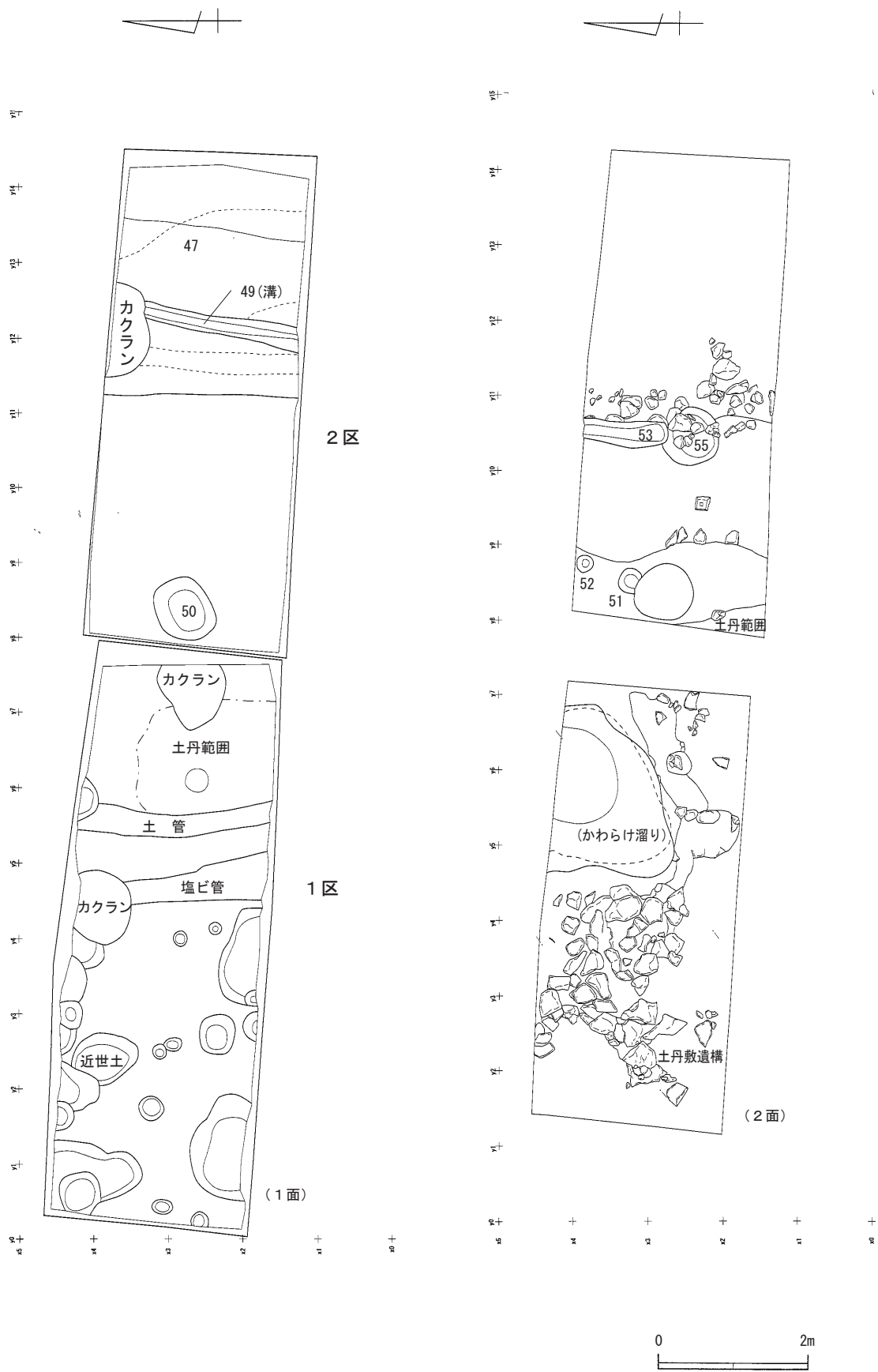
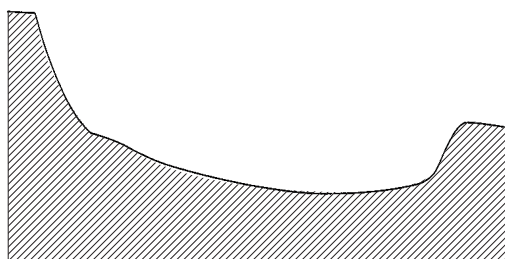
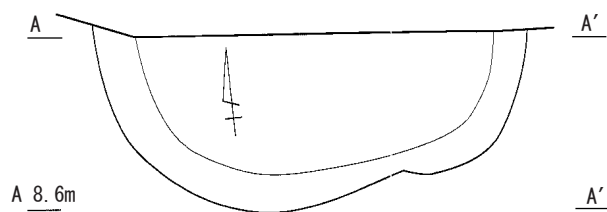
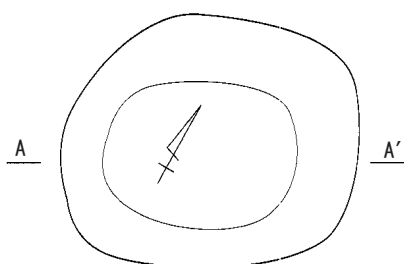


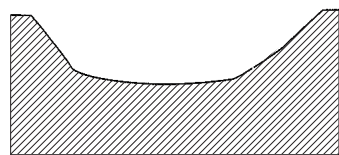
図4 1・2面 遺構全体図



遺構48

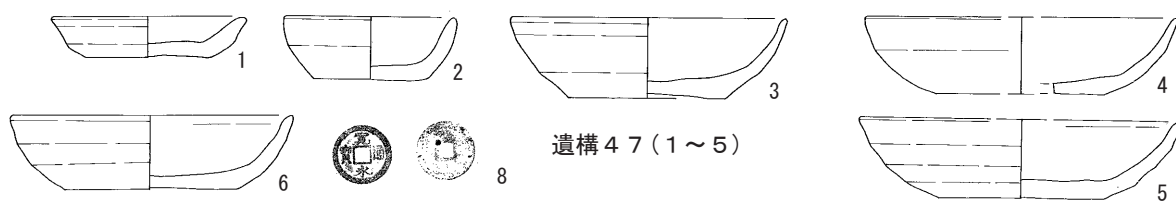


A 8.7m



0 遺構50 1m

図5 1面検出遺構



遺構47 (1~5)

0 10cm

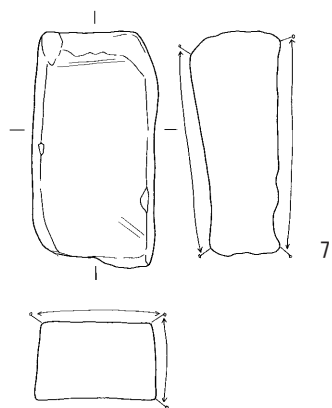


図6 1面遺構・1面出土遺物

第2節 2面の遺構と遺物

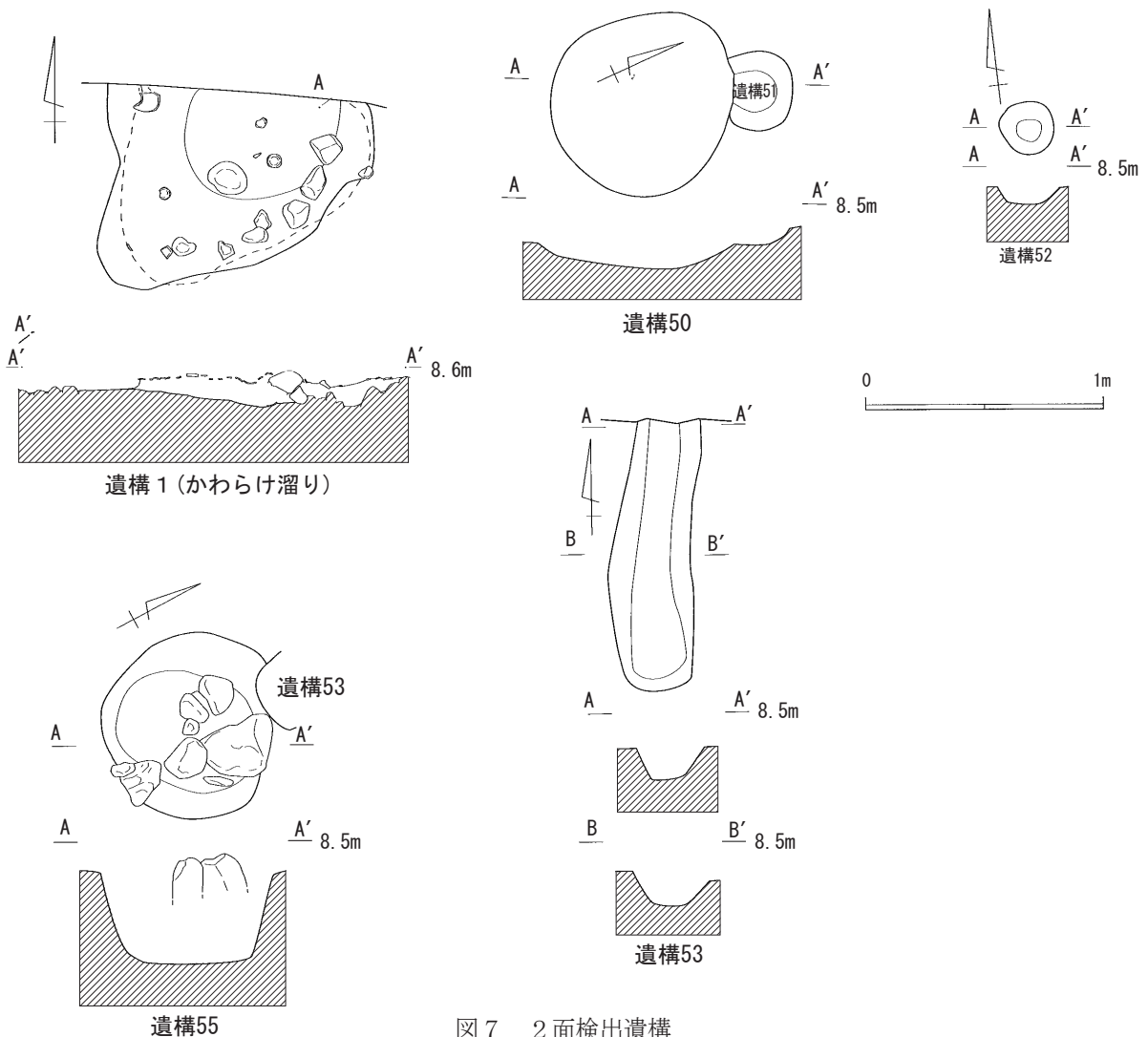


図7 2面検出遺構

2面は、1面の下約20cm、海拔8.45m前後で確認された。上面からの攪乱でかなり破壊を受けているものの、比較的大きな土丹を使用した良好な版築面で、I区は特に良好である。建物内部で検出される版築とは異なるため、建物外の版築面であろう。この面で検出された遺構はかわらけが多量に廃棄された土坑（遺構1）のほか土坑1基、柱穴7口である。II区の若宮大路側溝と位置づけられている溝は、本期には木組み溝は埋没して溝状の落ち込みが残っている。

この落ち込みは遺構として区分していないので、簡単に触れる。覆土は茶褐色砂質土で小土丹、かわらけ片、炭化物を多量に含んでいる。小土丹とかわらけ片は丸く摩滅したものが多い。流れのある水路として使用されていた痕跡と考えられる。確認規模は東西（幅）415cm、深さ80cm、底面レベル7.62m前後を測る。

#### 遺構1（かわらけ土坑）

I区の北東部で検出した皿上に落ち込む土坑で、覆土内に多量のかわらけ皿他が廃棄してある。調査区外の北に延びるため全体規模は不明。確認規模は東西215cm、南北180cmの不整形ないし楕円形で深さ55cmを測る。底面レベル6.44m。覆土は小さな土丹を含んだ暗褐色土で、かわらけ片に混じって手焙り片や雲母が出土している。また、火を受けて剥離した安山岩礎石の破片も比較的多く出土している。火災処理の一括廃棄土坑と考えられる。

1～160が本遺構の出土遺物である。図8-1は瀬戸窯褐釉天目碗の口縁部～底部で一部体部を欠損、

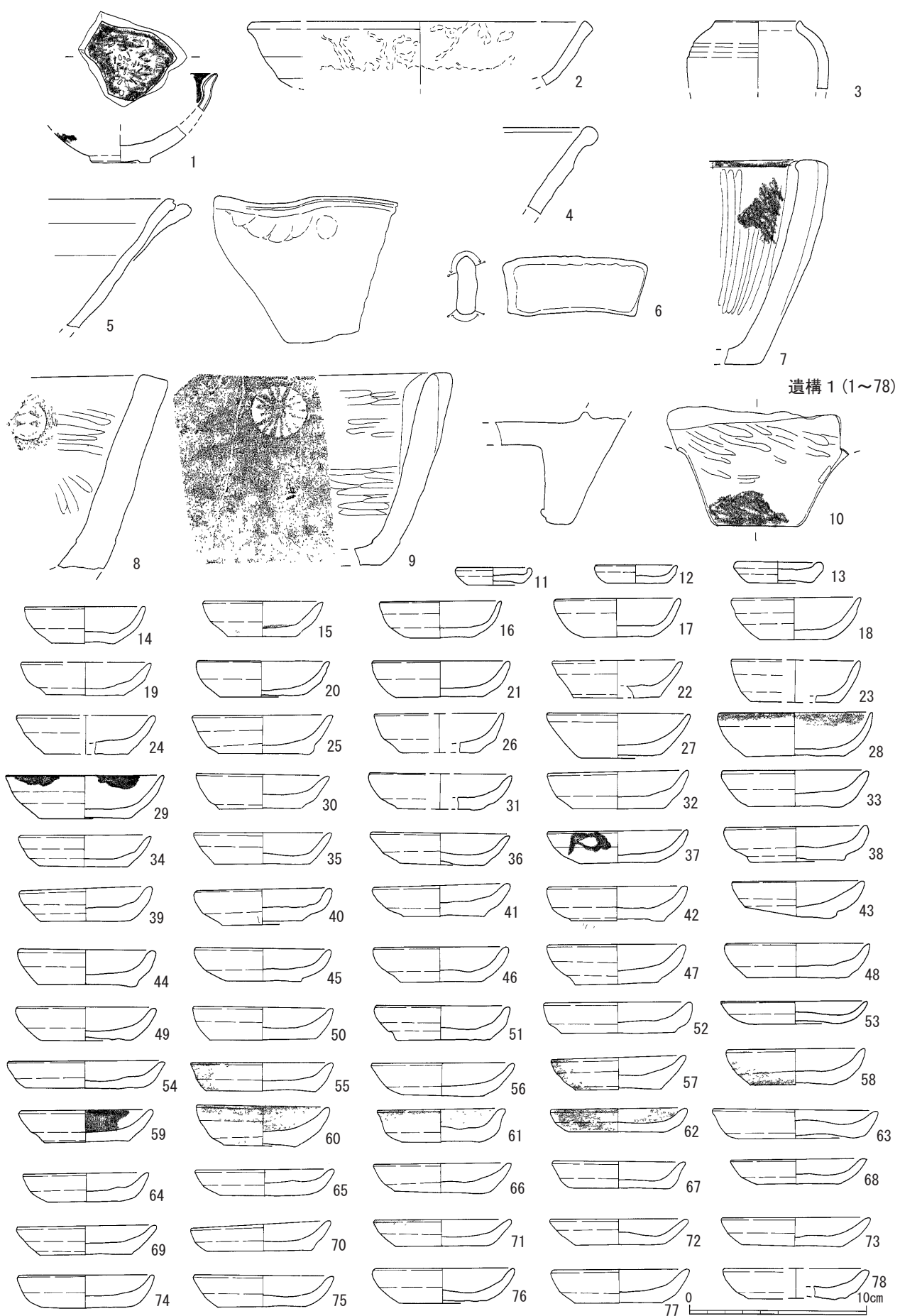


图8 2面遺構出土遺物(1)

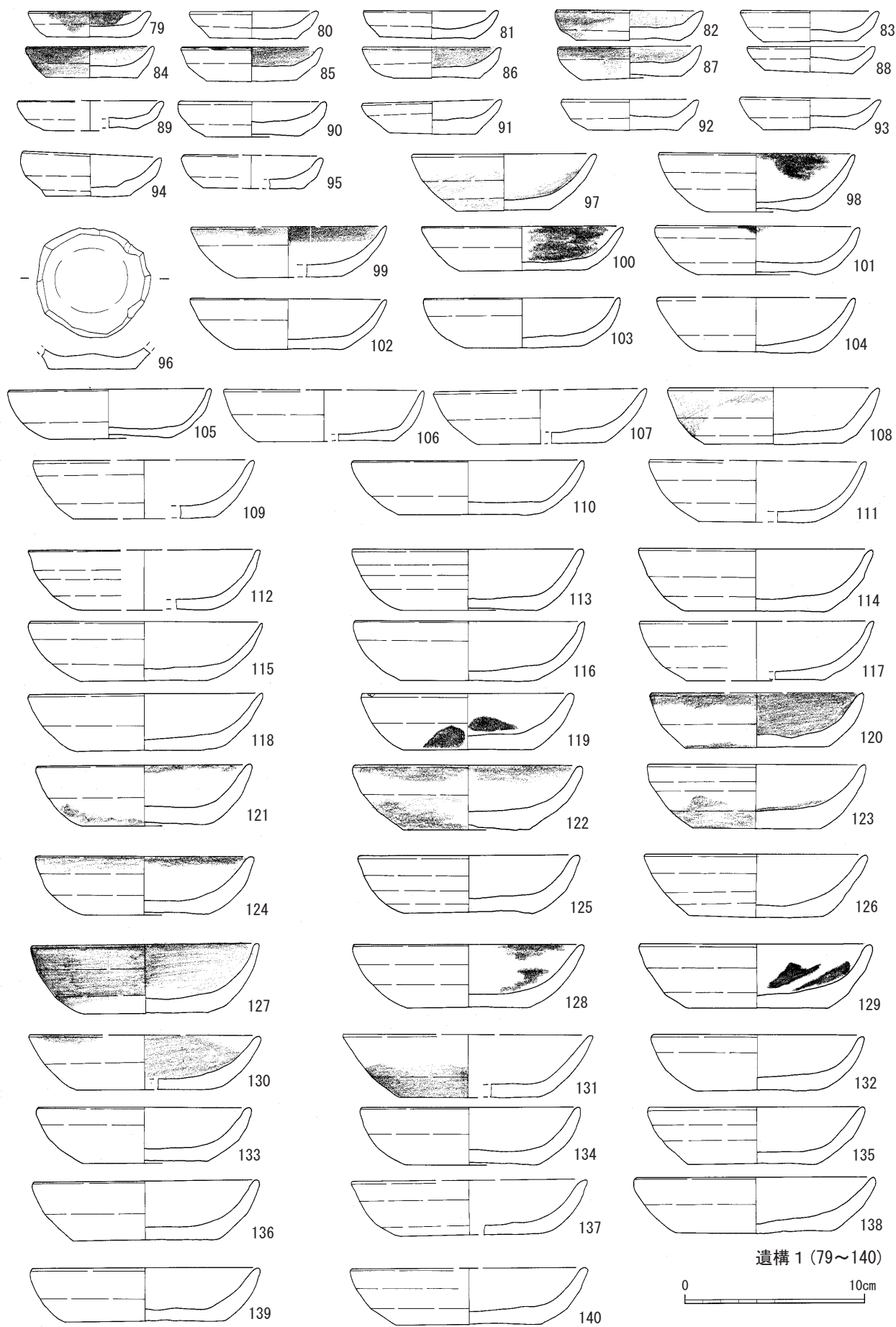
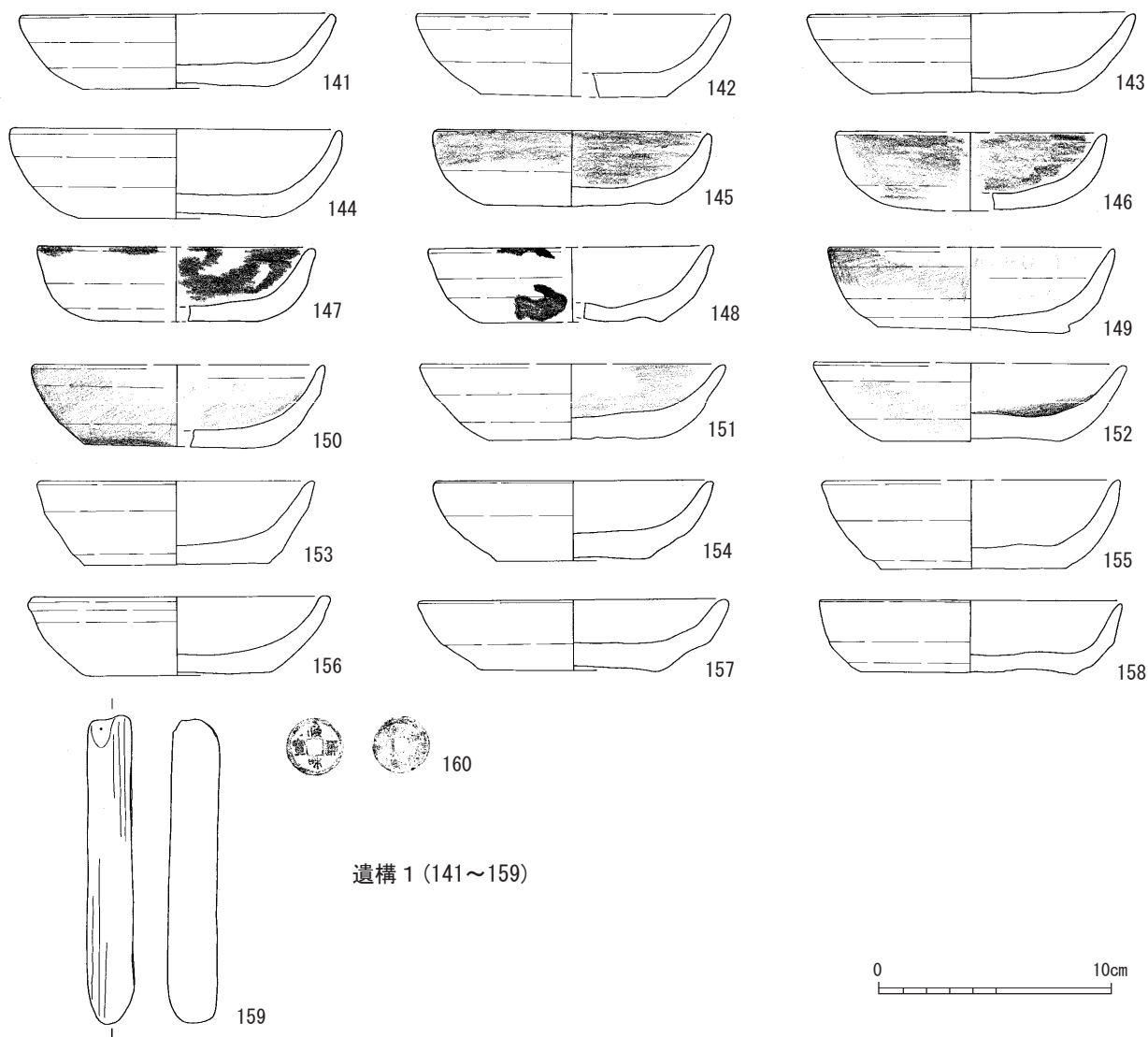


图9 2面遺構出土遺物(2) (遺構1)





遺構 1 (141~159)

図10 2面遺構出土遺物(3)

火熱を受けて光沢を失い、内面見込み部に火熱を受けた時に付着したと思われる油煙が付く。2は瀬戸窯灰釉卸皿の口縁～体部で瀬戸窯の編年では中期のIに相当、3は瀬戸窯灰釉小壺の口縁～胴部で内側に朱が付着、4、5は常滑窯捏ね鉢の口縁部で、4、5共にI類、6は常滑窯捏ね鉢で陶片に転用し2面に磨り痕あり。7～10は土器質手焙りで、7～9は口縁部～胴部で、8は口縁部付近に三鱗文が、9は菊文のスタンプが押印してある。10は脚である。11～158は糸切りかわらけ皿で、11～13はコースター皿。14～95は小皿で、15、28、29、37、55、57～59、61、62、79、82、84～87は内面、外面あるいは内外面に火熱を受けて変色している。60、71は口縁部の内外にススが付着している。96は打ち欠き、97は薄手タイプの中皿。98～158は大皿で、97、99、100、108、119～123、127～131、145～151は内外面に火熱を受けて黒いススが付着している。98、101、124、152は口縁部の内外にススが付着し、灯明皿として使用していた痕跡がある。159は木製品でへら状工具、160は銅銭で政和通寶(北宋・1111年)。

#### 遺構51

1面の遺構50に南側を壊されて検出した柱穴である。平面形は円形で、確認規模は東西34cm、南北(25)cm、深さ6cm、底面レベル8.36mを測る。

図示できる出土遺物はない。

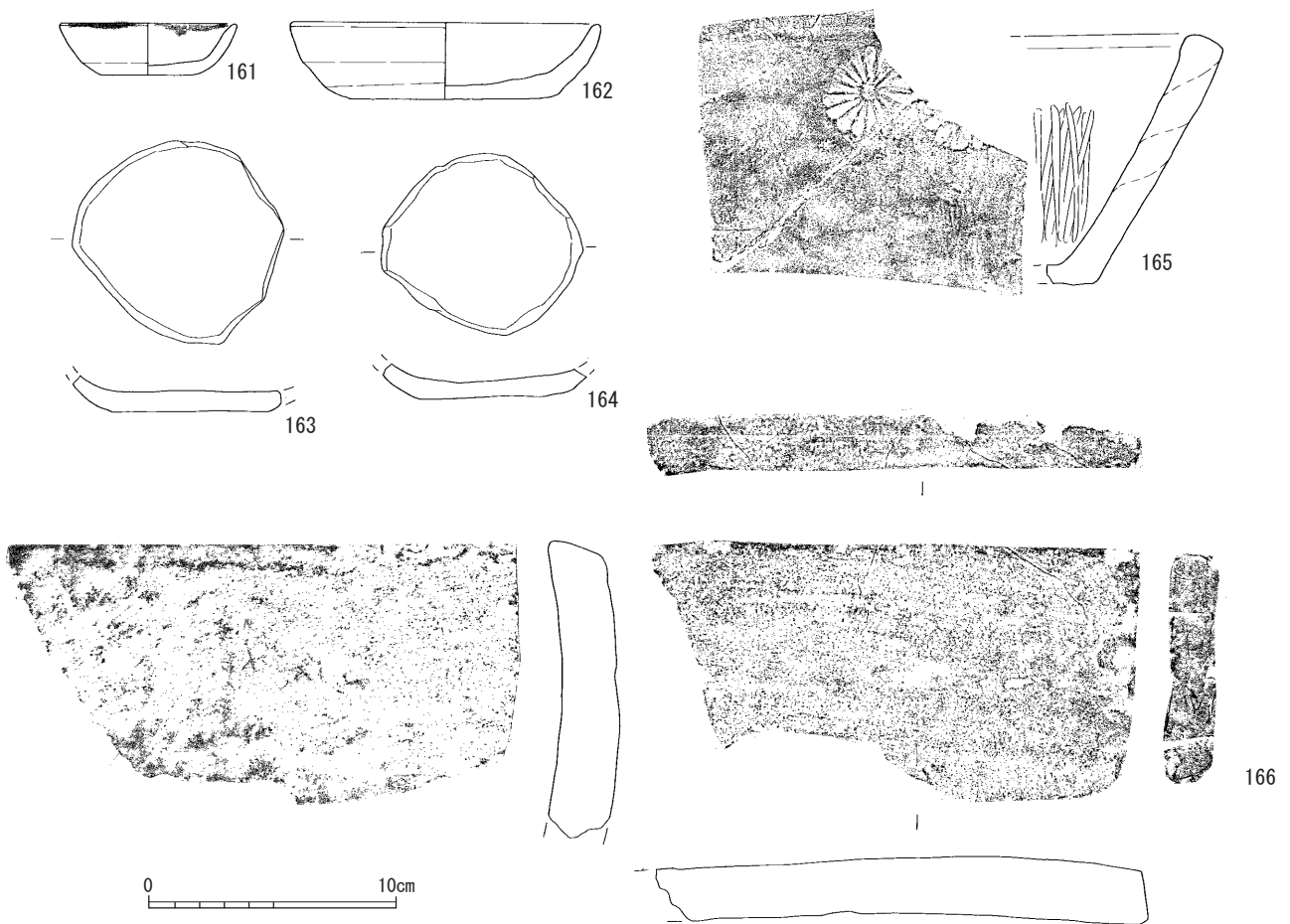


図11 2面出土遺物

#### 遺構52

遺構51の北東で検出した柱穴である。平面形は円形で、確認規模は東西23cm、南北22cm、深さ7cm、底面レベル8.36mを測る。

図示できる出土遺物はない。

#### 遺構53

1面の遺構47の西側で検出した溝状の落ち込みで、遺構55の北から始まり、調査区外の北に延びている。3面の遺構61（溝）の上端ラインと重なる部分があり、遺構61の一部を調査して番号を付けた可能性がある。

確認規模は、上幅35cm～40cm、深さ9cm～10cmで、検出長110cmを測る。底面のレベルは北端・南端ともに8.29mで、検出部分では傾斜が無い。

図示できる出土遺物はない。

#### 遺構55

遺構53の南で検出した小型の土坑である。平面形は円形で、東西78cm、南北82cm、深さ40cm、底面レベル8.0mを測る。上面は、1面の土丹版築面に覆われている。

図示できる出土遺物はない。

## 2 面出土遺物

2 面の遺構を調査中に出土した遺物をここに含めた。6 点が図示できた。図 11-161 は糸切りかわらけ小皿で、口縁部の内外面にススが付着し、灯明皿として使用痕跡がある。162 は糸切りかわらけ大皿、163、164 は打ち欠き、165 は土器質手焙りの口縁～胴部で、口縁付近に菊花文スタンプが押印されている。166 は平瓦である。

## 第 3 節 3 面の遺構と遺物

2 面構成土の下 10cm、海拔 8.0m 前後で確認した厚さ 10cm ほどの版築面上面を 3 面とした。I 区、II 区ともに版築面が広がっている。本面では I 区で土坑、柱穴が、II 南北方向の細い溝と、そこから西に延びる細い溝が確認され、その周辺から小型土坑や柱穴が検出されている。また、若宮大路に沿って構築された木組み溝が本期に出現する。言い換えると、構築された木組み溝は本面までは存在し、やがて埋没する。そして、上面の 2 期では木組みのない浅い溝になっている。

検出された遺構のうち、柱穴の遺構 58～遺構 60 については個々に説明を加えないが、径 25cm ほどの円形で深さは 20cm 前後である。検出された柱穴のうち、遺構 56、遺構 59、遺構 58 は南北に並んでおり、遺構 61 と対の施設と考えることも可能である。

### 遺構 2

I 区西壁際で検出した柱穴状の遺構である。西側の排水溝に一部を壊されている。確認規模は東西 30cm、南北 32cm、深さ 12cm、底面レベル 8.0m を測る。

図示できる出土遺物はない。

### 遺構 3

遺構 1 の南西で検出した小型の土坑である。平面形は東西に長軸を持つ小判型で、確認規模は東西 102cm、南北 72cm、深さ 10cm、底面レベル 8.01m を測る。

遺物は 4 点が図示できた。図 15-1～4 は糸切りかわらけ皿。1、2 は小皿、3 は薄手タイプ中皿、4 は大皿である。

### 遺構 56

II 区の北西部で検出した柱穴であるが、西側を別遺構に壊されて、北側調査区外に延びているため部分的な確認にとどまった。確認規模は東西(35cm)、南北(32cm)、深さ 20cm、底面レベル 8.25m を測る。平面形は円形と思われる。

遺物は 1 点が図示できた。図 15-5 は糸切りかわらけ大皿である。

### 遺構 57

遺構 62 の東で検出した土坑である。平面形は不整形で、確認規模は東西 48cm、南北 42cm、深さ 20cm、底面レベル 8.09m を測る。

遺物は 1 点が図示できた。図 15-6 は糸切りかわらけ小皿である。

### 遺構 61

若宮大路に並行方向の溝である。木組み溝の西側羽目板から 140cm ほど西に、本溝の東側掘り込み肩がある。確認規模は幅 35cm～40cm、深さ 4cm～15cm を測り、確認長さ 240cm で南北の調査区外にのびている。底面レベルは北端で 8.14m、南端で 8.0m を測り、確認部分では南に向かって流れる傾斜を持っている。南北方向は中心軸で、北から東に 2° 傾いている。

図示できる出土遺物はない。

### 遺構 62



図 1 2 3・4面遺構全体図

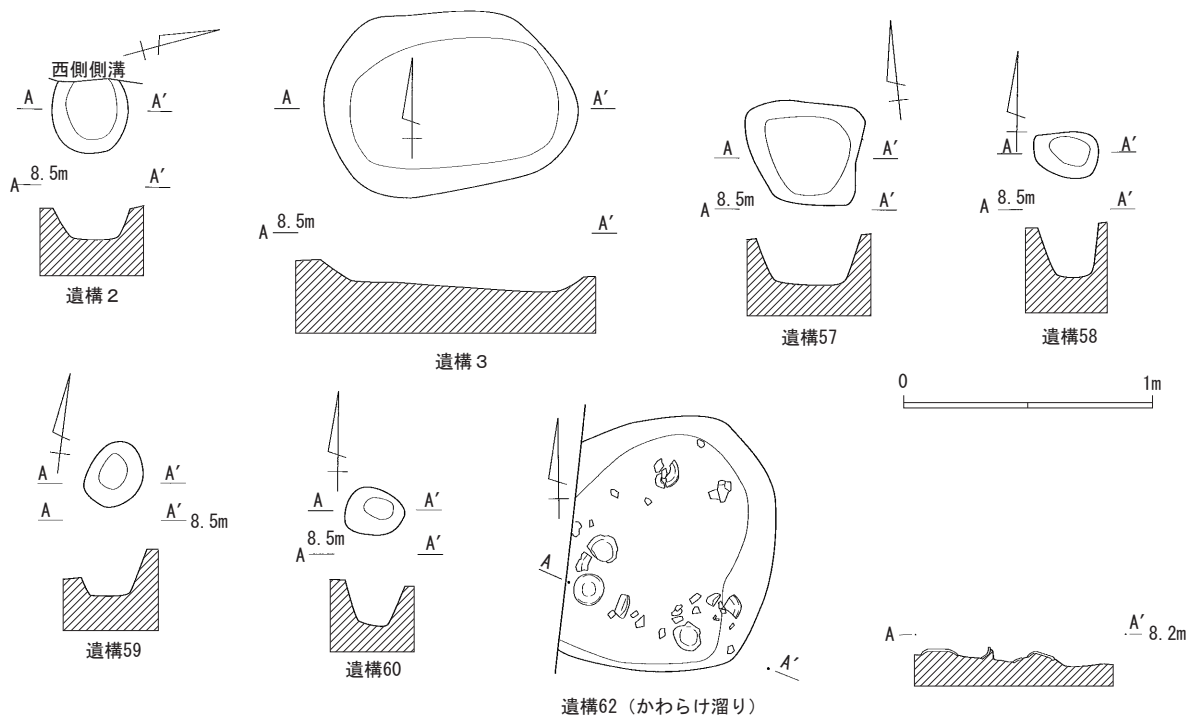


図13 3面検出遺構(1)

II区の西壁際で検出した土坑である。覆土内からは比較的多くのかわらけ皿が出土している。調査時点では「かわらけ溜り」としたが、出土量はさほど多くない。平面形は円形で確認規模は東西(83cm)、南北103cm、深さ20cm、底面レベル8.06mを測る。

遺物は4点が図示できた。図15-7~10は糸切りかわらけ大皿で、9、10は薄手タイプである。

**遺構63**

II区の北西隅近くで検出した小型土坑であるが、大部分が調査区外にあるために平面形や深さは正確に確認できなかった。確認部分では、東西48cm、南北(22cm)、深さ21cmを測る。平面形は楕円形と推測できる。

図示できる出土遺物はない。

**遺構64**

遺構61に合流する東西方向の溝である。I区に向かって底面が高くなり、II区の西壁際で遺構62に壊され、I区では消滅して確認できなかった。確認規模は幅17cm、深さ5cmで、底面レベルは東端で8.19m、西端で8.21mを測る。確認部分では西から東に向かって下る傾斜である。

図示できる出土遺物はない。

**遺構65 (遺構66、遺構69も同じ)**

II区東側で、若宮大路に並行方向で確認された溝である。確認した東西の地山に掘り込まれた最大幅は380cmで、遺存する横板、杭、角材、底面に残る段差で、少なくとも4回の作り変えあるいは改修が考えられる。以下、説明を加えるが、あくまでも区分は使用中の溝内に不要な杭や板材は無いという前提で行なっている。本来であれば、4回の作り変え・改修が本期から5期にかけて帰属すると思われる、各期において説明を加えるべきであろうが、煩雑になるためここでまとめて説明を加える。本期には3回目あるいは4回目の溝と考えている。

最も初期の溝は調査区東端から180cm(若宮大路西側歩道の西際から3.71m)離れて東壁の痕跡が底面に残る。この落ち込みは8cmほど残り、幅158cmを測る。柱穴などの痕跡は確認できなかった。底面レベル6.89mを測る。

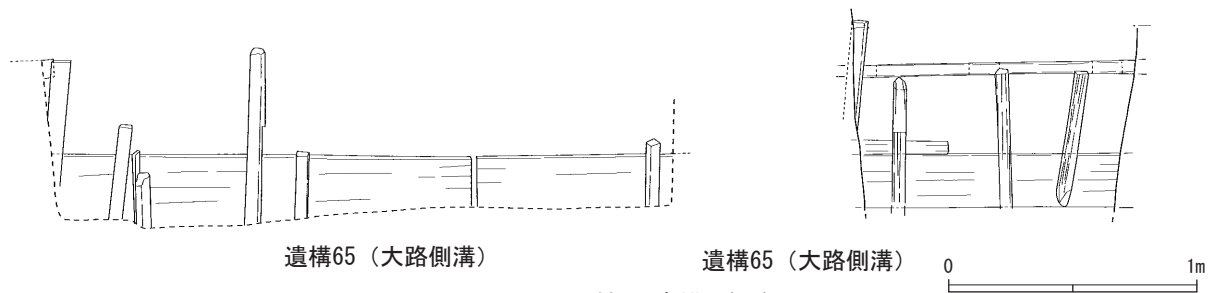


図14 3面検出遺構(2)

2回目の溝は、調査区東端から25cm(同、218cm)離れて東壁の木組みが検出された。木組みは、上段の角材(ホゾ穴有り)と羽目板の一部である。羽目板は掘り込み壁から20cmほど西にあり、上段の角材の直下ではないが、これは角材あるいは羽目板が土圧などの影響で動いたと考えている。羽目板の西(内)側には角杭が4本打ち込まれ、補強の痕跡も伺える。これに対応する西壁は検出できなかった。改修の際に失われた可能性もある。角材は上下8cm、幅12cmで上面レベル7.56m。上面は、底面から58cm上に位置する。幅3cm、長さ12cmのホゾ穴が37cm間隔で木材を貫いている。羽目板は上下20cm、厚さ3cmで上面レベル7.19m。角杭は最も高い杭で7.75mを測る。東側の地山に残る掘り込みと角材の関係から、最大幅380cmの溝掘り方は2回目の溝に対して掘られたと考えられる。また、この掘り込みに並行して、溝の西側に深さ60cm、幅70cmの落ち込みが作られている。調査区南壁では、この落ち込み底面から20cm上に東西方向の角材痕跡が確認できた。これが羽目板の引き材痕跡と考えられる。痕跡の上面レベルは7.59mで底面より62cm高い。

3回目の溝は、調査区東端から370cm(同、562cm)離れて西壁の木組みが検出された。木組みは羽目板と角杭である。羽目板は2枚が検出された。南側の板は上下28cm、厚さ1.5cmで長さ168cmが検出され、調査区外南に延びている。北側の板は南側の板と2cm離れて、上下24cm、厚さ1.5cmで長さ78cmが検出され、調査区外北に延びている。角杭は南側の板内側に2本、北側の板内側に1本が打ち込まれている。板の上面レベルは7.01m~7.05m、杭の上端レベルは最も高い杭で7.04mを測る。

4回目の溝は、調査区東端から80cm(同、273cm)離れて東壁の木組みが検出され、そこから234cm離れて検出した角杭を西壁と判断した。東側の木組みは底面から21cm高い位置で検出された上下5cm、厚さ8cmの角材とその内側に打ち込まれた角杭2本である。角材の南端は中世段階で切断されたと思われるが確かではない。ホゾ穴は確認できなかった。上面レベル7.27m。角杭は幅5cm、厚さ6cmで最も高いレベルは底面から57cm、7.55mを測る。2本の杭は、底面近くで40cm離れている。西側の杭は幅5cm、厚さ8cmで、東側の杭と対称関係にないが、底面では40cm離れて打ち込まれている。最も高い杭のレベルは底面から70cm、海拔7.47mを測る。

以上をまとめると、まず幅158cmの南北方向の溝があり、次いで、2回目の掘り方幅370cmの木組み溝(規模不明)が造られる。この溝はホゾ穴を持つ土台角材が使用され、西側に羽目板の引き材が設置された良好な溝である。その後、3回目の土台角材を伴わない羽目板と角杭の溝になり、この姿で中世は使用されている。

遺物は多量に出土している。溝の区分で出土遺物を分けると、図15-11~35は1回目の溝(遺構65)、図15-36~71は2回目の溝(遺構66)の出土である。

図15-11は瀬戸窯灰釉折縁鉢の口縁~胴部、12は魚住窯捏ね鉢の口縁~胴部、13~20は糸切りかわらけ小皿で、17、18は内外面に火熱を受け変色し、18、20、21は口縁部の内外面にススが付着し、灯明皿として使用されている。21は薄手タイプ中皿、22~29は糸切り大皿、30は穿孔かわらけで、底部中央付近に1穴あけられている。31~35は瓦で、31は軒丸瓦、32・33は軒平瓦、34は平瓦、35は平瓦で火熱を受けている。



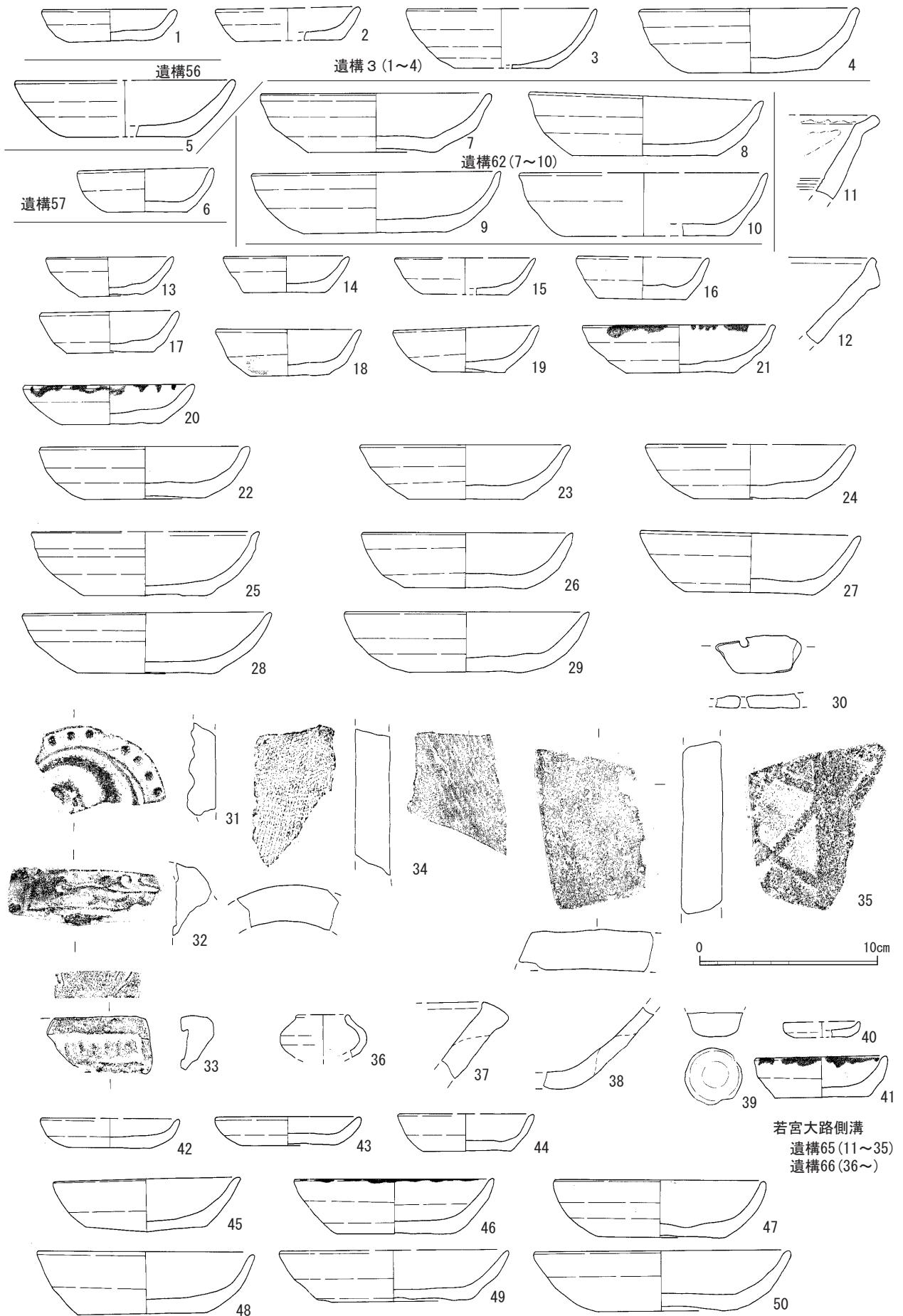


图 15 3面遺構出土遺物 (1)

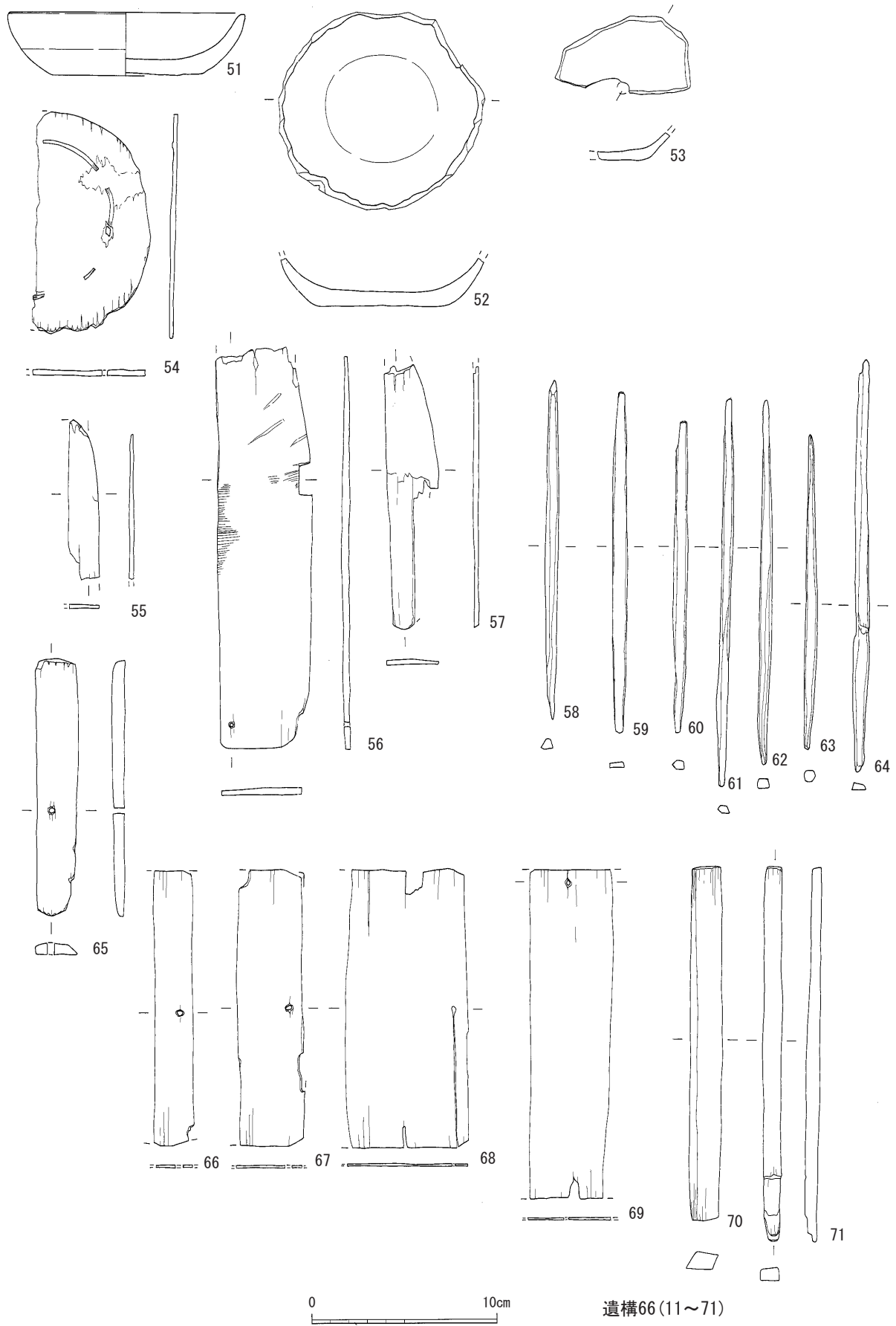


图16 3面遺構出土遺物(2)

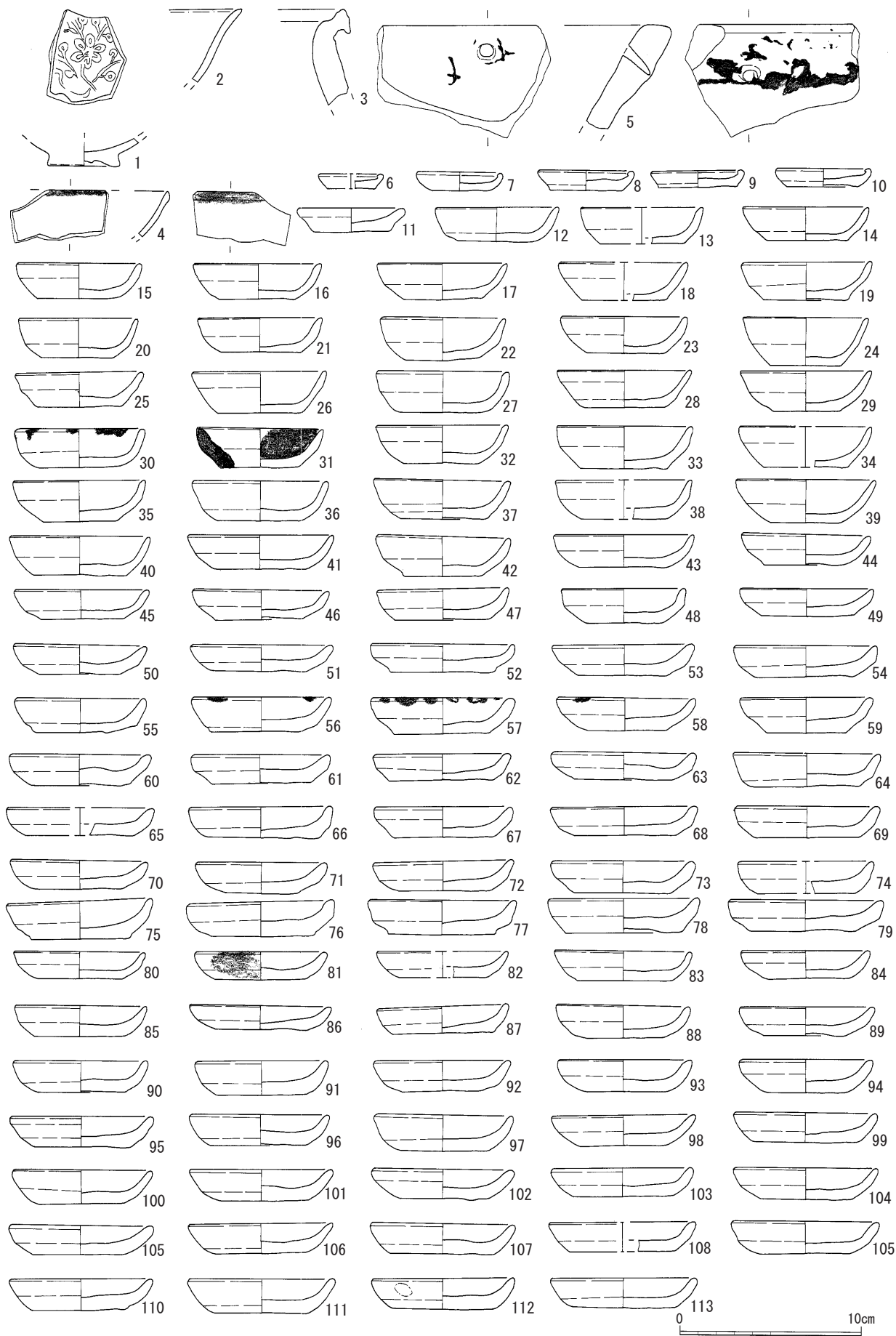


图 1 7 3 面遺構出土遺物 (3)

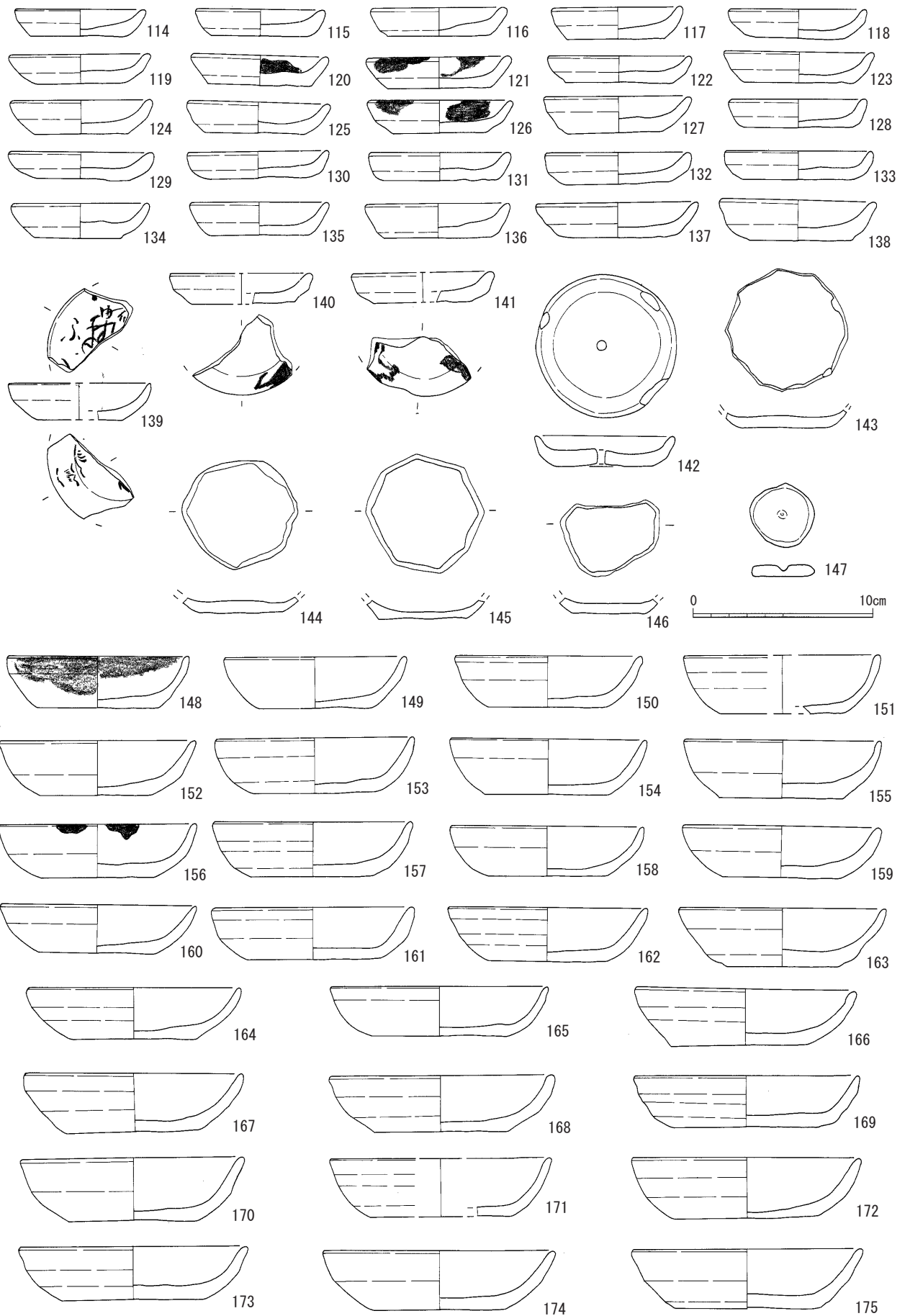


图 18 3面遺構出土遺物 (4)

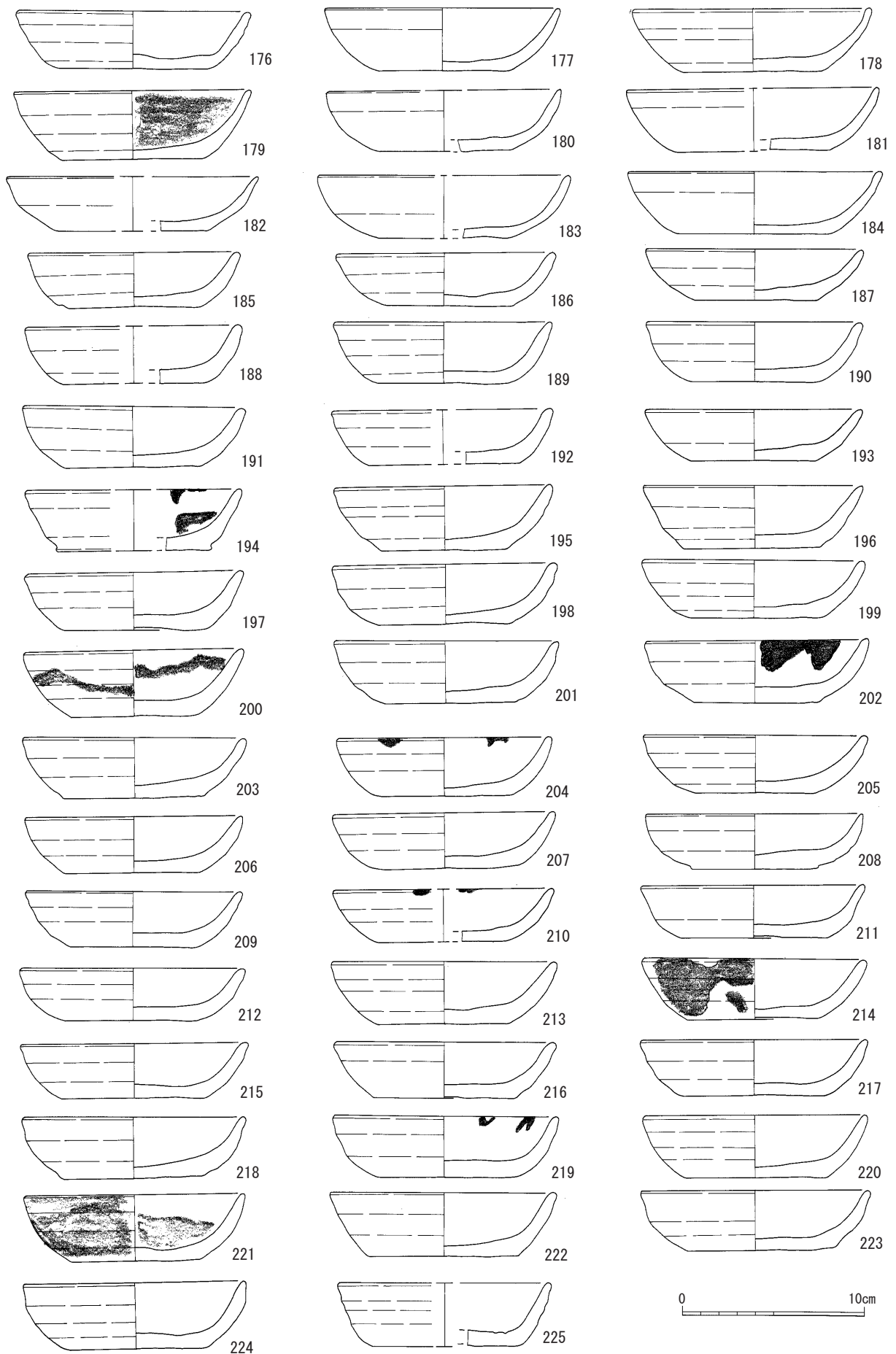


图 19 3面遺構出土遺物 (5)

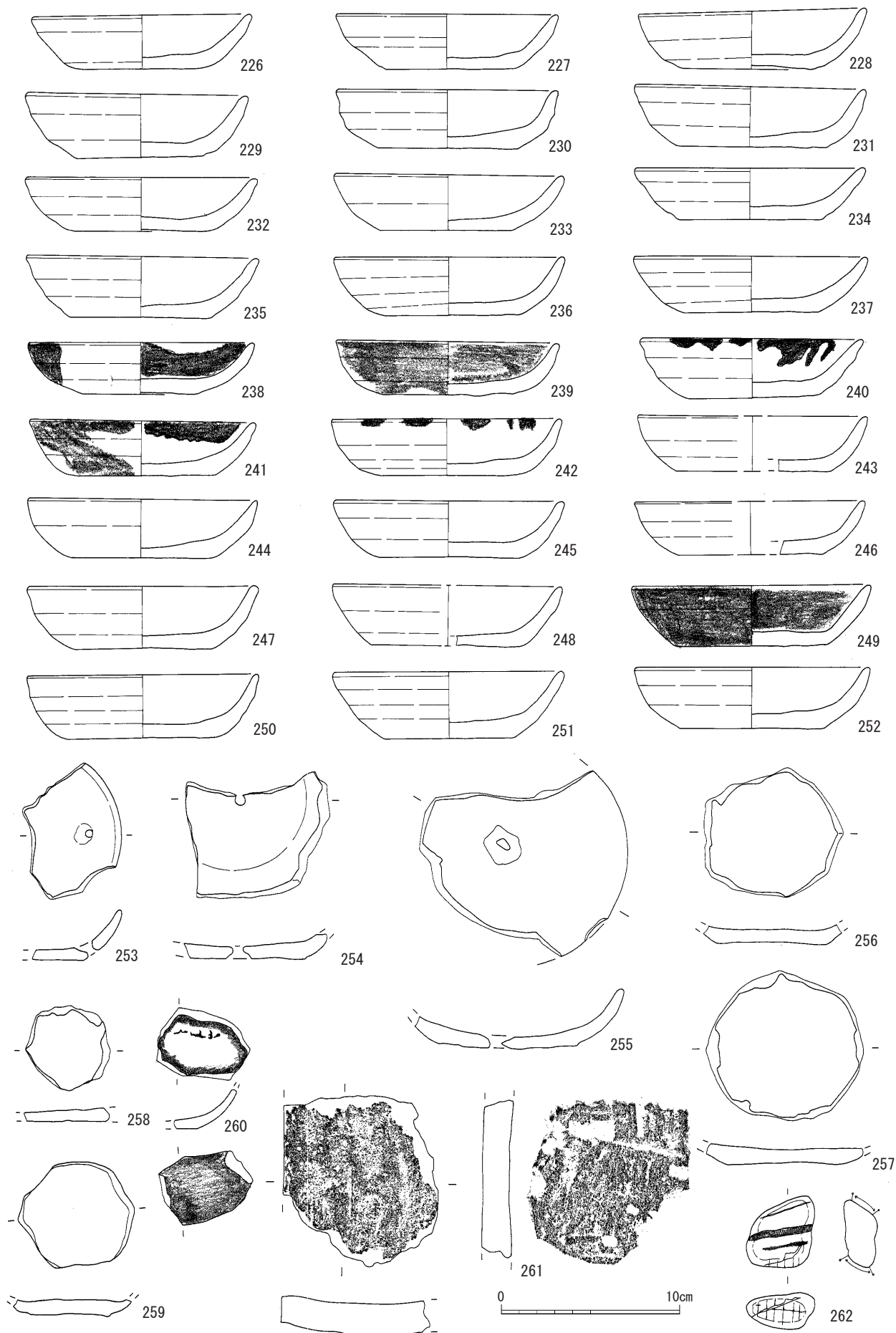


图 20 3面遺構出土遺物 (6)



図15 - 36は瀬戸窯灰釉小壺、37は常滑窯捏ね鉢の口縁部Ⅱ類、38は山茶碗窯捏ね鉢の胴部、39は瓦質火鉢の脚、40はコースター。41～44は糸切りかわらけ小皿で、41は内外面にススが付着し、灯明皿として使用の痕跡あり、44は薄手タイプ、45は糸切り薄手タイプ中皿、46は口縁部内外面にススが付着し、灯明皿として使用の痕跡あり。47～53は大皿で、49は薄手タイプ、52は打ち欠き、53は穿孔かわらけで底部中央に1穴穿孔があげられる、。54～71は木製品である。54は曲げ物、55～57は草履芯で56の一部には藁の痕跡が残る。58～64は木製品の箸、65～69は箱物の部材で、66・67は中央付近に丸釘を打ち込んだ穴が残る。69は上部に釘穴が1穴残る。70、71は建具部材。図17 - 1は舶載品青白磁碗の底部で、内面見込み部に梅らしき文様が型押しされている。2は同じく舶載品の白磁口元皿の口縁～体部、3は常滑窯甕の口縁部で年代は13世紀中頃、4は黒縁瓦器碗の口縁部、5は瓦質手焙りの口縁部、6～11はコースター皿。12～138は糸切りかわらけ小皿で、31、81、121、126は火熱を受け、30、56～58、120は口縁の内外にススが付着し、灯明皿としての使用痕跡が残る。139は内外面に墨書が残るが判読不明。140～142、147は穿孔かわらけで、いずれも底部中央に1穴があげられているが、147は貫通していない。

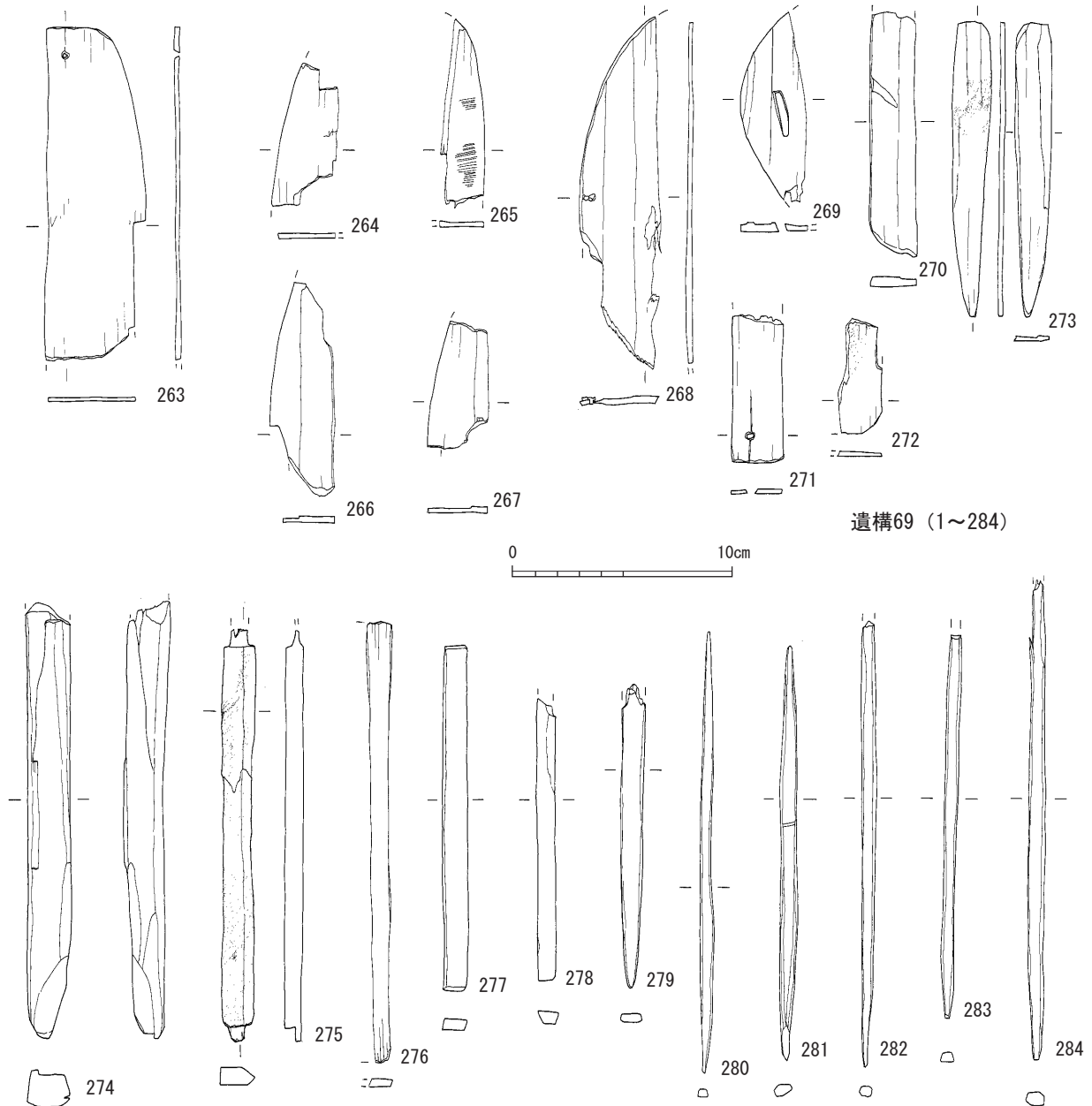


図2 1 3面遺構出土遺物 (7)

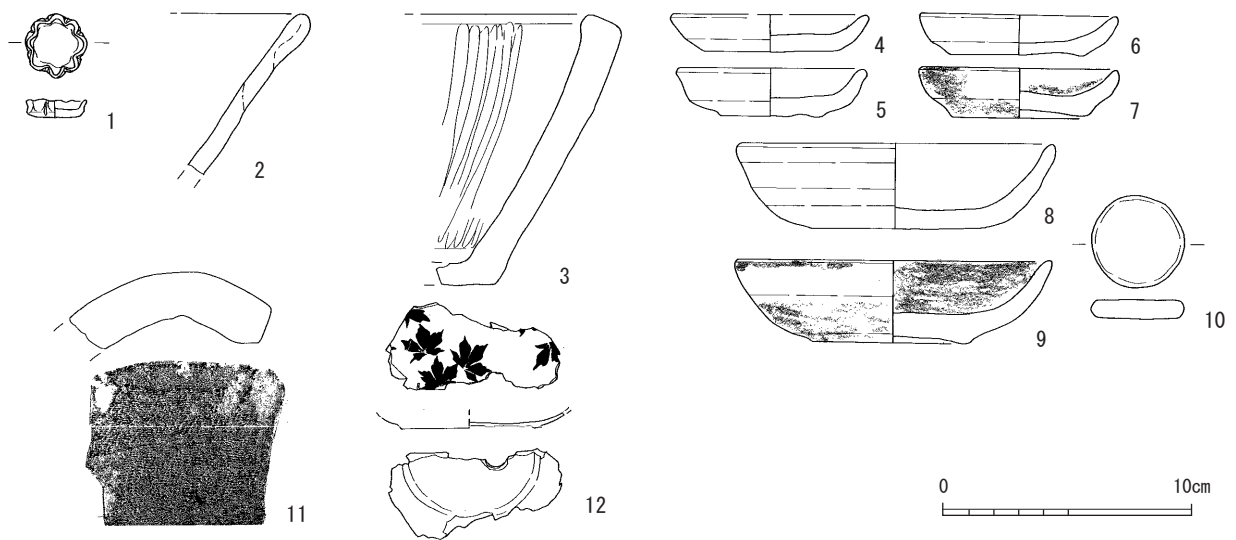


図22 3面出土遺物

144～146は打ち欠き、148、149は薄手タイプ中皿で、148は内外面が火熱を受けている。150～252は大皿で、156、204、210、240～242は口縁の内外にススが付着し、灯明皿としての使用痕跡があり、178、194、200、202、214、219、221、238、239、249は器面の内外面に火熱を受けている。252～255は穿孔かわらけ、256～259は打ち欠き、260は薄手かわらけ大皿で内面に黒色系漆が付着、261は平瓦、262は川原石で、摩滅し紐のようなもので結んだ痕跡あり。263～284は木製品である。263～267は草履芯の一部、268は曲げ物等の底板、269は飲食器の一部、270は用途不明品、271は箱物の部材の一部で下部に木釘の穿孔あり、272は用途不明、273はへら状製品、274は杭、275は建具の部材、276～278は用途不明、279は串状製品、280～284は箸である。

### 3面出土遺物

3面の遺構を調査中に出土した遺物をここに含めた。12点が図示できた。図22-1は瀬戸窯灰釉輪花型入子、2は山茶碗窯捏ね鉢の口縁部～胴部、3は土器質火鉢の口縁～底部にかけての一部。4～9は糸切りかわらけ皿で、4～7は小皿。7は内外面に火熱を受けている。8、9は大皿で、9は小皿と同様に内外面に火熱を受けている。10は円盤状土製品、11は丸瓦、12は漆器皿で、内外面に黒色系漆が塗られ、内面には赤色系漆で楓文が描かれている。

### 第4節 4面の遺構と遺物

4面は、I区・II区ともに土丹を私用した版築面は検出されなかったが、キメ細かい砂層あるいは貝片を多く含んだ褐色砂層を面と考えた。海拔はI区が8.02m、II区が7.92m前後である。本期には若宮大路に並行する木組み溝の2回目が伴うと考えている。

遺構は、若宮大路に沿って木組み溝があり、それに合流する細い木組み溝が東西に走って、何らかの区画を造っている。東西溝の北側には礎板を持つ柱穴列があり、ここに塀が作られていたと考えられる。

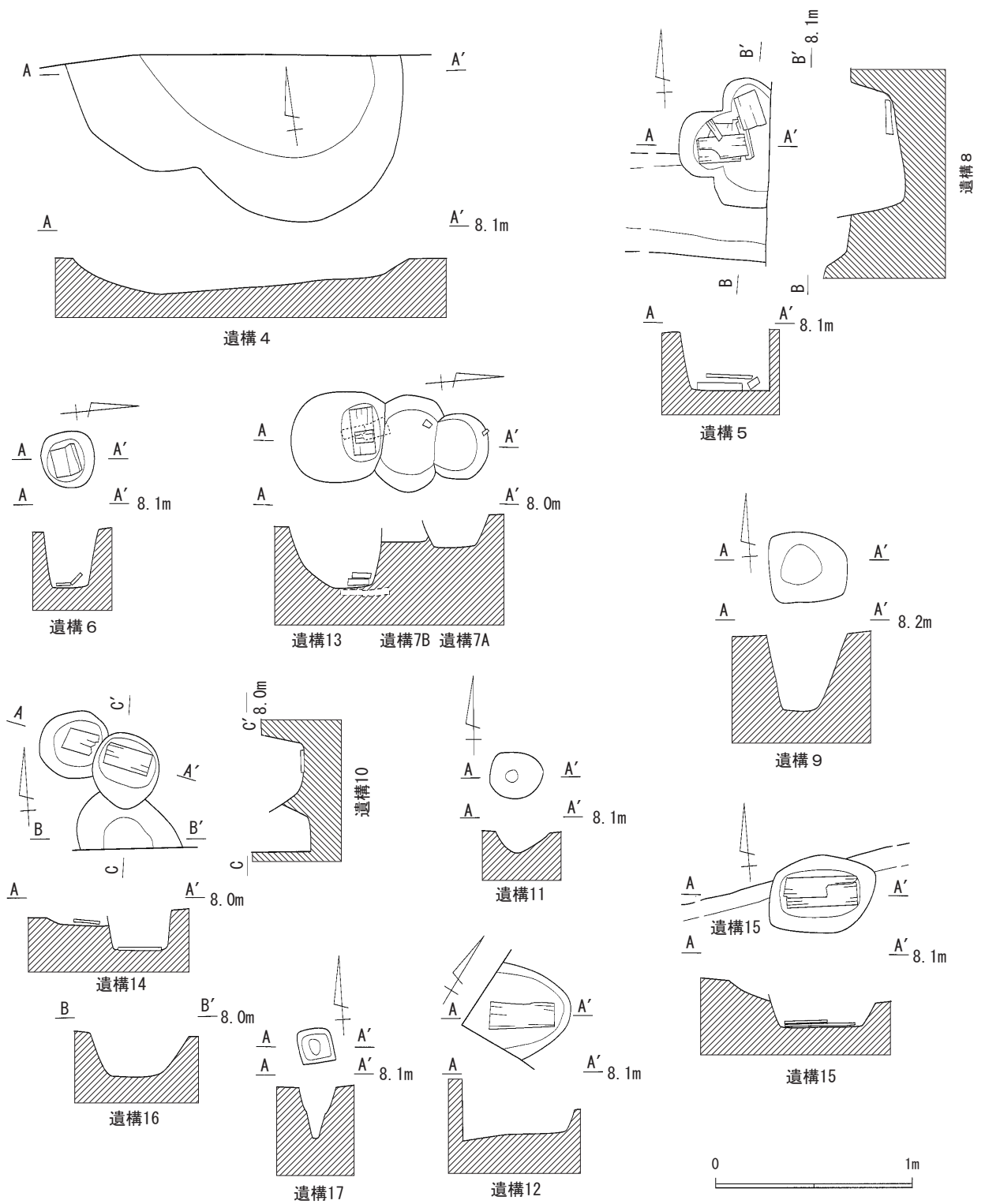


图 2 3 4 面檢出遺構 (1)

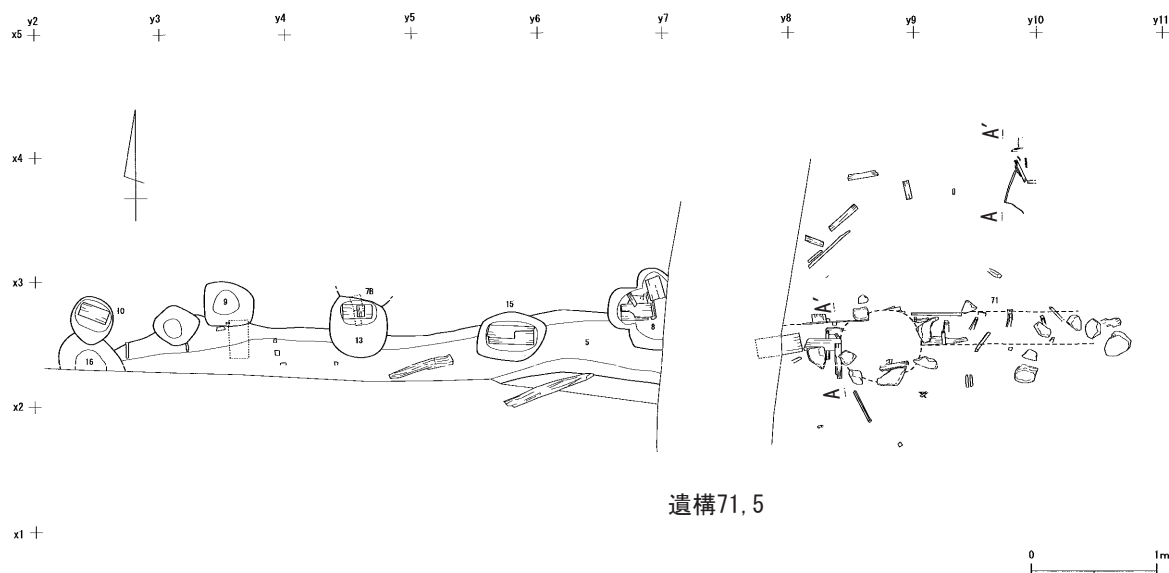


図 2 4 4 面検出遺構 ( 2 )

#### 遺構 4

I 区北東際で検出した土坑である。調査区外北に延びている。平面形は不整形円で、確認規模は東西170cm、南北(85cm)、深さ14cm、底面レベル7.81mを測る。

遺物は多く、20点が図示できた。図25-1~20は木製品である。1,2は円盤状木製品、3は栓、4は毬杖の球、5~7は部材で6は中央より上部に木釘1本、7は鉄釘が2本残っている。8~10は串状木製品で、9は先端部にこげ痕あり、11は用途不明品、12~15は箸、16,17は板草履芯、18~20は下駄である。18~20は全て一木造りである。20は歯の部分が高より、高い造りのものであり、こげ痕が残る。

#### 遺構71 (遺構72はこれに重なる灰茶褐色貝砂の部分、I区では遺構5)

I区からII区にかけて東西方向に確認された、横板を杭で留めた構造の溝である。遺存状態は極めた悪い。同一の遺構と考えたが、II区では東側の木材の残りが悪く、I区(遺構5)ではほとんど木材が確認できなかった。

I区で見ると、掘り方は上幅50cm前後で、断面形はやや崩れた箱型を呈し、深さ9cmを測る。底面レベルはI区の東端で7.88m、西端で7.85m。確認部分では西が僅かに低い。

II区で検出した木組みは、横板の全面に幅3.5cm、厚さ2.5cmほどの角材を打ち込んで固定する方法で造られている。杭は23本が検出され、内22本は上端が焼け焦げている。横板は2枚と、痕跡1箇所が確認されているが、痕跡を除いて元位置を失っている。横板に明瞭な焼け焦げは確認できなかった。杭の位置から溝幅を復元すると、溝幅は35cm~40cmとなる。深さは、杭の残存部が溝の深さと仮定すると、東で7cm、西で6cmを測り、I区で確認した深さと大きな差はない。木組みに対する掘り方は確認できなかったが、これは基盤層の貝片を含む褐色砂層が溝内に崩れこんで壁を確認できなかったためと考えている。溝の流れる方向は、確かでは無いが、東から西に向かっていた可能性が高い。東西方向は、I区の掘り方の屈曲を置いて、II区の杭列他で計測すると、北から西に91度傾いている。

遺物は27点が図示できた。図27-21は瀬戸窯灰釉洗の口縁~胴部で、瀬戸窯編年の前期Iに相当、22は糸切りかわらけ小皿、23は糸切りかわらけ大皿。24~38は木製品である。24は用途不明品で八角形を呈し、中央部分に穿孔あり。25は毬杖の球である。26,27は草履芯、28は折敷。29,30は用途不明品で下部が火熱を受けている。31,34は板状製品、32は角柱状のもの、33は杭、35~38は箸、39~43は糸切りかわらけ小皿、45~47は大皿である。

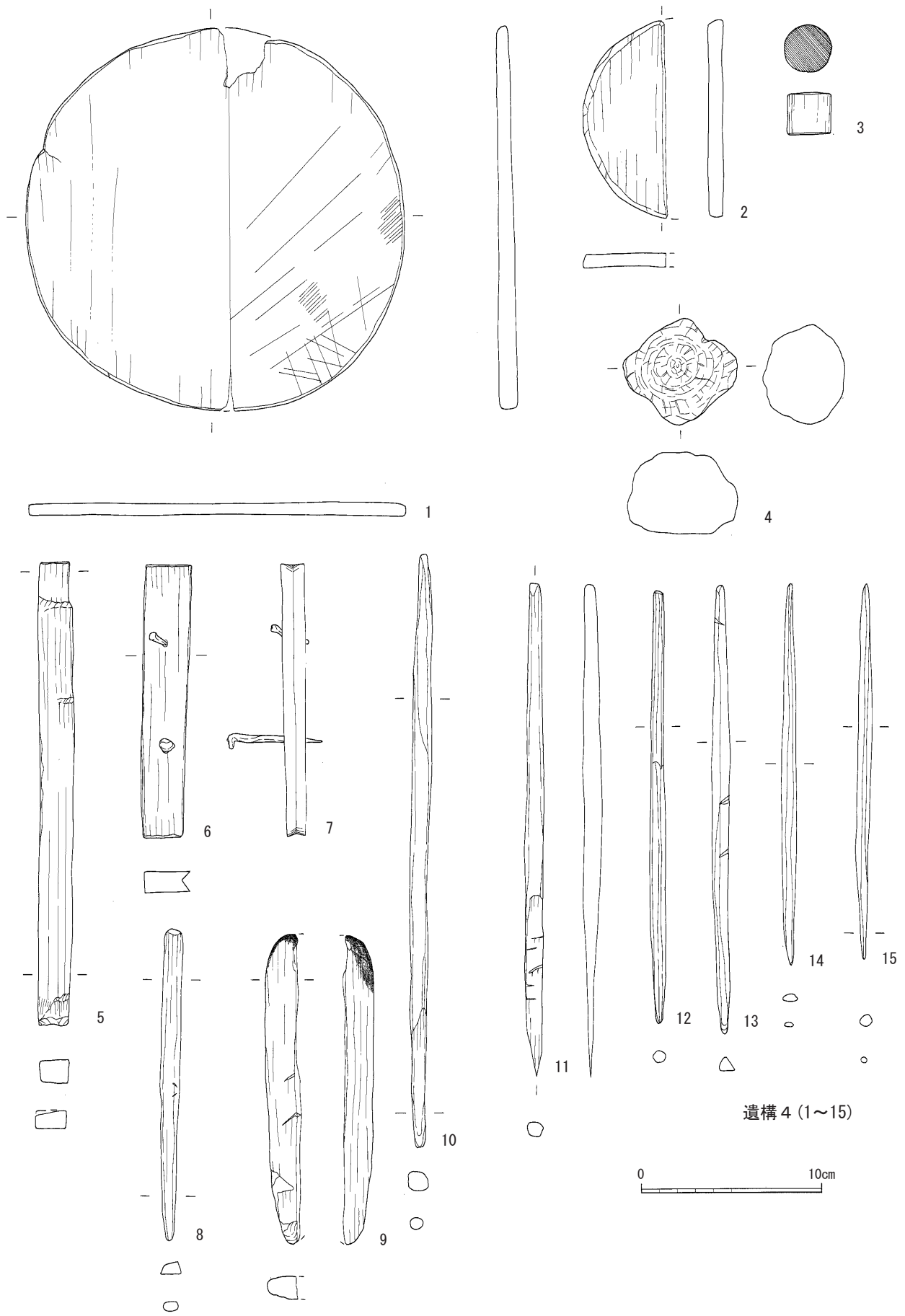
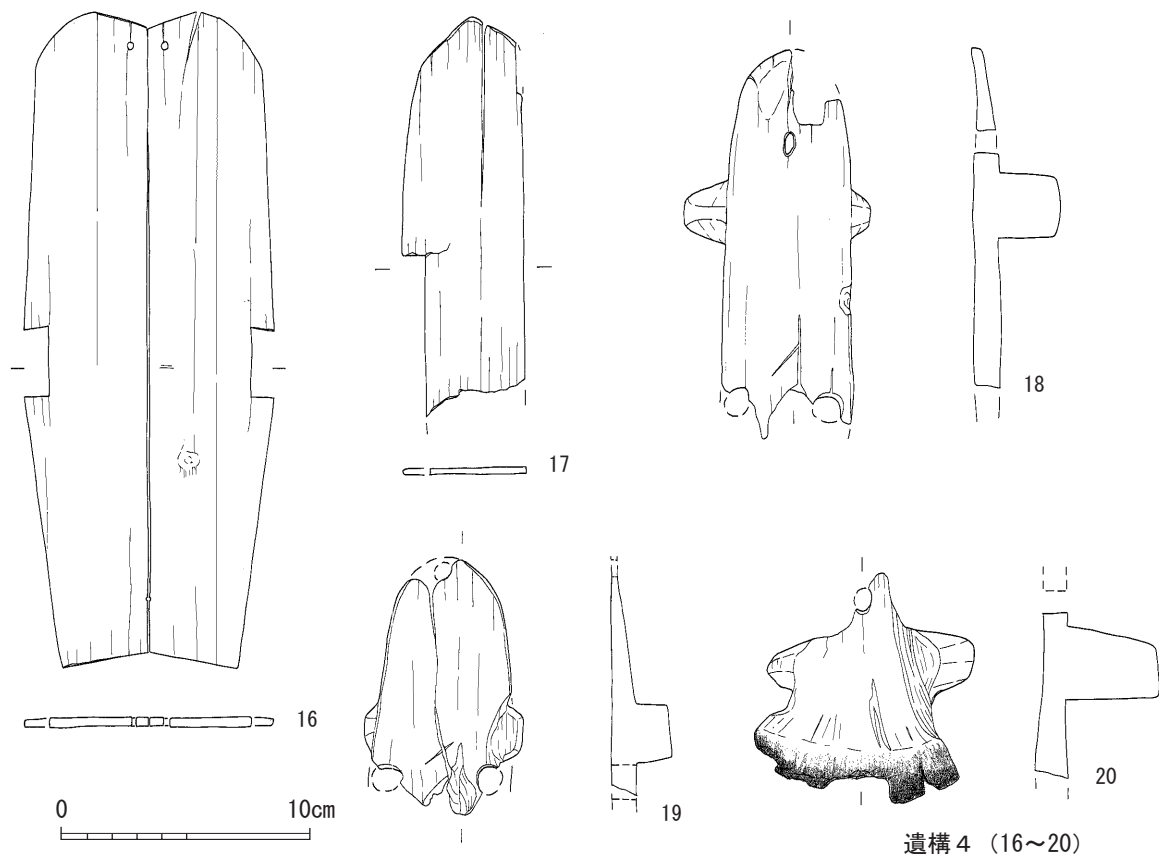


图 25 4面遺構出土遺物 (1)



遺構4 (16~20)

図26 4面遺構出土遺物(2)

### 遺構72

遺構71と切り合って、Ⅱ区の西側で検出された。東西128cm、南北114cmの範囲で植物の腐食した茶褐色の粘土層が確認できたため遺構番号を附したが、平面形・深さなどが不明瞭である。粘土層はなだらかに最大15cmの厚さで堆積していた。遺構71の一部の可能性もあるが、別に示した。

遺物は比較的多く出土している。図28-48~53は糸切りかわらけ皿で、48~50は小皿で48は器高の深い、49,50は器高の浅い薄手タイプ、51~53は薄手タイプ中皿、54は木製品板草履芯の一部、55はへら状工具、56は箱物部材の一部で、中央付近に木釘痕と思われる穿孔あり、57~74は箸である。

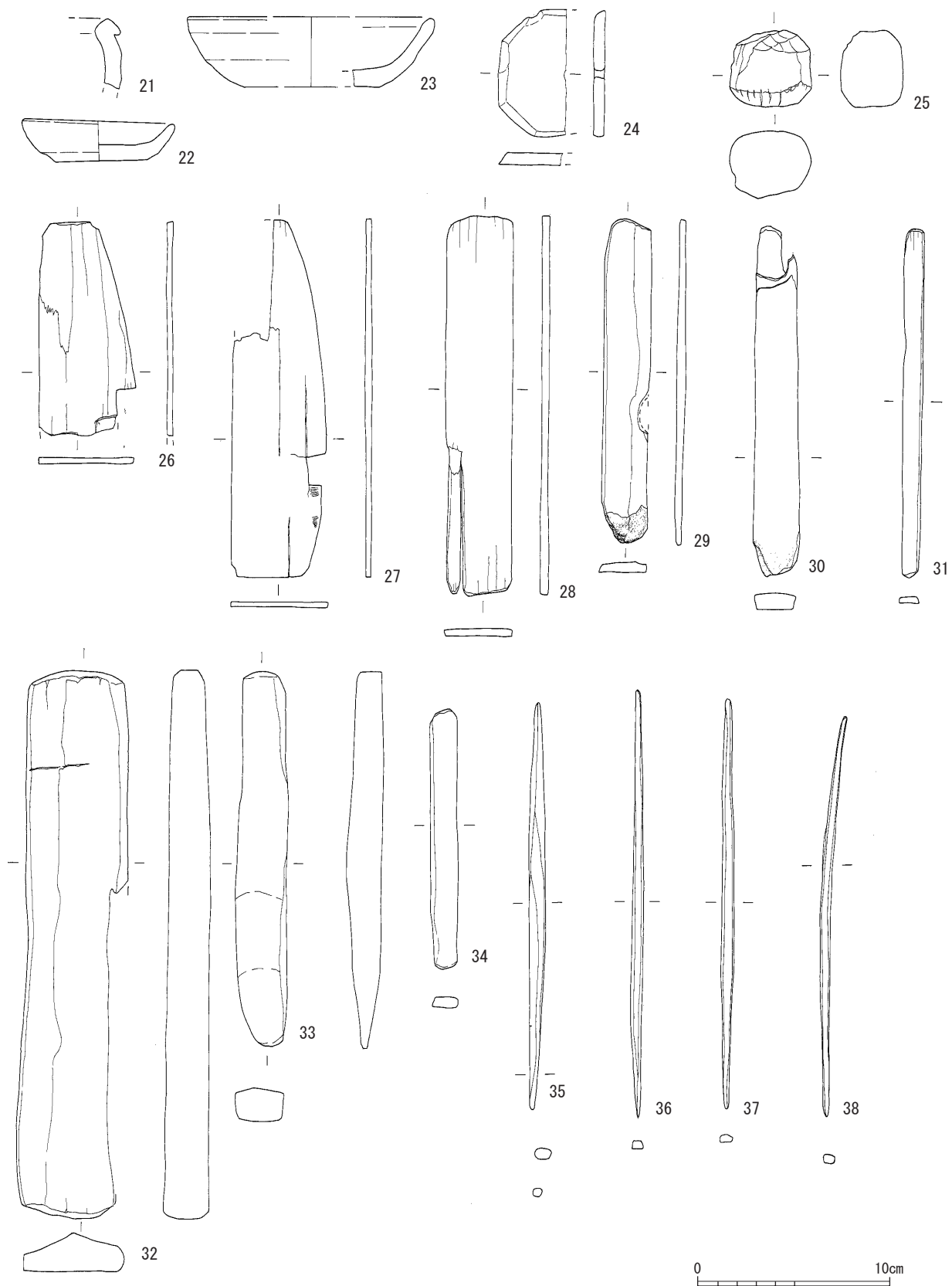
### 礎板列

遺構71の北側で、ほぼ同方向に確認された礎板を持つ4穴の礎板・柱穴である。遺構71の内部に入り込む礎板から西に、遺構8、遺構13、遺構10が、北から西に88度傾いた方向で並んでいる。間隔は、礎板から210cm、215cm、210cmを測る。柱穴は径45cm前後の円形で、底面に複数枚の礎板を直交方向に重ねている。礎板上面レベルは、東から7.78m、8.03m、7.66m、7.73m。東端の礎板から若宮大路に沿った木組み溝までは250cmの距離があるため、さらに礎板が1箇所あった可能性が高い。

遺構71より新しい時期の構築である。溝の後に柱穴列(塀)が構築されていることから、この辺りが屋敷内の何らかの区画ラインであったと考えられる。これ以外にも、柱穴の並びを復元することも可能であるが、不明瞭な点があるため可能性を指摘するにとどめる。

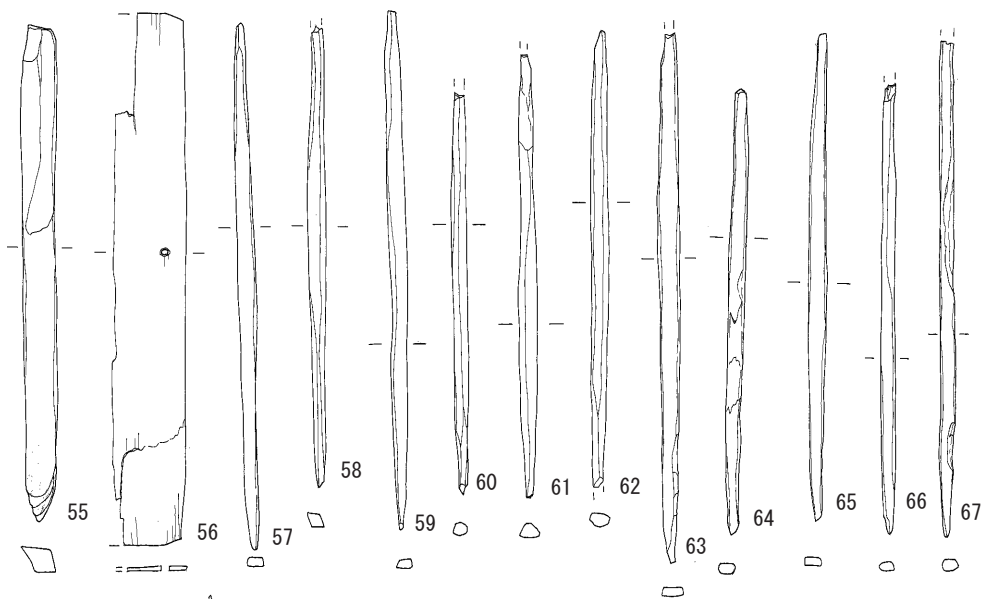
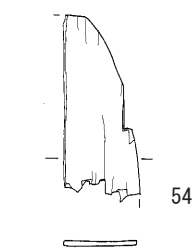
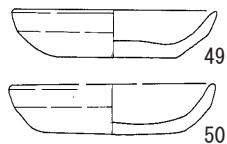
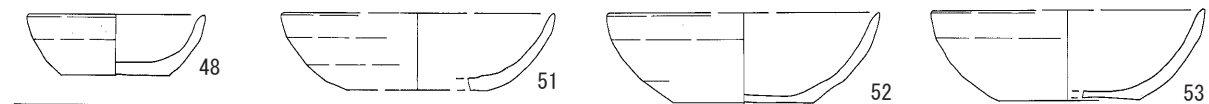
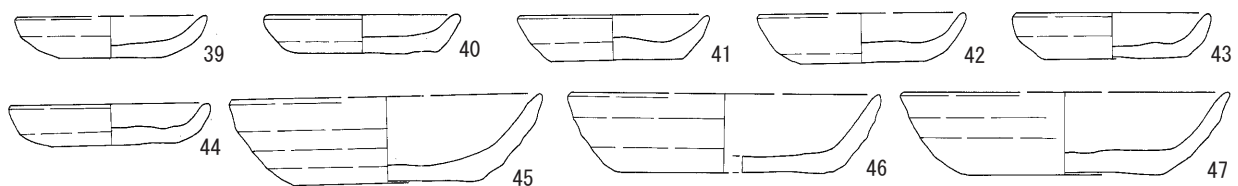
図示できる出土遺物はない。





遺構(5+15)

图 2 7 4面遺構出土遺物(3)



遺構70・72

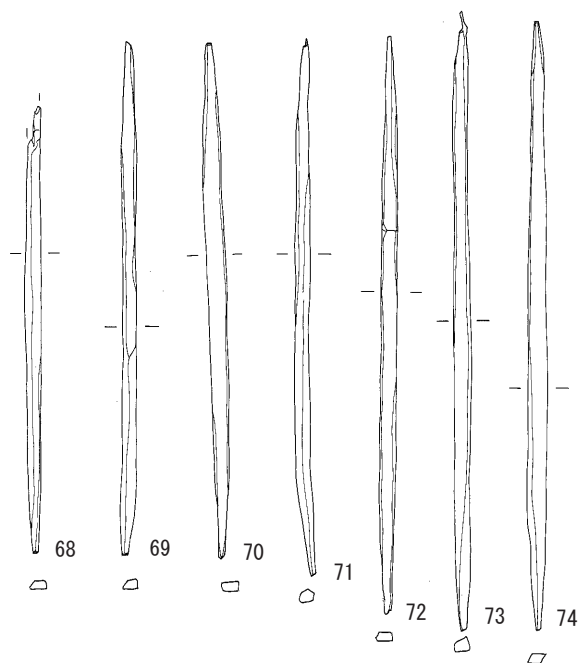


图28 4面遺構出土遺物(4)

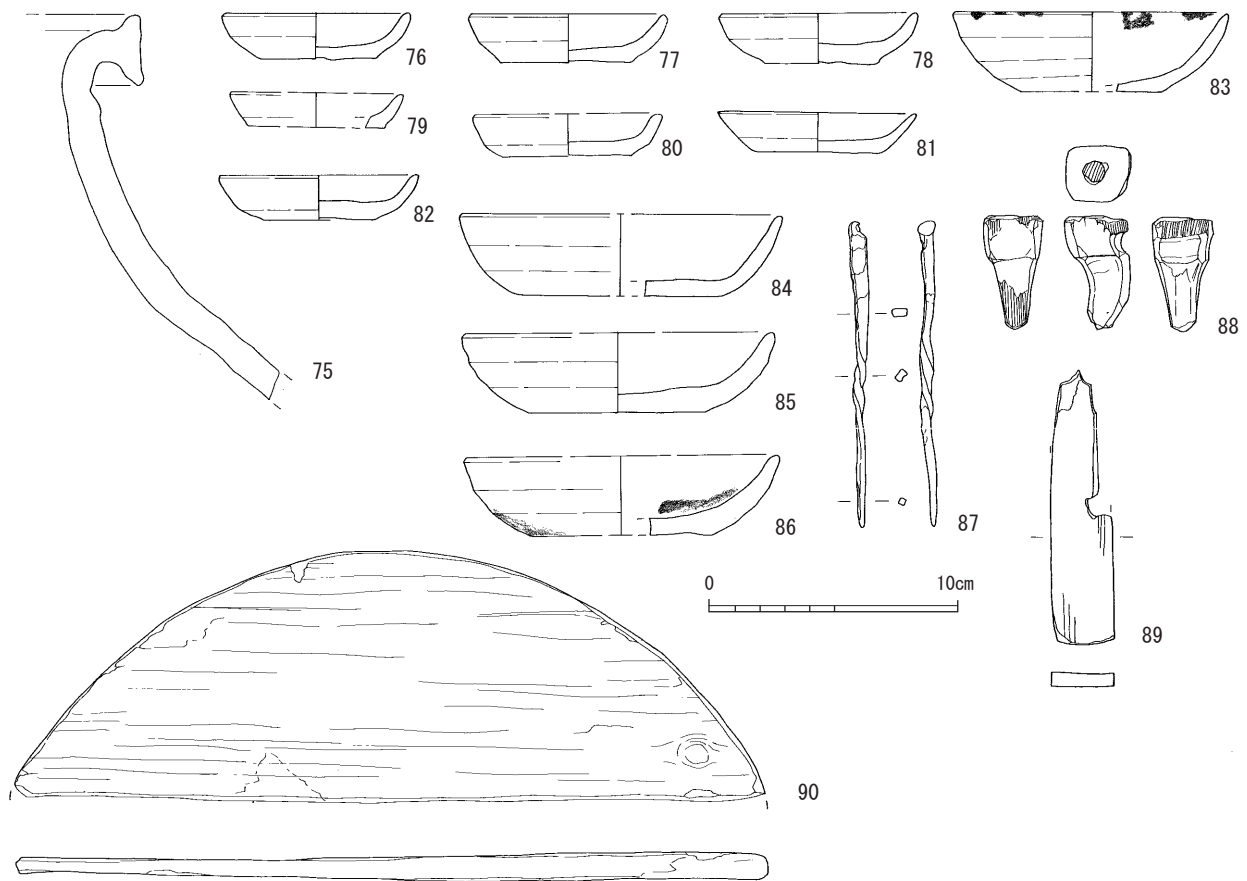


図29 4面出土遺物

#### 4面出土遺物

4面の遺構を調査中に出土した遺物をここに含めた。図29-75は常滑窯甕の口縁～肩部で、年代は13世紀後半代、76～86は糸切りかわらけ皿で、76～82は小皿、83は薄手タイプ中皿、口縁部分にススが付着し灯明皿としての使用痕あり、84～86は大皿。87は鉄製品の火箸、88は木製品で調度品の脚、89は用途不明木製品、90は容器の底板である。

#### 第5節 5面の遺構と遺物（鎌倉初期）

5面には中世基盤層である暗褐色粘質土上で検出した遺構を含めた。検出レベルはI区、II区共に7.72m前後である。検出した遺構は、II区では柱穴がほとんどであるが、I区では土坑と方形堅穴建物らしき遺構が確認されている。並びの確認できない柱穴は一覧表に示した。本期の初めには若宮大路に沿った溝の1回目があり、本期の末期あるいは4期初めに2回目の溝が造られたと考えている。

##### 遺構18

I区北東部分で検出した北西から南東にかけて長い楕円形の土坑である。約半分が調査区外北に延びている。確認規模は長軸(120cm)、短軸105cm、深さ42cm、底面レベル7.37mを測る。

1は白かわらけ皿小片。図35-1～4は木製品である。1は建具の部材、2は用途不明製品、3は串状製品、4は呪符である。

##### 遺構25

I区北西隅で検出した土坑であるが、大半が調査区外にあるため形状や規模は確認できなかった。検出した掘り込みラインから円形あるいは胴の張った方形で、大型の遺構と思われる。深さ11cm、底面レベル7.61mを測る。

遺物は1点が図示できた。図35-5は手づくねかわらけ大皿。

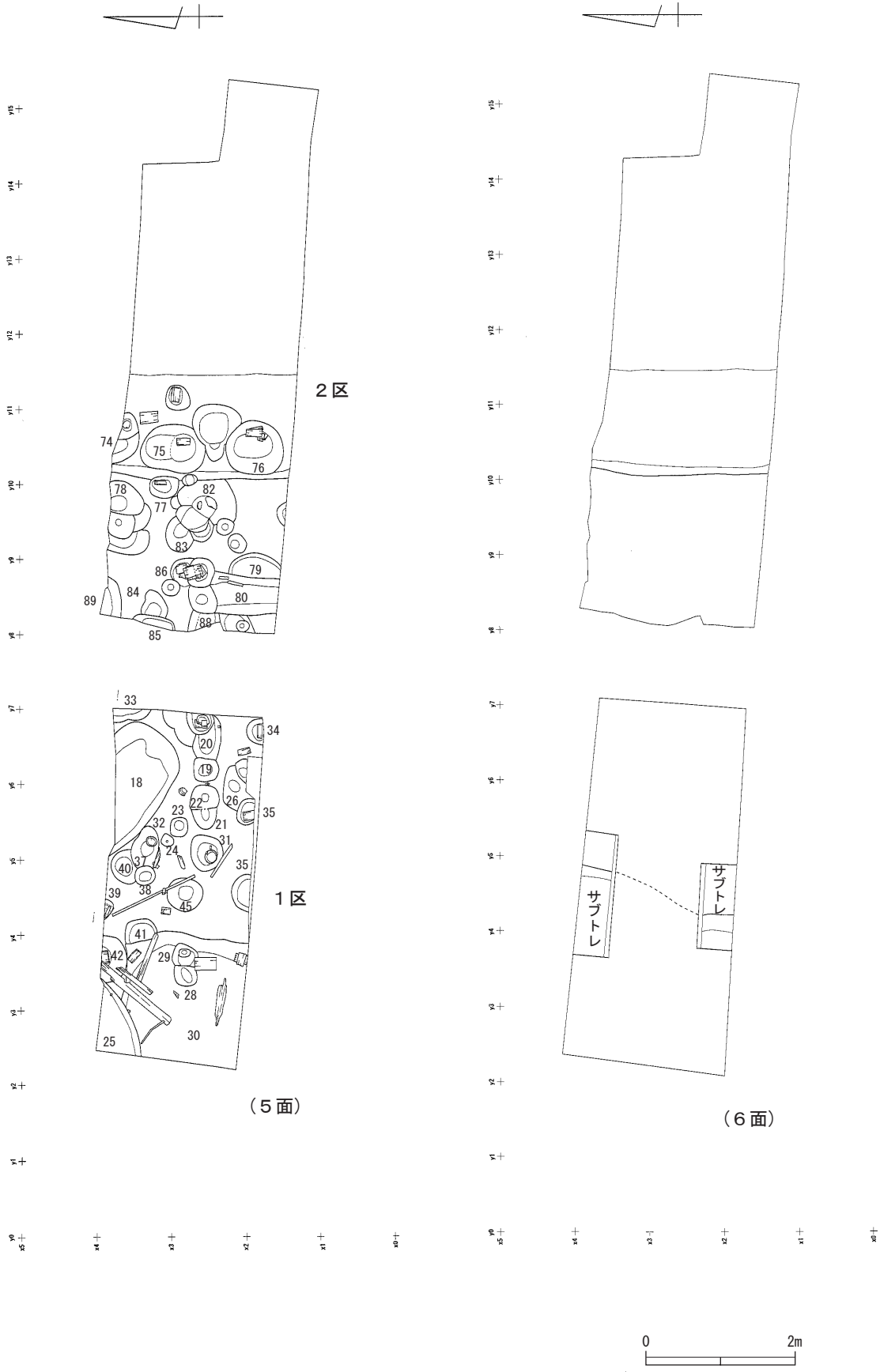


図30 5・6面遺構全体図

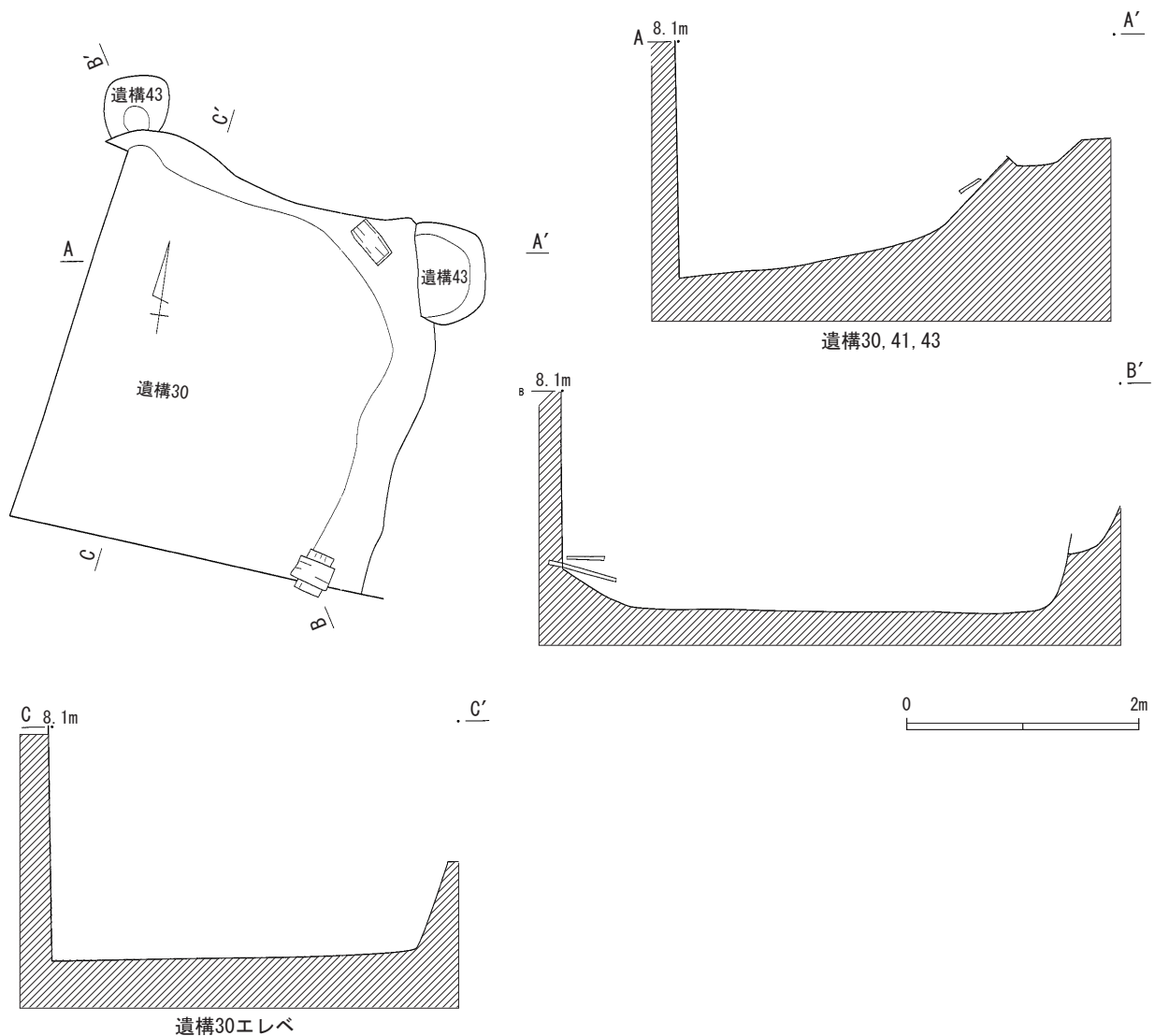


図31 5面検出遺構(1)

### 遺構30

I区南西隅で検出した方形の落ち込みである。方形土坑の可能性もあるが、掘り込み壁がほぼ垂直であることなどから、方形竪穴建物と考えた。多くは調査区外に在るが、北東の角が確認されている。確認規模は東西(153cm)、南北(172cm)、深さ53cm、底面レベル7.13mで、底面は平坦である。検出部分では、底面に柱穴、杭、木材痕跡は確認できなかった。

遺物は少なく、4点が図示できた。図35-6は舶載品で、龍泉窯青磁劃花文碗の高台、7、8は手づくねかわらけ小皿、9は糸切りかわらけ大皿である。

### 遺構32

I区の遺構18の南西で検出した2つの柱穴である。平面形では1つの柱穴であったが掘った結果2つになったため、遺物は混じってしまった。最大規模は南北38cm、東西(53cm)、深さ9cmを測る。

遺物は3点が図示できた。図35-10は糸切りかわらけ小皿、11は糸切りかわらけ薄手タイプ中皿、12は薄手タイプ大皿である。

### 柱穴列

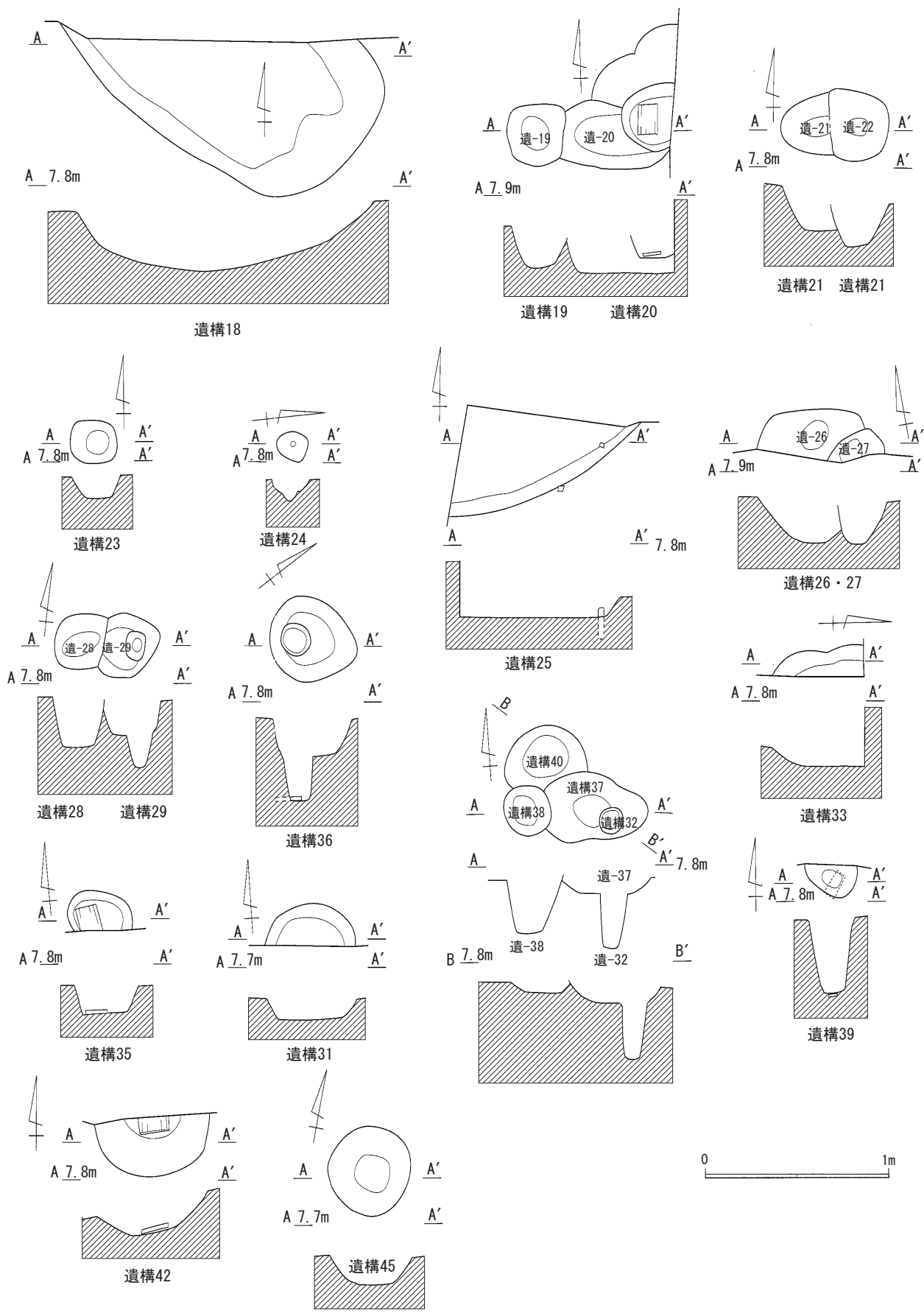


图 3 2 5 面検出遺構 (2)

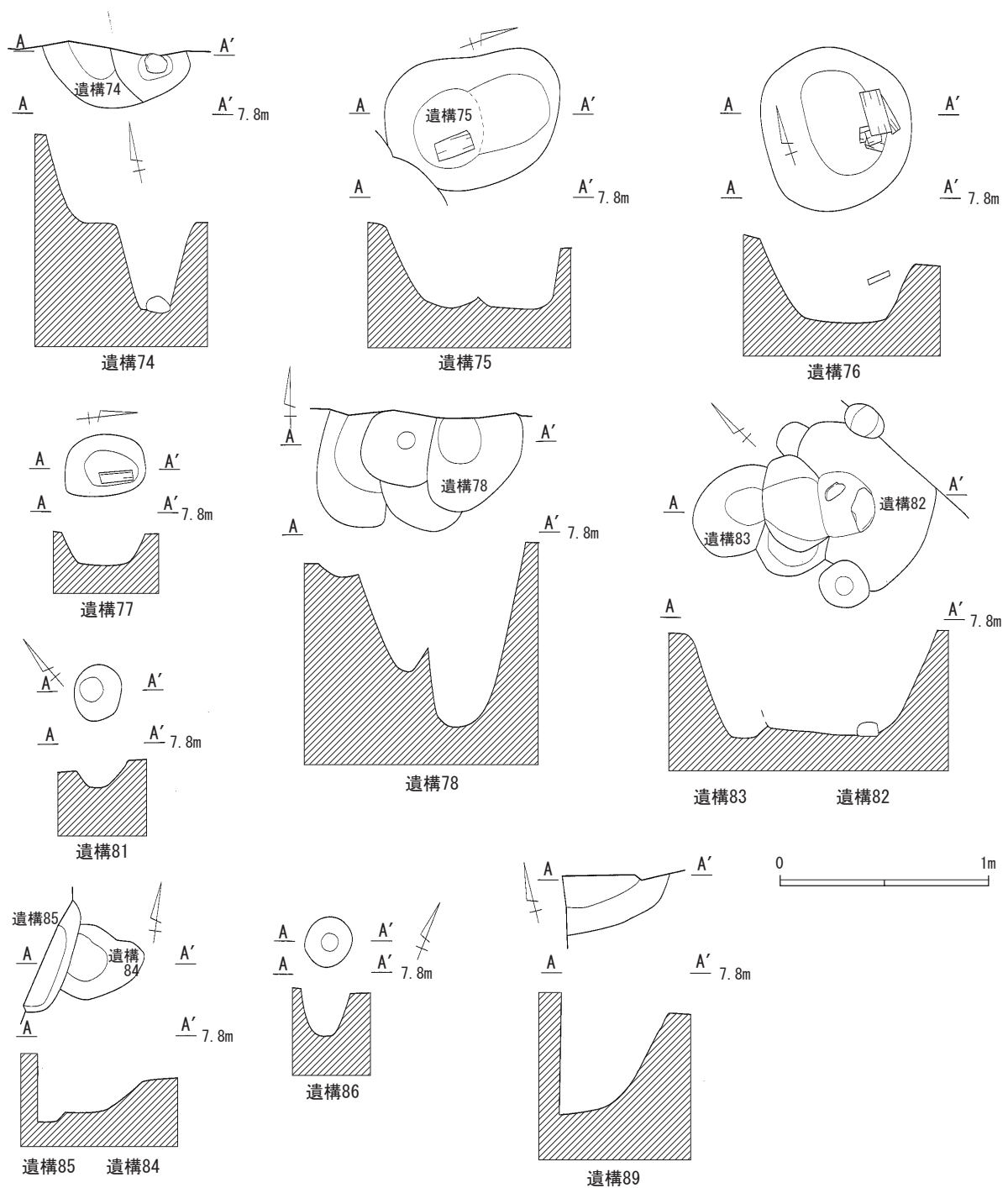


図33 5面検出遺構(3)

II区の若宮大路に沿った木組み溝の西側で検出した遺構75～遺構76を木組み溝に伴う塀などの柱と考えた。3穴の柱穴は、木組み溝の引き材を設置した落ち込み内にある。遺構74は調査区外北にほとんどがあるため形状や深さは不明。遺構75は南北に2穴の柱穴が掘られたような繭形を呈し、南側に礎板がある。確認規模は南北85cm、東西65cm、深さ24cm、底面レベル7.07m、礎板レベル7.09m。遺構76は平面円形で、確認規模は南北77cm、東西72cm、深さ25cm、底面レベル7.07m、礎板上面レベル7.30m。2箇所の礎板は中心で約90cm離れている。

遺物は4点が図示できた。図35-13～15は木製品で、13は用途不明品、14は箸、15は用途不明品である。



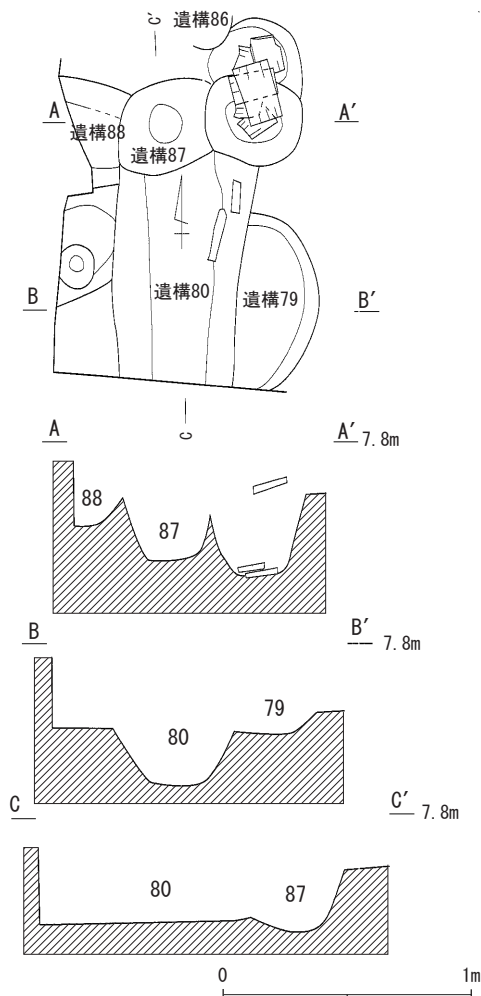


図3 4 5面検出遺構

5面の遺構を調査中に出土した遺物をここに含めた。図36-22は舶載品で同案窯青磁皿。23~26は糸切りかわらけ小皿で、23は内面に火熱を受けている。27、28は白かわらけ皿。29はかわらけ皿の打ち欠き、30は石製品の砥石で産地は鳴滝、石材は細粒泥岩。31、32は漆器皿で、内外面に黒色系漆を塗り、31は亀甲文が、32は萩文が赤色系漆で描かれている。33は鉄製品の釘。34は銅銭で、銭名は皇宗通寶（北宋・1038）。35~51は木製品で、35~41は草履芯、42は用途不明の板状製品、43は形代とも思えるが判然としない、44は容器の未成品と思われる、45~47は用途不明品、48・49は円盤状に加工された薄い板で用途は不明。51は建具の部材、52は形代か、53、54は棒状製品、55、56は用途不明品、57~64は箸、65~67は杭、68は高下駄の歯の部分である。

## 第6節 下層の調査

I区の5面の調査終了後に、4面遺構71（I区では遺構5）の底面で確認された黄褐色砂質粘土（以下、第6層という。）が西に向かって落ち込んでいる変化を確認するために、I区南側に沿ってサブトレンチを設定して掘り下げた。

その結果、中世基盤層の下に堆積する第6層が西に向かって落ち込み、そこに青灰褐色砂質粘土層（以下、第5層という。）が堆積している状況が確認できた。この結果を受けて、I区北壁に沿ったサブトレンチも設定した。このトレンチでも第6層が西に向かって落ち込み、そこに第5層が堆積する状況が確認できた。両トレンチで確認した落ち込みを結ぶと直線ではなく、曲線が推定で

## 遺構78

柱穴列の西、北壁際で検出した。柱穴と思われるが調査区外に延びている。確認規模は南北(45cm)、東西43cm、深さ80cm、底面レベル7.0mを測る。

遺物は木製品3点が図示できた。16~18は木製品である。図35-16、17は棒状製品、18は用途不明品である。

## 遺構79

II区の南西部で、遺構80に西半分を壊されて検出した円形の浅い土坑である。確認規模は南北(70cm)、東西(34cm)、深さ8cm、底面レベル7.66mを測る。

遺物は少なく1点が図示できた。図35-19は糸切りかわらけ大皿である。

## 遺構85

II区の西壁際で検出した柱穴状の落ち込みである。ほとんどが調査区外にあるため平面形などの形状・規模は不明。覆土は20cmまで掘り下げた。以下は不明。

調査部分が少ないため遺物は少なかったが、2点が図示できた。図35-20は糸切りかわらけ大皿、21はへら状木製品である。

## 5面出土遺物

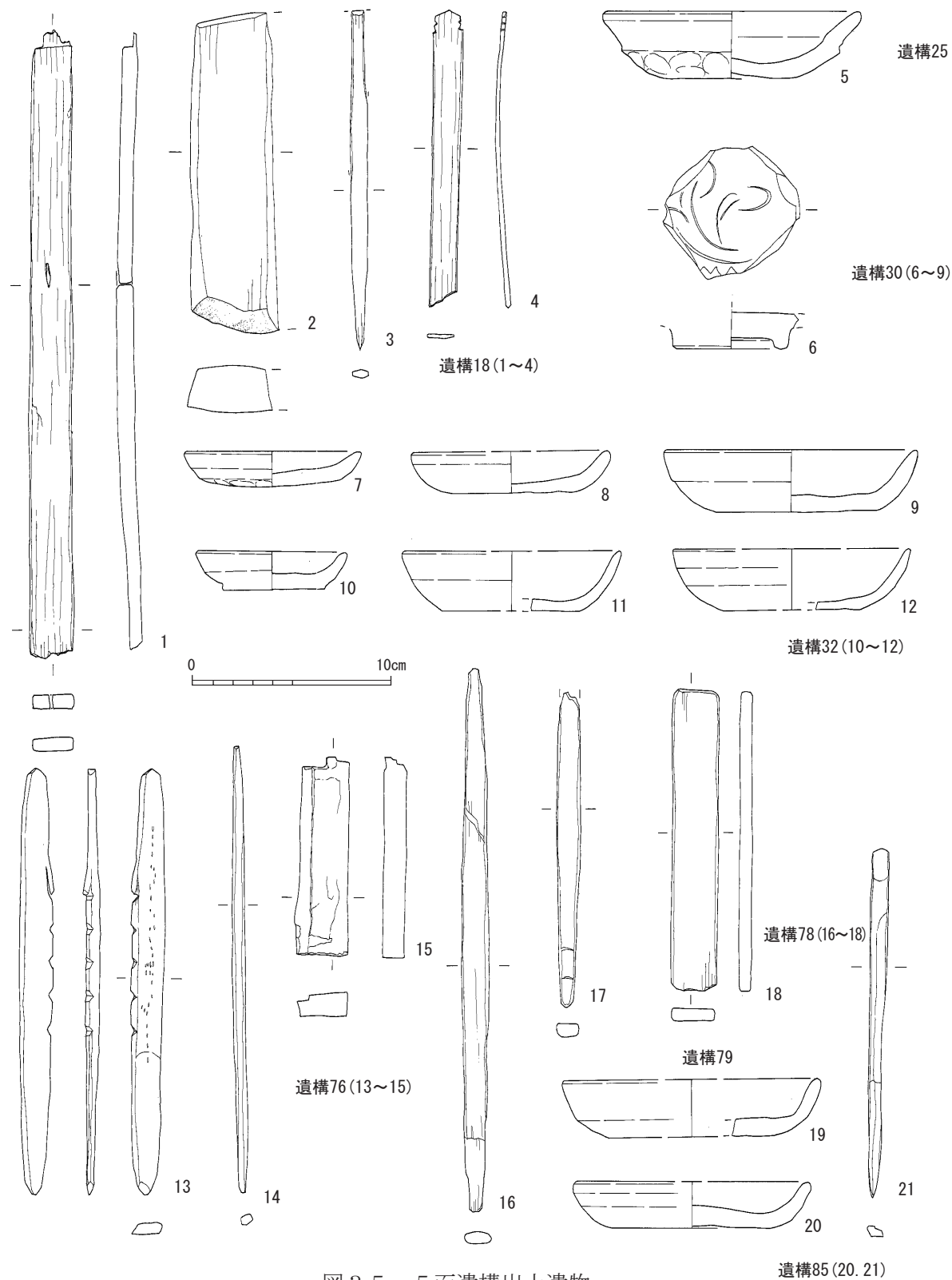


図35 5面遺構出土遺物

きる。調査区内では南北180cmが確認され、さらに南北の調査区外に延びている。西側は北壁で調査区西壁まで250cm、南壁で調査区西壁まで210cmを測るが、その間で対岸と思われる立ち上がりは確認できなかった。ちなみに若宮大路西側歩道の西際からの距離は、北で12.40m、南で13mで、若宮大路とは平行しない。

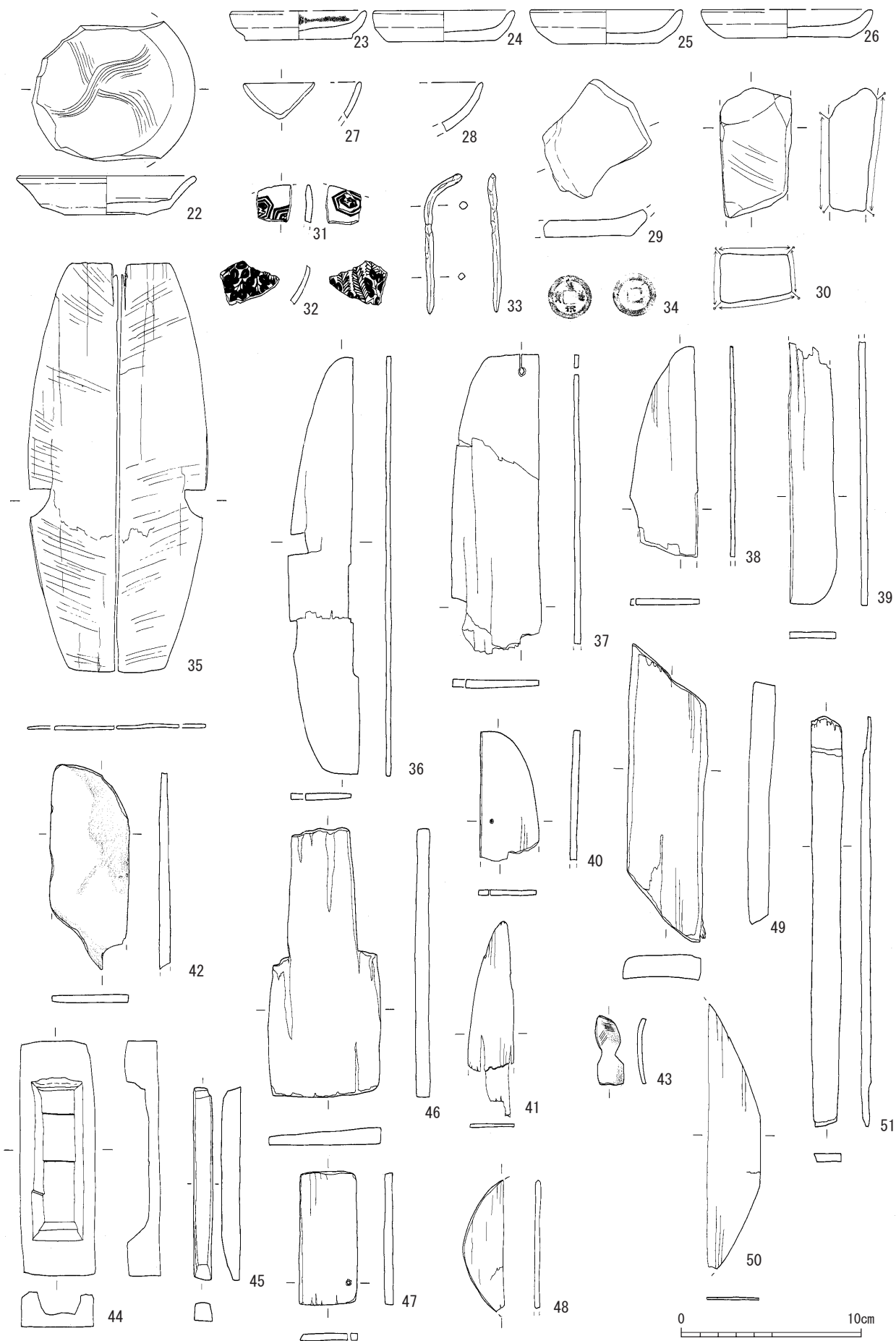


图 3 6 5 面出土遺物 (1)

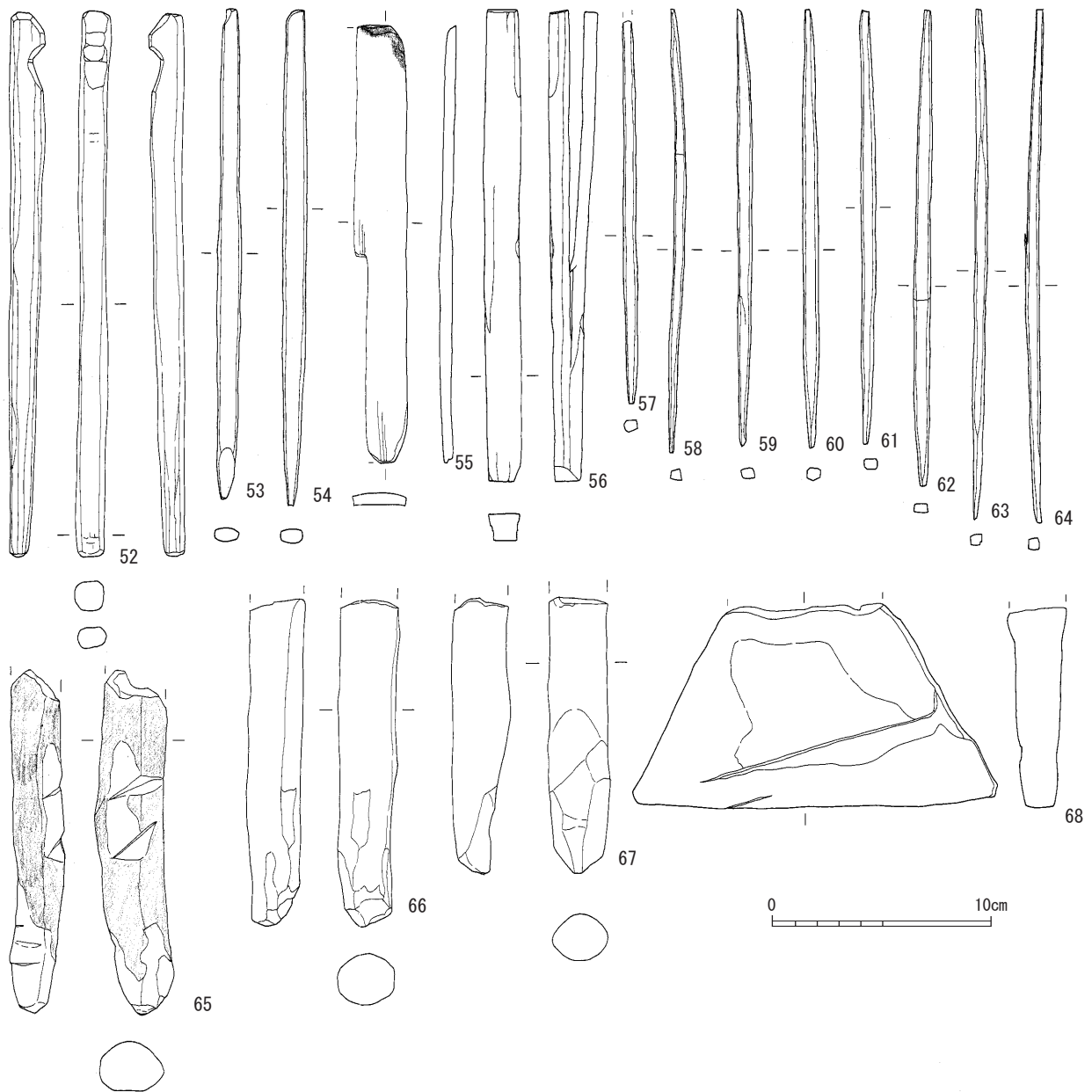


図37 5面出土遺物(2)

落ち込みは約25度の角度で落ち込んでおり、人工的な掘り込みでは無く自然傾斜の可能性を考えた。しかし、湧水が多く調査期間の問題もあり、確認面から50cm、地表から最大200cmで掘り下げを断念した。落ち込みの覆土は第5層に第6層のブロックが混じる粘土層で、遺物は全く出土していないが、僅かに植物繊維が混じっている。

出土遺物が無く年代は明らかにできないが、中世基盤層の4層に覆われているため、中世以前と考えられる。周辺の調査では、5層上面で確認された遺構覆土から、中世以前の土器片が出土している。掘り込み壁の角度や平面的な曲線あるいは凹凸などから、竪穴住居址は考え難いので、河川を考えたいところである。

本稿を執筆後、平成22年9月から11月にかけて大倉幕府跡で発掘調査を実施する機会があった(註1)。その調査では、中世基盤層の下に第5層に極めて似ている土層の堆積が確認されている。土層中からは7世紀後半頃の土器が出土している。第6層はこの調査地点の南100mほどの地点(註

2) で確認されている。この地点の第 6 層に極似する土層が落ち込みの覆土である事実は確認できなかったが、仮に本地点と同じ土層であるとすれば、中世基盤層の堆積以前の落ち込みで、大倉地域から若宮大路西側まで続く落ち込みである可能性も、僅かながらある。

この落ち込みを、旧市街東の山裾に沿って流れる滑川の旧河道と考えたいところである。とすれば、滑川は 7 世紀後半以降に鎌倉旧市内の大半に水田を造成したときに、人為的に東側の山裾に移動させられたと考えている自説を裏付けることができる。しかし、これを実証するにはさらに多くの時間と調査成果が必要である。今後の、中世基盤層以下の調査の進展に期待したい。

註 1 大倉幕府跡（雪ノ下三丁目 648 番 8）の調査。有限会社鎌倉遺跡調査会が実施。未報告。  
堆積土層は調査中に実見。

註 2 『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書-雪ノ下四丁目 581 番 5 地点-』2007 年 3 月 有限会社  
鎌倉遺跡調査会

## 第3章 まとめ

### 第1節 検出遺構の年代

近代の遺構をのぞき、最も新しい遺構は1面の若宮大路に沿った溝状の落ち込みである。この覆土は木組み溝を覆っている。出土遺物は少ないが、底部近くから15世紀後半から16世紀にかけての年代が考えられるかわらけ小皿がほぼ完形で1点出土している。この遺物を根拠にすると、1面は16世紀の年代となる。従って、若宮大路に並行する木組み溝は16世紀始め頃までには埋没していたことになる。その後、灰褐色粘土層が堆積する状況になり、これが近代まで続いた。耕作土直下の包含層からは、比較的薄手作りのかわらけ皿が出土している。

最下層の5面（中世基盤層上）では、多くの遺構から京都系手づくねかわらけが出土している。鎌倉の土器編年に即せば、5面の年代は12世紀末から13世紀初頭である。6面で確認した5層下の落ち込みは、明らかに中世基盤層以前の遺構であるが、年代は明らかにできない。おそらく、鶴岡八幡宮周辺で遺構・遺物が確認されている弥生時代から平安時代の間には帰属するのだろう。

2面から4面は、細かな生活面を多く含んでおり、夫々を明確には出来ない。大まかには4面が13世紀中頃前後、3面が13世紀後半頃、2面が14世紀代を考えたい。

### 第2節 木組み溝の性格

本地点周辺で確認されている若宮大路に沿った木組み溝は、若宮大路の東側でも同様な構造の木組み溝が在ること等から、中世段階の「若宮大路の側溝」として認識されている。しかし、個人的には、いくつかの疑問があって、これを解決しないと若宮大路の側溝として認識できないと考えている。

採るに足らない疑問かもしれないが、1点目は若宮大路が中世前半と変わらずに存在するのに、側溝のみが遅くとも16世紀始め頃までに埋まってしまう点。2点目は、東西の木組み溝の内側（壇葛側）に、現在も暗渠になっている若宮大路の側溝がある点。この暗渠溝は、現在の東西歩道の下にあって、鶴岡八幡宮の外周に在る溝の流れを受けている。3点目は、本遺跡範囲（北条時房・顕時邸跡）の南で、木組み溝の延長部分が不鮮明になることである。

これらの点を、自分なりに考察した結果、若宮大路に平行する大路東西の木組み溝はそこにある屋敷の外周を囲む溝であり、若宮大路の側溝とは異なる可能性が高いとの結論に至っている。若宮大路の側溝は別に構築されたか、屋敷のある部分については大路の排水も屋敷外周の溝に流したのであろう。検証の過程をここで詳細に示すことは、紙数の都合もあり不可能である。これについては別に発表を考えている。

本地点で見つかった木組み溝が若宮大路の側溝で無いとすれば、15世紀のある時期に完全に埋まってしまうことに不自然な感じはない。

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別	計測値 単位:cm			備考	
				口径・長	底径・幅	器高・厚		
図6 1面遺構・1面出土遺物								
1	1面	遺構47	土器	かわらけ皿	7.9	5.0	1.6	
2	1面	遺構47	土器	かわらけ皿	(6.4)	4.6	2.6	
3	1面	遺構47	土器	かわらけ皿	11.2	6.4	3.2	
4	1面	遺構47	土器	かわらけ皿	(12.2)	(6.8)	3.1	
5	1面	遺構47	土器	かわらけ皿	(12.4)	6.6	3.1	
6	1面	-	土器	かわらけ皿	10.8	7.0	3.0	
7	1面	-	石製品	砥石	6.5	5.0	3.5	中砥 鳴滝産 砂粒泥岩
8	1面	-	銭	寛永通寶	-	-	-	
図8 2面遺構出土遺物(1)								
1	2面	遺構1	瀬戸窯	褐釉天目碗	-	3.5	[3.6]	火熱を受ける 釉光沢なし
2	2面	遺構1	瀬戸窯	灰釉卸皿	(19.0)	-	[3.6]	中期1
3	2面	遺構1	瀬戸窯	灰釉小壺	4.4	-	[3.9]	内側に朱付着
4	2面	遺構1	常滑窯	捏ね鉢	-	-	[4.9]	I類
5	2面	遺構1	常滑窯	捏ね鉢	-	-	[7.2]	I類
6	2面	遺構1	常滑窯	捏ね鉢	8.3	3.3	1.1	陶片に転用
7	2面	遺構1	土器質	火鉢	-	-	11.5	
8	2面	遺構1	土器質	火鉢	-	-	[10.5]	三鱗のスタンプ文
9	2面	遺構1	土器質	火鉢	-	-	[10.7]	菊のスタンプ文
10	2面	遺構1	土器質	火鉢脚	-	-	[6.3]	被熱
11	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(4.1)	(3.2)	1.0	コースター
12	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	4.6	3.2	1.0	コースター
13	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	4.4	3.6	1.2	コースター
14	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.0	3.6	2.0	
15	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(6.8)	3.9	1.9	内面口縁部被熱
16	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	6.8	4.0	2.1	
17	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.0	2.1	
18	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.2	3.9	2.8	
19	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.4)	(4.5)	1.9	
20	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.4	5.0	2.0	
21	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	5.0	2.0	
22	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.3)	4.9	2.1	
23	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.2	3.9	2.8	
24	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.4)	(4.8)	2.2	
25	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	5.1	2.3	
26	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.2)	2.2	
27	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.1)	(4.6)	2.5	
28	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.8)	(5.6)	2.4	内面口縁部被熱
29	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.6)	5.0	3.0	内面口縁部被熱



北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
30	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.5	4.8	1.9	
31	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	(4.9)	2.0	
32	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	5.2	2.1	
33	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.2)	(5.3)	2.0	
34	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	5.0	1.8	
35	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.4)	1.7	
36	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	4.8	1.9	
37	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.6)	(4.4)	1.3	外面被熱
38	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.3)	2.0	
39	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	5.0	1.9	
40	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.6	2.0	
41	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	4.6	1.9	
42	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	5.2	1.9	
43	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.5	5.0	2.1	
44	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.6	5.5	2.0	
45	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.3	4.2	1.9	
46	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	4.8	2.0	
47	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	4.9	2.3	
48	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.1	5.5	2.0	
49	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.2)	1.9	
50	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.9	
51	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	5.4	2.0	
52	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.4)	(6.4)	1.8	
53	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	5.0	1.3	
54	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.7)	(6.8)	1.5	
55	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.2	6.1	1.6	外面被熱
56	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	4.5	1.8	
57	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	4.9	1.8	外面被熱
58	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	4.6	2.0	外面被熱
59	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	4.8	1.8	内面被熱
60	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.0	2.4	内外面スス付着
61	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.2)	(4.3)	1.8	内外面被熱
62	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.7)	5.4	1.4	内外面被熱
63	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	9.4	7.4	1.7	
64	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.2)	5.1	1.5	
65	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.9	5.4	1.4	
66	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	5.4	1.7	
67	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.3)	1.5	
68	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.8	1.4	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
69	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.9	5.4	1.8	
70	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	6.0	1.8	
71	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.8	5.1	1.5	外面口縁部スス付着
72	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.9	5.1	1.4	
73	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.5	5.8	1.6	
74	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	5.2	1.9	
75	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	4.9	1.8	
76	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	5.0	2.0	
77	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	5.0	1.8	
78	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	4.9	[1.3]	
図9 2面遺構出土遺物(2)								
79	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(6.9)	(4.8)	1.4	内外面口縁部スス付着
80	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.2	4.9	1.5	
81	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	5.4	1.7	
82	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.2	5.5	1.7	内外面口縁部スス付着
83	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.8)	5.1	1.8	
84	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.2	5.1	1.7	内外面口縁部スス付着
85	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	5.0	1.9	内外面口縁部スス付着
86	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.9	1.7	内外面口縁部スス付着
87	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	8.0	5.6	1.8	内外面口縁部スス付着
88	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.1	4.9	1.5	
89	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.2)	1.6	
90	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.4)	2.0	
91	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.9	1.9	
92	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.6	5.0	1.6	
93	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(8.0)	5.3	1.8	
94	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	7.7	4.8	2.6	
95	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(7.7)	(5.6)	1.9	
96	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	[6.3]	4.9	[1.3]	
97	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(10.3)	5.3	3.1	内外面口縁部スス付着
98	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(10.9)	(5.7)	3.2	内外面口縁部スス付着
99	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.0)	(5.9)	2.8	内外面口縁部被熱
100	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.2)	(7.0)	2.5	内面被熱
101	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.4)	(6.2)	2.7	内外面口縁部スス付着
102	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(10.9)	(6.0)	2.8	
103	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(10.9)	(6.4)	2.8	
104	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.0)	6.5	3.0	
105	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.2)	(6.8)	2.7	
106	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.2)	(7.6)	2.8	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
107	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.9)	(7.2)	3.0	
108	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.6)	3.1	外面口縁部スス付着
109	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.2)	(7.9)	3.2	
110	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.8)	3.0	
111	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.0)	(6.3)	3.4	
112	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.6)	(7.4)	3.4	
113	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.4)	(7.4)	3.4	
114	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.6)	(7.6)	3.5	
115	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.9)	3.3	
116	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.8)	3.3	
117	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.8)	3.3	
118	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.0)	(7.8)	3.2	
119	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.2)	(7.2)	3.2	内外面口縁部スス付着
120	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.9)	(8.0)	3.0	内外面口縁部スス付着
121	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.3)	3.3	内外面口縁部スス付着
122	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.2)	3.6	内外面口縁部スス付着
123	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.0	3.6	内外面口縁部スス付着
124	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.0)	3.3	内外面口縁部スス付着
125	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	12.3	7.5	3.2	
126	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	12.3	7.5	3.5	
127	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.7)	6.9	3.8	内外面口縁部スス付着
128	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.0)	3.5	内面口縁部スス付着
129	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.2)	(8.0)	3.6	内面口縁部スス付着
130	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.9)	(7.5)	3.0	内外面口縁部スス付着
131	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.9)	(7.5)	3.5	外面口縁部スス付着
132	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.8)	(6.8)	3.1	
133	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.0)	3.1	
134	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	12.2	7.5	3.2	
135	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.9)	(7.3)	3.1	
136	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.0)	(8.5)	3.3	
137	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.2)	7.5	3.0	
138	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.2)	(8.8)	3.1	
139	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.6)	(8.9)	3.0	
140	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.3)	8.0	3.1	
図10 2面遺構出土遺物(3)								
141	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.4)	(8.2)	3.2	
142	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.5)	(9.9)	3.5	
143	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.8)	(8.8)	3.4	
144	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(14.0)	(8.4)	3.9	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
145	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.6)	3.3	内外面口縁部スス付着
146	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.5)	(7.0)	3.3	内外面口縁部スス付着
147	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.2)	3.2	内外面口縁部スス付着
148	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.8)	3.2	外面被熱
149	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.2)	(8.2)	3.5	外面被熱
150	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.4)	(7.8)	3.5	内外面被熱
151	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.0)	(7.3)	3.2	内面被熱
152	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.2)	7.4	3.3	内外面スス付着
153	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.8)	8.0	3.6	
154	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(11.8)	(6.7)	3.5	
155	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	12.6	8.0	3.8	
156	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	12.4	7.8	3.4	
157	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(13.0)	(7.5)	3.0	
158	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	(12.4)	(9.3)	3.1	
159	2面	遺構1	土器	かわらけ皿	13.3	2.1	2.0	
160	2面	遺構1	銭	政和通寶	2.4	2.3	0.1	北宋(1111年)
図11 2面出土遺物								
161	2面	-	土器	かわらけ皿	6.8	3.8	2.2	内外面口縁部スス付着
162	2面	-	土器	かわらけ皿	11.8	8.0	3.2	
163	2面	-	土器	打ち欠き	-	6.3	1.4	
164	2面	-	土器	打ち欠き	-	5.1	1.5	
165	2面	-	土器質	手焙り	-	-	10.2	菊のスタンプ文
166	2面	-	瓦	平瓦	18.0	10.4	2.1	
図15 3面遺構出土遺物(1)								
1	3面	遺構3	土器	かわらけ皿	7.2	4.8	1.9	
2	3面	遺構3	土器	かわらけ皿	(7.8)	(6.0)	1.9	
3	3面	遺構3	土器	かわらけ皿	(10.2)	(5.3)	3.3	
4	3面	遺構3	土器	かわらけ皿	11.8	7.3	3.6	
5	3面	遺構56	土器	かわらけ皿	(12.0)	(6.8)	3.2	
6	3面	遺構56	土器	かわらけ皿	7.3	4.5	2.5	
7	3面	遺構62	土器	かわらけ皿	13.0	7.2	3.1	
8	3面	遺構62	土器	かわらけ皿	12.5	8.2	3.6	
9	3面	遺構62	土器	かわらけ皿	(13.6)	8.0	3.4	
10	3面	遺構62	土器	かわらけ皿	(13.6)	(8.8)	3.6	
11	3面	遺構65	瀬戸窯	灰釉折縁鉢	-	-	[4.8]	
12	3面	遺構65	魚住窯	捏ね鉢	-	-	[4.8]	
13	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	7.0	3.8	2.3	
14	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(6.8)	(4.6)	2.2	
15	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(7.6)	(4.8)	2.1	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
16	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(7.2)	(4.0)	2.4	
17	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.0	2.3	
18	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	8.1	4.4	2.6	外面被熱
19	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(7.9)	4.0	3.2	
20	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(10.6)	6.0	2.7	内外面口縁部スス付着
21	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(9.2)	5.4	2.2	内外面口縁部スス付着
22	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(11.4)	7.9	3.0	
23	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	11.2	6.6	3.1	
24	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(11.4)	(6.2)	3.0	
25	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(12.6)	(7.0)	3.5	
26	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	11.6	7.2	3.2	
27	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.0	3.4	
28	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	13.6	7.6	3.6	
29	3面	遺構65	土器	かわらけ皿	(13.6)	6.6	3.5	
30	3面	遺構65	土器	穿孔かわらけ皿	-	-	-	
31	3面	遺構65	瓦	軒丸瓦	[5.2]	-	1.6	火熱を受けている
32	3面	遺構65	瓦	軒丸瓦	[4.1]	-	1.9	
33	3面	遺構65	瓦	軒丸瓦	[6.0]	3.2	1.8	
34	3面	遺構65	瓦	丸瓦	[9.0]	[5.8]	2.1	
35	3面	遺構65	瓦	平瓦	[9.5]	[7.4]	2.2	火熱を受けている 埼玉美里
36	3面	遺構66	瀬戸窯	灰釉小壺	(2.2)	-	[2.4]	
37	3面	遺構66	常滑窯	捏ね鉢	-	-	[4.2]	Ⅱ類
38	3面	遺構66	山茶碗窯	捏ね鉢	-	-	[4.6]	
39	3面	遺構66	瓦質	火鉢脚	3.1	3.1	1.4	
40	3面	遺構66	土器	コースター	(4.0)	(2.8)	1.9	
41	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(7.0)	5.2	2.3	内外面口縁部スス付着
42	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(7.6)	(4.6)	1.7	
43	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.6)	1.6	
44	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.8	2.1	
45	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	10.4	6.9	2.9	
46	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(11.3)	6.5	3.1	内外面口縁部スス付着
47	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.2)	3.2	
48	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	12.3	7.4	3.7	
49	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(12.8)	7.0	3.0	
50	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	14.3	7.9	3.4	
図16 3面遺構出土遺物(2)								
51	3面	遺構66	土器	かわらけ皿	(12.6)	(8.2)	3.4	
52	3面	遺構66	土器	打ち欠き	-	7.0	[2.6]	
53	3面	遺構66	土器	穿孔かわらけ皿	-	-	[1.5]	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
54	3面	遺構66	木製品	曲物	[11.7]	-	0.25	
55	3面	遺構66	木製品	草履芯	[8.6]	1.6	0.25	
56	3面	遺構66	木製品	草履芯	[21.6]	6.0	0.4	
57	3面	遺構66	木製品	草履芯	[14.2]	0.8	0.25	
58	3面	遺構66	木製品	箸	18.4	0.7	0.5	
59	3面	遺構66	木製品	箸	18.5	0.8	0.3	
60	3面	遺構66	木製品	箸	16.8	0.7	0.4	
61	3面	遺構66	木製品	箸	20.9	0.6	0.4	
62	3面	遺構66	木製品	箸	19.7	0.6	0.5	
63	3面	遺構66	木製品	箸	17.0	0.6	0.5	
64	3面	遺構66	木製品	箸	22.2	0.8	0.4	
65	3面	遺構66	木製品	箱物部材	14.0	2.2	0.6	穿孔1穴あり
66	3面	遺構66	木製品	箱物部材	14.9	[2.0]	0.1	穿孔1穴あり
67	3面	遺構66	木製品	箱物部材	14.9	[3.5]	0.1	穿孔1穴あり
68	3面	遺構66	木製品	箱物部材	15.0	[6.6]	0.1	
69	3面	遺構66	木製品	箱物部材	17.8	[4.5]	0.1	穿孔1穴あり
70	3面	遺構66	木製品	建具部材	29.2	1.7	0.9	
71	3面	遺構66	木製品	建具部材	20.3	1.0	0.7	
図17 3面遺構出土遺物(3)								
1	3面	遺構69	磁器	碗	-	3.9	[1.6]	中国青白磁 型押
2	3面	遺構69	磁器	口元皿	-	-	[4.1]	中国白磁
3	3面	遺構69	常滑窯	甕	-	-	[5.3]	13世紀中
4	3面	遺構69	土器	黒縁瓦器碗	-	-	[2.6]	
5	3面	遺構69	瓦質	手焙り	-	-	[5.6]	
6	3面	遺構69	土器	コースター	(2.8)	(2.6)	0.8	
7	3面	遺構69	土器	コースター	(4.2)	(3.1)	1.1	
8	3面	遺構69	土器	コースター	4.5	4.0	1.2	
9	3面	遺構69	土器	コースター	(4.4)	4.4	0.9	
10	3面	遺構69	土器	コースター	4.8	4.0	1.0	
11	3面	遺構69	土器	コースター	(5.4)	(4.0)	1.3	
12	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.5	4.4	2.0	
13	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.6)	(4.6)	2.1	
14	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.6)	(4.4)	1.9	
15	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.6	4.7	2.6	
16	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	4.3	2.0	
17	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.6	2.1	
18	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.7	2.2	
19	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.9	4.6	3.2	
20	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.2)	4.0	2.2	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
21	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.6)	4.4	1.9	
22	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.5	4.1	2.4	
23	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.6	4.2	2.1	
24	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.6)	4.0	2.7	
25	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.6)	4.5	1.7	
26	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	4.6	2.3	
27	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.8)	2.3	
28	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.4	2.1	
29	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	3.7	2.2	
30	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	5.0	2.2	内外面口縁部スス付着
31	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.9	4.4	2.2	内外面被熱
32	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	4.3	2.1	
33	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.2)	(4.6)	2.3	
34	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.6)	2.3	
35	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.2	2.3	
36	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.6	2.2	
37	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	5.0	2.2	
38	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.2)	(4.8)	2.2	
39	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	(3.5)	2.4	
40	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.1	2.2	
41	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	5.0	1.9	
42	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.4	2.4	
43	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	6.0	1.8	
44	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.9	4.4	1.8	
45	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.5	1.7	
46	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	4.8	1.8	
47	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	5.2	1.8	
48	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.4)	(4.0)	1.9	
49	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	5.0	1.6	
50	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.5	1.7	
51	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	5.0	1.5	
52	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	(5.8)	1.6	
53	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	4.9	1.8	
54	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	5.5	1.8	
55	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	5.5	2.0	
56	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	5.5	1.0	内外面口縁部スス付着
57	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.5	5.3	2.0	内外面口縁部スス付着
58	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	4.3	1.9	外面口縁部スス付着
59	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	(4.4)	2.0	



北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
60	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.3	1.8	
61	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	5.0	1.7	
62	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	5.8	1.5	
63	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.4	1.5	
64	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	6.1	1.9	
65	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	(6.0)	1.6	
66	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	6.1	1.8	
67	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	5.6	1.7	
68	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.6)	1.6	
69	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.7	1.8	
70	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.2	5.0	1.7	
71	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	4.0	1.7	
72	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	5.2	1.8	
73	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.2)	1.8	
74	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.4)	1.8	
75	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	5.6	2.2	
76	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	5.7	2.0	
77	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(8.0)	6.0	1.9	
78	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(8.0)	6.4	1.9	
79	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	8.1	5.7	1.8	
80	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	4.6	1.6	
81	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	5.0	1.6	外面被熱
82	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.0)	1.5	
83	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.2	5.2	1.7	
84	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.9	4.5	1.7	
85	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	5.2	2.0	
86	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	(5.0)	1.4	
87	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	5.6	1.7	
88	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.5	1.9	
89	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.5	1.7	
90	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.9	1.8	
91	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.0)	1.9	
92	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.1	1.7	
93	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.0	4.4	1.9	
94	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(4.2)	1.8	
95	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.2	1.7	
96	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	5.4	1.8	
97	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.3	5.0	2.0	
98	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.6	1.7	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
99	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	(6.0)	1.7	
100	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.2	4.8	2.0	
101	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.8	1.8	
102	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.8	1.7	
103	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.5	1.6	
104	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.5	5.0	1.8	
105	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.2	1.7	
106	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	(4.8)	1.7	
107	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.6	1.7	
108	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	5.8	1.7	
109	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	4.8	1.9	
110	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	5.3	1.8	
111	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	5.2	1.9	
112	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.5	5.0	1.8	
113	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	6.0	1.8	
図18 3面遺構出土遺物(4)								
114	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	5.4	2.6	
115	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	5.4	1.6	
116	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(6.8)	5.7	1.7	
117	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	6.8	5.4	1.9	
118	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.1	5.3	2.3	
119	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.2)	5.0	1.7	
120	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.8)	1.7	内面スス付着
121	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	5.7	1.8	内外面被熱
122	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.6	6.0	1.8	
123	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.6)	6.0	1.8	
124	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.2)	(5.2)	1.9	
125	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.5	1.8	
126	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	5.1	1.9	内外面被熱
127	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	5.3	2.1	
128	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.0)	(6.0)	1.6	
129	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.8	5.4	1.7	
130	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	5.2	1.5	
131	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.2)	(6.2)	1.6	
132	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.4	5.9	1.9	
133	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.8)	6.2	1.6	
134	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.2	4.8	2.0	
135	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(7.4)	(5.4)	1.9	
136	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	7.7	6.1	2.0	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
137	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(8.6)	(5.2)	2.0	
138	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	8.0	5.8	2.4	
139	3面	遺構69	土器	墨書かわらけ皿	(7.8)	(4.4)	2.1	
140	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	(7.4)	(5.8)	1.8	
141	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	(7.4)	(5.6)	1.7	
142	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	7.4	5.3	[1.0]	
143	3面	遺構69	土器	打ち欠き	[6.8]	6.8	[0.9]	
144	3面	遺構69	土器	打ち欠き	[6.3]	6.0	[1.1]	
145	3面	遺構69	土器	打ち欠き	[6.7]	6.6	[0.8]	
146	3面	遺構69	土器	打ち欠き	[5.5]	3.9	0.7	
147	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	3.6	3.5	2.9	
148	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(9.8)	6.8	2.9	内外面被熱
149	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(9.8)	(6.4)	2.9	
150	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.2)	6.4	2.9	
151	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.4)	(6.8)	3.3	
152	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	10.4	6.0	3.1	
153	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	10.6	6.8	3.2	
154	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.6)	(6.8)	3.1	
155	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.6)	(7.0)	3.3	
156	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.6)	(6.2)	3.0	内外面口縁部スス付着
157	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.6)	6.8	3.1	
158	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	10.6	6.6	2.9	
159	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.6)	(6.2)	2.9	
160	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.8)	(6.4)	2.7	
161	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.8)	7.4	2.9	
162	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(10.8)	(6.4)	3.0	
163	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.0)	6.2	3.3	
164	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	6.6	2.9	
165	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.6)	2.8	
166	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.6	8.0	3.4	
167	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.8	7.4	3.4	
168	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.7	7.4	3.2	
169	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	8.0	2.9	
170	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	7.0	3.6	
171	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.6)	3.2	
172	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.2	8.0	3.5	
173	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	8.0	3.0	
174	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.4	7.4	3.5	
175	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	(8.0)	3.3	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構	種別	計測値 単位:cm			備考		
			口径・長	底径・幅	器高・厚			
図19 3面遺構出土遺物(5)								
176	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	(8.0)	3.2	
177	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	(7.2)	3.5	
178	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	8.0	3.5	
179	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.8)	7.8	3.8	内面被熱
180	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.8)	(7.4)	3.3	
181	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(13.4)	(8.4)	3.5	
182	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(13.4)	(8.0)	3.0	
183	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(13.4)	(7.0)	3.5	
184	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(13.6)	8.4	3.5	
185	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.0	7.6	3.1	
186	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.2	7.0	3.1	
187	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	6.5	2.9	
188	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.2)	(7.8)	3.2	
189	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.3	7.2	3.4	
190	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	(6.8)	3.3	
191	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.4	7.6	3.5	
192	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	(8.2)	3.0	
193	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	7.0	2.9	
194	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	(8.4)	3.4	内面被熱
195	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	(7.0)	3.5	
196	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.9	7.5	3.4	
197	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.4)	7.7	3.3	
198	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.5	7.4	3.4	
199	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.4	3.2	
200	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.4	3.6	内外面被熱
201	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.6	3.5	
202	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.6	7.0	3.6	内面被熱
203	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.6	7.7	3.5	
204	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.0	3.2	内外面口縁部スス付着
205	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	(6.6)	3.2	
206	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.5	3.2	
207	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.7	8.0	3.2	
208	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.0)	3.1	
209	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.6)	7.2	3.1	
210	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.0)	2.9	内外面口縁部スス付着
211	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	(8.0)	2.1	
212	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.8	7.3	2.9	
213	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.4)	3.4	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
214	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.8	7.4	3.5	外面被熱
215	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.0)	(8.0)	3.1	
216	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	7.8	3.1	
217	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.8	3.1	
218	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.5	8.0	3.5	
219	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.8	7.5	3.5	内面口縁部被熱
220	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	7.8	3.5	
221	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	11.8	6.8	3.7	内外面被熱
222	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	8.2	3.5	
223	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	8.2	3.3	
224	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.8)	(7.4)	3.1	
225	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(11.2)	(8.0)	3.5	
図20 3面遺構出土遺物(6)								
226	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	7.0	3.0	
227	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	7.6	3.2	
228	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.1	7.0	3.5	
229	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	7.4	3.7	
230	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.6	3.3	
231	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.1	8.3	3.4	
232	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	7.5	3.0	
233	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.2	7.4	3.2	
234	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.2)	(8.0)	2.9	
235	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.3	7.7	3.4	
236	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.2	8.0	3.3	
237	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.2	7.6	3.2	
238	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.2)	(6.4)	2.9	内外面被熱
239	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.4	3.0	内外面被熱
240	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	7.5	3.4	内外面口縁部スス付着
241	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.0	8.0	3.2	内外面被熱
242	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	7.6	3.2	内外面口縁部スス付着
243	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.5)	(8.6)	3.1	
244	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	12.4	7.8	3.4	
245	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	7.8	3.2	
246	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	(8.0)	3.0	
247	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	7.6	3.6	
248	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	(8.4)	3.4	
249	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(13.0)	(8.4)	3.4	内外面被熱
250	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.6)	8.2	3.6	
251	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.4)	7.5	3.8	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
252	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	(12.8)	(8.0)	3.4	
253	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	-	(2.9)	[2.8]	
254	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	-	[6.5]	[1.4]	
255	3面	遺構69	土器	穿孔かわらけ皿	-	8.2	3.5	
256	3面	遺構69	土器	打ち欠き	-	7.3	[1.2]	
257	3面	遺構69	土器	打ち欠き	-	8.5	[1.2]	
258	3面	遺構69	土器	打ち欠き	-	[4.8]	-	
259	3面	遺構69	土器	打ち欠き	-	[4.5]	[1.0]	
260	3面	遺構69	土器	かわらけ皿	-	-	[2.1]	内面黒漆付着
261	3面	遺構69	瓦	平瓦	9.5	8.7	1.7	
262	3面	遺構69	石製品	河原石	4.0	3.6	1.9	磨滅、結った紐痕あり
図21 3面遺構出土遺物(7)								
263	3面	遺構69	木製品	草履芯	[15.1]	4.5	0.2	
264	3面	遺構69	木製品	草履芯	[6.5]	[2.6]	0.2	
265	3面	遺構69	木製品	草履芯	[8.4]	[2.0]	0.3	
266	3面	遺構69	木製品	草履芯	[9.8]	[3.0]	0.3	
267	3面	遺構69	木製品	草履芯	[5.8]	[2.7]	0.3	
268	3面	遺構69	木製品	容器底	[11.9]	[3.6]	0.3	
269	3面	遺構69	木製品	飲食器	[8.6]	13.0	0.4	
270	3面	遺構69	木製品	箱物部材	[11.0]	2.0	0.4	
271	3面	遺構69	木製品	箱物部材	[6.7]	2.3	0.2	穿孔あり
272	3面	遺構69	木製品	用途不明	[5.2]	2.0	0.2	焦げ痕
273	3面	遺構69	木製品	籠状製品	13.4	1.6	0.3	焦げ痕
274	3面	遺構69	木製品	杭	19.9	2.0	1.7	
275	3面	遺構69	木製品	建具部材	[18.7]	1.5	0.9	焦げ痕
276	3面	遺構69	木製品	用途不明	20.0	[1.1]	0.4	
277	3面	遺構69	木製品	用途不明	15.7	1.1	0.5	
278	3面	遺構69	木製品	用途不明	[12.8]	0.9	0.6	
279	3面	遺構69	木製品	串状製品	[13.8]	1.0	0.4	
280	3面	遺構69	木製品	箸	20.0	0.5	0.4	
281	3面	遺構69	木製品	箸	18.9	0.8	0.5	
282	3面	遺構69	木製品	箸	[20.2]	0.6	0.5	
283	3面	遺構69	木製品	箸	17.4	0.6	0.5	
284	3面	遺構69	木製品	箸	[21.8]	0.8	0.6	
図22 3面出土遺物								
1	3面	-	瀬戸窯	輪花灰釉入子	2.9	1.7	1.2	8弁文
2	3面	-	瀬戸窯	片口鉢	-	-	(6.9)	
3	3面	-	土器質	火鉢	-	-	10.8	
4	3面	-	土器	かわらけ皿	(7.4)	(5.2)	1.5	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
5	3面	-	土器	かわらけ皿	7.8	5.8	2.1	
6	3面	-	土器	かわらけ皿	(7.2)	(5.2)	1.5	
7	3面	-	土器	かわらけ皿	(7.8)	(5.4)	2.0	内外面口縁部スス付着
8	3面	-	土器	かわらけ皿	12.2	7.0	3.4	
9	3面	-	土器	かわらけ皿	(12.6)	(6.3)	3.3	内外面口縁部スス付着
10	3面	-	土製品	円盤状土製品	3.7	3.7		
11	3面	-	瓦	丸瓦	6.1	7.2	1.5	
12	3面	-	木製品	漆器皿	-	5.4	(0.4)	楓文
図25 4面遺構出土遺物(1)								
1	4面	遺構4	木製品	底板	21.4	21.0	0.6	刃物傷あり
2	4面	遺構4	木製品	底板	11.0	(4.5)	0.7	
3	4面	遺構4	木製品	木栓	2.4	2.4	-	
4	4面	遺構4	木製品	杖毬球	5.8	6.2	-	
5	4面	遺構4	木製品	部材	25.7	2.9	1.0	
6	4面	遺構4	木製品	部材	15.2	2.5	0.6	釘1本残る
7	4面	遺構4	木製品	部材	15.0	0.7	0.5	釘2本残る
8	4面	遺構4	木製品	串状製品	17.4	1.1	0.5	
9	4面	遺構4	木製品	串状製品	17.3	1.8	1.2	焦げ痕
10	4面	遺構4	木製品	串状製品	33.2	1.0	1.0	
11	4面	遺構4	木製品	用途不明	27.5	1.0	0.8	
12	4面	遺構4	木製品	箸	24.2	0.8	0.6	
13	4面	遺構4	木製品	箸	25.2	1.0	0.7	
14	4面	遺構4	木製品	箸	21.2	0.9	0.4	
15	4面	遺構4	木製品	箸	21.9	0.8	0.6	
図26 4面遺構出土遺物(2)								
16	4面	遺構4	木製品	板草履芯	26.3	8.0	0.4	
17	4面	遺構4	木製品	板草履芯	15.2	4.8	0.3	
18	4面	遺構4	木製品	下駄	15.5	5.0	-	一本造り
19	4面	遺構4	木製品	下駄	10.3	5.2	-	一本造り
20	4面	遺構4	木製品	下駄	9.2	7.2	-	焦げ痕 一本造り
図27 4面遺構出土遺物(3)								
21	4面	遺構15	瀬戸窯	灰釉洗	-	-	[3.6]	前期 I - Ia 13世紀前
22	4面	遺構15	土器	かわらけ皿	7.6	4.9	2.3	
23	4面	遺構15	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.0	3.2	
24	4面	遺構15	木製品	用途不明	6.7	[3.5]	0.6	
25	4面	遺構15	木製品	杖毬球	4.0	4.1	3.4	
26	4面	遺構15	木製品	板草履芯	[11.1]	5.0	0.3	
27	4面	遺構15	木製品	板草履芯	18.5	5.0	0.3	
28	4面	遺構15	木製品	折敷	19.7	3.5	0.4	



北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
29	4面	遺構15	木製品	杭	7.0	2.4	0.5	焦げ痕
30	4面	遺構15	木製品	杭	18.2	2.1	0.8	焦げ痕
31	4面	遺構15	木製品	板状製品	18.2	1.0	0.3	
32	4面	遺構15	木製品	角杭	28.4	5.4	2.1	
33	4面	遺構15	木製品	杭	19.5	2.7	1.8	
34	4面	遺構15	木製品	板状製品	13.6	1.2	0.5	
35	4面	遺構15	木製品	箸	21.3	0.8	0.4	
36	4面	遺構15	木製品	箸	22.3	0.6	0.4	
37	4面	遺構15	木製品	箸	21.5	0.6	0.4	
38	4面	遺構15	木製品	箸	21.5	0.6	0.4	
図28 4面遺構出土遺物(4)								
39	4面	遺構70	土器	白かわらけ皿	(7.4)	4.2	1.7	
40	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	7.5	5.5	1.6	
41	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	7.3	5.3	1.9	
42	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	(8.0)	(5.0)	2.0	
43	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	7.6	5.6	1.9	
44	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	7.7	5.2	1.7	
45	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	(12.0)	7.6	3.5	
46	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	(12.2)	(8.0)	3.2	
47	4面	遺構70	土器	かわらけ皿	(13.0)	7.8	3.3	
48	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	(7.0)	4.5	2.4	
49	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	7.8	5.0	1.9	
50	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	8.6	5.6	2.0	
51	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	(10.6)	(5.6)	3.1	
52	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	(10.6)	(5.6)	3.6	
53	4面	遺構72	土器	かわらけ皿	(10.6)	(5.6)	3.6	
54	4面	遺構72	木製品	草履芯	[7.2]	[3.0]	0.2	
55	4面	遺構72	木製品	籠状製品	20.0	1.2	1.0	
56	4面	遺構72	木製品	箱物部材	21.4	[3.0]	0.2	
57	4面	遺構72	木製品	箸	21.2	0.7	0.4	
58	4面	遺構72	木製品	箸	[18.4]	0.5	0.5	
59	4面	遺構72	木製品	箸	20.8	0.6	0.4	
60	4面	遺構72	木製品	箸	[16.0]	0.6	0.5	
61	4面	遺構72	木製品	箸	[17.7]	0.8	0.5	
62	4面	遺構72	木製品	箸	[18.3]	0.8	0.5	
63	4面	遺構72	木製品	箸	21.2	0.9	0.3	
64	4面	遺構72	木製品	箸	17.9	0.7	0.4	
65	4面	遺構72	木製品	箸	19.5	0.7	0.4	
66	4面	遺構72	木製品	箸	[18.0]	0.6	0.4	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
67	4面	遺構72	木製品	箸	[19.8]	0.6	0.5	
68	4面	遺構72	木製品	箸	[18.0]	0.6	0.4	
69	4面	遺構72	木製品	箸	20.6	0.6	0.4	
70	4面	遺構72	木製品	箸	20.6	0.7	0.4	
71	4面	遺構72	木製品	箸	21.6	0.5	0.5	
72	4面	遺構72	木製品	箸	23.1	0.6	0.3	
73	4面	遺構72	木製品	箸	24.8	0.6	0.5	
74	4面	遺構72	木製品	箸	24.5	0.6	0.4	
図29 4面出土遺物								
75	4面	-	常滑窯	甕	-	-	[15.3]	6a(1275)年
76	4面	-	土器	かわらけ皿	7.0	4.9	1.9	
77	4面	-	土器	かわらけ皿	7.6	5.2	2.0	
78	4面	-	土器	かわらけ皿	7.9	4.5	2.0	
79	4面	遺構67	土器	かわらけ皿	(6.6)	(5.4)	1.4	
80	4面	遺構67	土器	かわらけ皿	(7.0)	(5.2)	1.7	
81	4面	遺構68	土器	かわらけ皿	(7.6)	5.0	1.7	
82	4面	遺構68	土器	かわらけ皿	(7.4)	4.4	1.8	
83	4面	遺構68	土器	かわらけ皿	(12.6)	(7.8)	3.3	
84	4面	遺構68	土器	かわらけ皿	-	[4.0]	[0.9]	
85	4面	-	土器	かわらけ皿	(12.0)	(7.0)	3.2	
86	4面	-	土器	かわらけ皿	(12.2)	(7.2)	3.2	内外面被熱
87	4面	-	鉄製品	火箸	12.2	0.7	0.7	
88	4面	-	木製品	調度具脚	4.6	2.5	4.6	
89	4面	-	木製品	用途不明	[10.8]	2.5	0.6	
90	4面	-	木製品	容器底	33.0	[10.0]	1.1	
図35 5面遺構出土遺物(1)								
1	5面	遺構18	木製品	建具部材	31.6	2.2	0.9	
2	5面	遺構18	木製品	用途不明	16.2	4.2	2.4	焦げ痕
3	5面	遺構18	木製品	串状製品	17.2	0.8	0.4	
4	5面	遺構18	木製品	呪符	14.7	1.5	0.3	
5	5面	遺構25	土器	かわらけ皿	12.2	-	3.4	手づくね
6	5面	遺構30	磁器	碗	-	5.5	[1.9]	龍泉窯青磁 劃花文
7	5面	遺構30	土器	かわらけ皿	8.2	-	1.8	手づくね
8	5面	遺構30	土器	かわらけ皿	(9.4)	(6.0)	2.1	手づくね
9	5面	遺構30	土器	かわらけ皿	12.0	8.4	3.2	
10	5面	遺構32	土器	かわらけ皿	7.0	5.0	2.0	
11	5面	遺構32	土器	かわらけ皿	(10.6)	(7.0)	3.0	
12	5面	遺構32	土器	かわらけ皿	(11.6)	(7.0)	3.1	
13	5面	遺構76	木製品	用途不明	21.4	1.6	0.6	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

№	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
14	5面	遺構76	木製品	箸	22.4	0.6	0.5	
15	5面	遺構76	木製品	用途不明	10.1	2.6	1.2	
16	5面	遺構78	木製品	棒状製品	27.4	1.4	0.6	
17	5面	遺構78	木製品	棒状製品	(15.8)	1.2	0.7	
18	5面	遺構78	木製品	用途不明	15.2	2.2	0.6	
19	5面	遺構79	土器	かわらけ皿	(12.6)	(8.6)	2.9	
20	5面	遺構85	土器	かわらけ皿	(11.2)	8.0	2.5	
21	5面	遺構85	木製品	籠状製品	17.5	0.7	0.5	
図36 5面出土遺物(1)								
22	5面	-	磁器	皿	9.6	4.6	2.2	同安窯青磁
23	5面	-	土器	かわらけ皿	(7.2)	(5.8)	1.6	内面被熱
24	5面	-	土器	かわらけ皿	7.6	5.9	1.7	
25	5面	-	土器	かわらけ皿	8.0	5.5	1.9	
26	5面	-	土器	かわらけ皿	(9.0)	7.0	1.6	
27	5面	-	土器	白かわらけ皿	-	-	[2.0]	
28	5面	-	土器	白かわらけ皿	-	-	[2.2]	
29	5面	-	土器	打ち欠き	-	[4.8]	[1.5]	
30	5面	-	石製品	砥石	7.2	4.0	2.7	中砥 鳴滝産 砂粒泥岩
31	5面	-	木製品	漆器皿	[2.1]	[1.8]	0.4	スタンプ文 亀甲
32	5面	-	木製品	漆器皿	[2.4]	[3.3]	0.3	手描き文 萩
33	5面	-	鉄製品	釘	8.3	0.4	0.3	
34	5面	-	銭	皇宋通寶	-	-	-	北宋(1038年)
35	5面	-	木製品	草履芯	22.6	10.0	0.2	
36	5面	-	木製品	草履芯	23.2	3.4	0.3	
37	5面	-	木製品	草履芯	[16.5]	4.3	0.5	
38	5面	-	木製品	草履芯	[11.5]	3.8	0.3	
39	5面	-	木製品	草履芯	[14.4]	2.5	0.4	
40	5面	-	木製品	草履芯	[7.2]	3.3	0.25	
41	5面	-	木製品	草履芯	[10.8]	4.4	0.2	
42	5面	-	木製品	形代	3.8	1.4	1.5	焦げ痕
43	5面	-	木製品	草履芯	12.9	3.7	1.7	焦げ痕
44	5面	-	木製品	容器	[10.9]	4.3	0.5	
45	5面	-	木製品	用途不明	10.7	1.0	1.0	
46	5面	-	木製品	用途不明	14.8	6.2	0.5	
47	5面	-	木製品	用途不明	7.4	3.2	0.5	穿孔
48	5面	-	木製品	底板	7.0	2.2	0.3	
49	5面	-	木製品	用途不明	13.4	4.2	1.3	
50	5面	-	木製品	用途不明	-	[14.6]	0.1	
51	5面	-	木製品	箱物部材	22.8	1.7	0.5	

北条時房・顕時邸跡 遺物法量表

No	遺構		種別		計測値 単位:cm			備考
					口径・長	底径・幅	器高・厚	
図37 5面出土遺物(2)								
52	5面	-	木製品	形代?	24.8	1.4	1.8	
53	5面	-	木製品	籠状製品	22.4	1.1	0.7	
54	5面	-	木製品	籠状製品	22.5	1.0	0.7	
55	5面	-	木製品	用途不明	20.0	[2.4]	0.5	焦げ痕
56	5面	-	木製品	用途不明	21.5	1.6	1.2	
57	5面	-	木製品	箸	[17.5]	0.6	0.5	
58	5面	-	木製品	箸	20.3	0.5	0.5	
59	5面	-	木製品	箸	20.0	0.6	0.4	
60	5面	-	木製品	箸	20.1	0.6	0.6	
61	5面	-	木製品	箸	19.9	0.6	0.5	
62	5面	-	木製品	箸	21.8	1.1	0.4	
63	5面	-	木製品	箸	23.4	0.5	0.5	
64	5面	-	木製品	箸	23.5	0.5	0.5	
65	5面	-	木製品	丸木杭	[15.6]	2.9	2.2	焦げ痕
66	5面	-	木製品	丸木杭	[14.9]	2.6	2.5	
67	5面	-	木製品	丸木杭	[12.5]	2.5	2.5	
68	5面	-	木製品	高下駄の歯	[9.3]	16.6	2.7	



1. I区1面全景  
(西から)



2. II区1面全景  
(西から)



3. II区1面遺構47溝  
(北から)

4. II区1面全景 (東から)

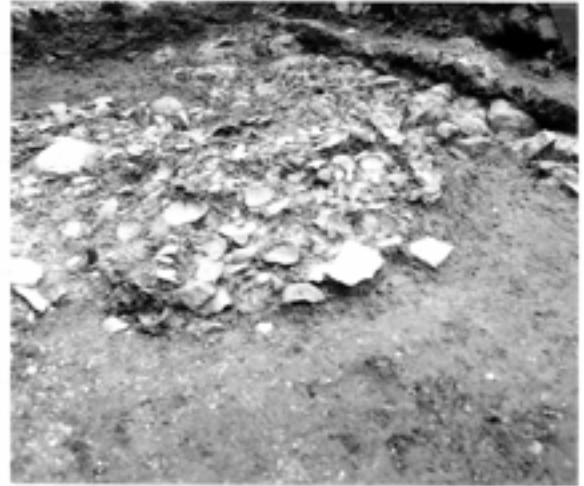


5. II区2面全景 (西から)

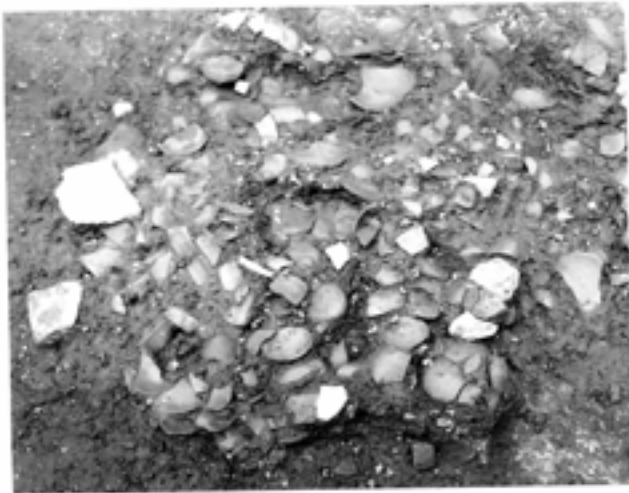




1. I区2面遺構1 (かわらけ溜り)



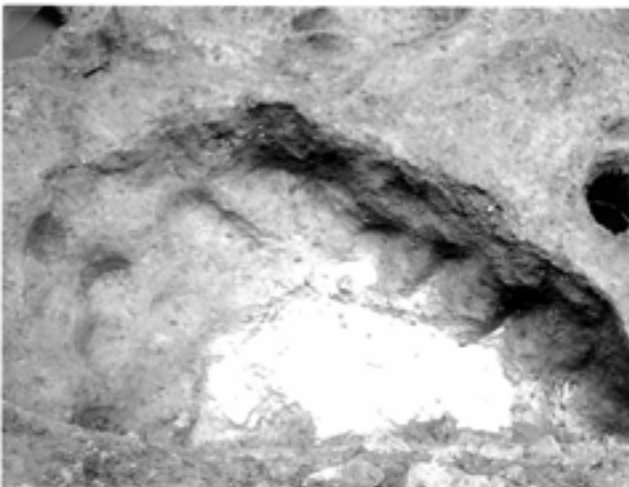
2. I区2面同



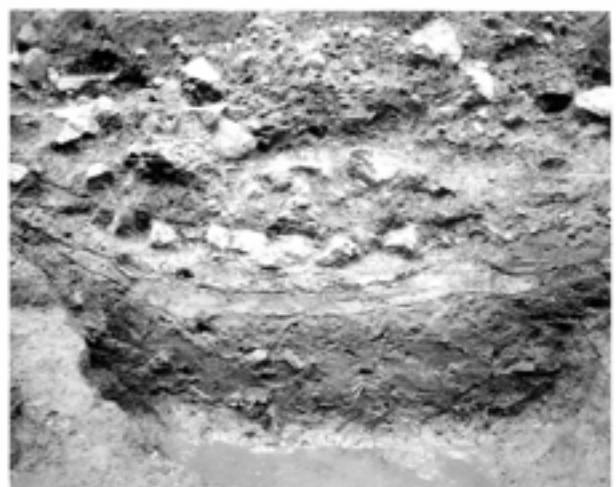
3. I区2面同



4. I区2面遺物出土状況 (北から)



5. I区5面遺構18 (北から)



6. 同堆積土層 (南から)



1. I区2面全景（西から）



2. II区2面全景（西から）



3. I区2面土丹検出状況（西から）



4. I区4面全景（西から）



1. II区4面遺構65・66・69（西から）



2. II区4面遺構67・68（東から）



3. II区4面遺構67・68（南から）



4. II区4面遺構67・68（東から）





1. I区5面全景（東から）



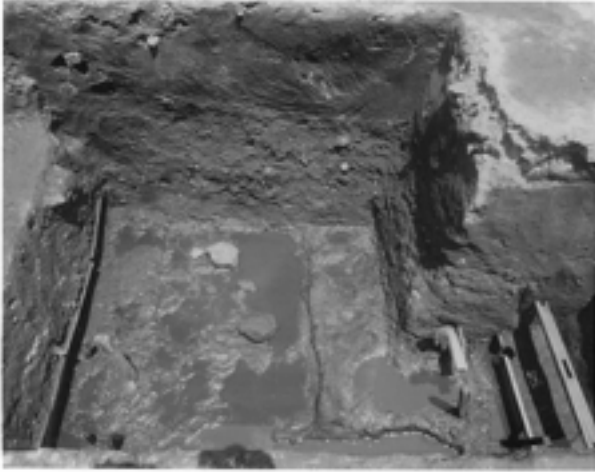
2. I区5面柱穴検出状況（南から）

3. II区5面  
西側部分（東から）



4. I区5面  
板材・杭検出状況  
（東から）

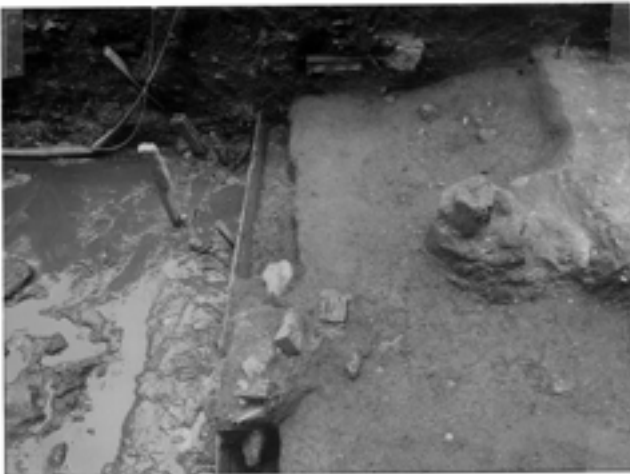




1. II区4面遺構65・66・69 大路側溝



2. 大路側溝部分



3. ▲遺構69西壁板検出状況（北から）

5. ▼遺構65・66・69（東から）



4. ▲大路側溝部分

5. ▼堆積土層（西から）

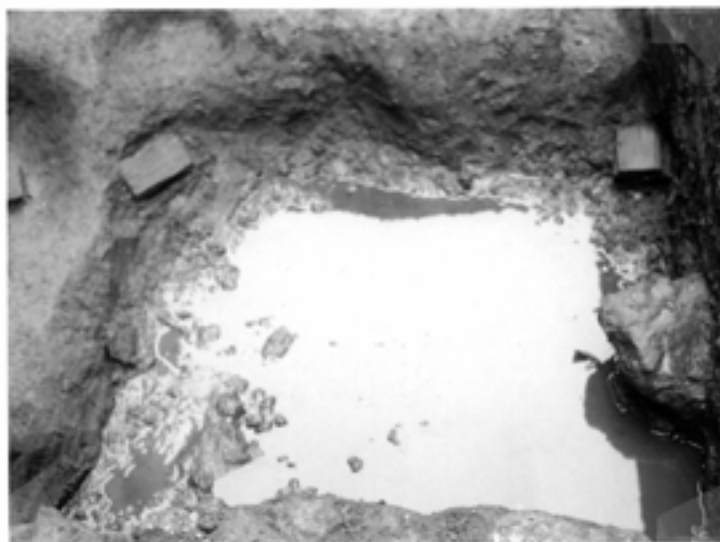




1. I区5面全景（東から）



2. II区5面全景（東から）



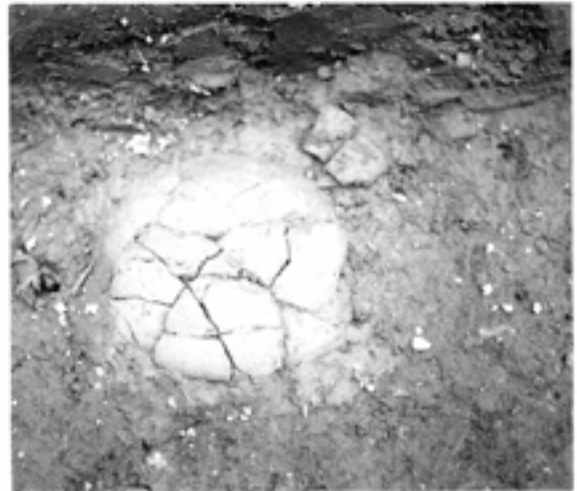
3. I区5面（西から）



3. II区地山面（東から）



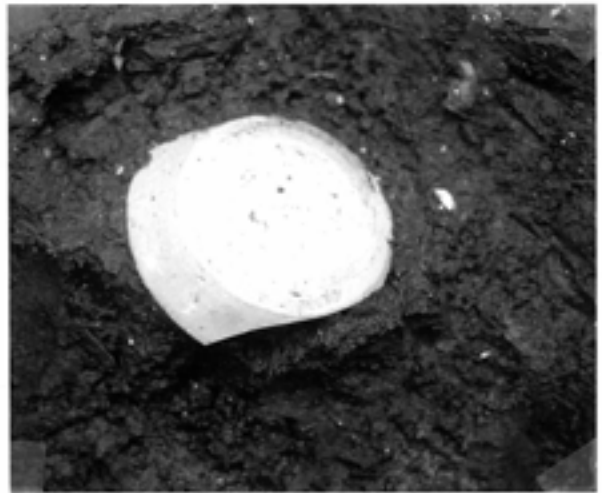
1. 2面銅製品出土状況（東から）



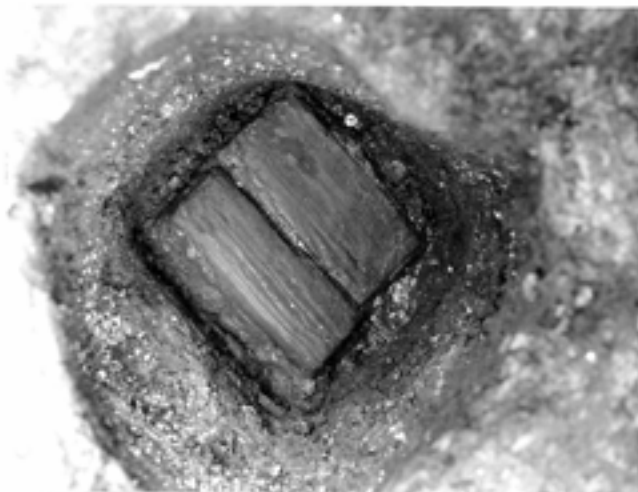
2. 3面かわらけ出土状況（南から）



3. 5面木製品出土状況（南から）



4. 5面白磁口元皿出土状況（北から）



5. 遺構6礎盤出土状況（東から）



6. 側溝出土の地覆材

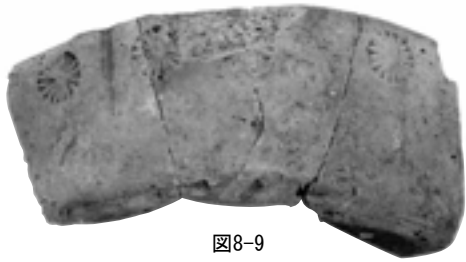


图8-9

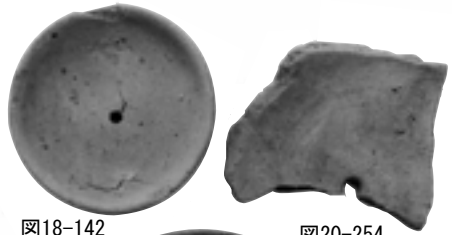


图18-142

图20-254

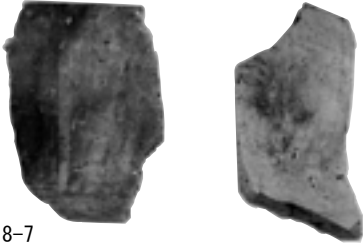


图8-7

图8-8



图20-253

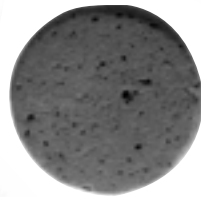


图22-10

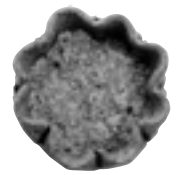


图22-1



遺構69



图15-36

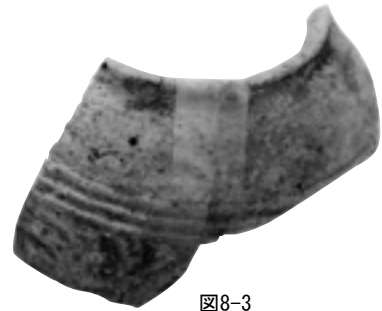


图8-3



遺構66

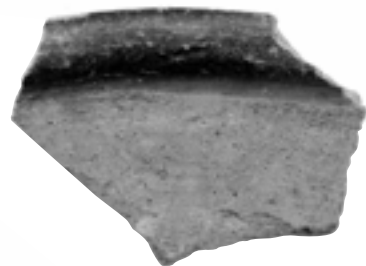


图29-75

出土遺物 (1)





图8-6



图8-4



图8-5



图8-1



图36-43



图27-24



图37-52



图35-13



图36-35



图16-56



图25-2



图29-90



图21-268



图28-68



图28-71



图28-72



图28-74



图29-88



图27-25

出土遺物 (2)

### 1. はじめに

北条時房・顕時邸跡において行われた発掘調査で、出土遺物等から 13 世紀中葉～14 世紀と考えられている溝状の遺構が検出された。以下に、この溝状遺構より採取された土壌試料について花粉分析を行い、当時の遺跡周辺の古植生について検討した。

### 2. 試料と分析方法

試料は、調査Ⅱ区南壁に認められた溝状の遺構の西壁（試料 No. 1, 2）および東壁（試料 No. 3～6）より採取された 6 試料である。各試料について、試料 No. 1 は黒褐色の泥炭質粘土で、暗褐色粘土の小塊が多く混入している。試料 No. 2 はかたくしまったオリーブ緑色の粘土で、粘性が高く、小空隙が散在している。試料 No. 3 は黒灰色の粘土混じり砂で、微小貝片が散在している。試料 No. 4 は暗褐色粘土で、下位層の塊が散在しており、一部は火炎状に認められる。試料 No. 5 は粘性の高い黒～黒褐色の砂質粘土である。試料 No. 6 は粘性の高いオリーブ緑色の粘土である。時期については出土遺物から、13 世紀中葉～14 世紀と考えられている。花粉分析はこれら 6 試料について以下のような手順にしたがって行った。

試料（湿重約 5g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え 20 分間湯煎する。水洗後、0.5mm 目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に 46%のフッ化水素酸溶液を加え 20 分間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸 9 : 1 濃硫酸の割合の混酸を加え 3 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフランにて染色を施した。

### 3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 25、草本花粉 22、形態分類を含むシダ植物胞子 3 の総計 50 である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表 1 に、それらの分布を図 1 に示したが、試料 No. 2, 4, 5 については得られた樹木花粉総数が非常に少なく分布図として示すことができなかった。なお分布図について、樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子・藻類は全花粉胞子総数を基数として百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、試料 No. 1 ではスギが最も多く、出現率は 40%に達している。次いでコナラ属アカガシ亜属が 21%を示して多く検出されている。その他では、マツ属複維管束亜属（アカマツ、クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）やコナラ属コナラ亜属が 5%前後得られている。また、草本類ではイネ科が最も多く、出現率は 50%近くを示している。その他、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科、ヨモギ属が 5%前後観察されている。

試料 No. 2 において、少ない樹木花粉ではニヨウマツ類が最も多く、草本花粉ではイネ科が最も多く検出されている。

試料 No. 3 ではニヨウマツ類とコナラ亜属が多く検出されており、出現率は 25%前後を示している。次いで約 14%のスギが多く観察されており、その他ではアカガシ亜属やエノキ属ームクノキ属が 5%前後を示し

ている。草本類ではイネ科が圧倒的に多く、出現率は 60%を超えている。その他ではアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属が出現率はそれほど高くはないが個数的にはやや多く観察されている。

試料 No. 4 からは花粉やシダ植物胞子はまったく観察されなかった。

試料 No. 5 においても花粉や胞子の検出数は少なく、その中ではイネ科と単条型胞子がやや目立って得られている。

試料 No. 6 においても検出できた花粉化石数は少なく、分布図については参考程度にみて頂きたい。樹木花粉で最も多く観察されたのはアカガシ亜属で、コナラ亜属、シイノキ属－マテバシイ属、スギ、クマシデ属－アサダ属が続いている。また、草本類ではイネ科が最も多く検出されており、その他では単条型のシダ植物胞子が多産している。

#### 4. 遺跡周辺の古植生

先にも記したが、分析試料の堆積時期は 13 世紀中葉～14 世紀で、試料 No. 6～試料 No. 1 の順に新しいと考えられており、これを基に北条時房・顕時邸跡周辺の古植生について検討した。

13 世紀中葉頃（試料 No. 6）の北条時房・顕時邸跡周辺の植生はアカガシ亜属やシイノキ属－マテバシイ属を中心とした照葉樹林が成立していたと推測される。また、一部にはスギ林やコナラ亜属などの落葉広葉樹林も分布していたとみられる。

その後の 13 世紀中葉～14 世紀（試料 No. 3）の北条時房・顕時邸跡周辺の植生はニヨウマツ類やコナラ亜属の二次林が分布を広げ、スギ林も依然として一部に成立していたと推測される。一方、照葉樹林は大きく縮小したとみられる。この時期の草本類はイネ科が多産しており、このイネ科を中心にアカザ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの雑草類が広く生育していたと推測される。

14 世紀（試料 No. 1）の北条時房・顕時邸跡周辺はスギ林が分布を広げ、照葉樹林も再び林分を拡大したとみられる。また、依然としてイネ科、アカザ科－ヒユ科、ヨモギ属、タンポポ科などの雑草類が多くみられたことが推測される。

鎌倉市内においてこれまで多くの遺跡で花粉分析が行われてきた。その結果、鎌倉の森林植生は 13 世紀前半から後半にかけて大きく変わった、すなわちスギ、アカガシ亜属、シイノキ属－マテバシイ属からマツ属複維管束亜属へと植生の交代があったことが明らかになってきた（鈴木，1999）。上記した北条時房・顕時邸跡の 13 世紀中頃（試料 No. 6）では照葉樹林が優勢であり、13 世紀中葉～14 世紀（試料 No. 3）になってニヨウマツ類やコナラ亜属の二次林が拡大したと推測され、これはこれまでの結果を支持していると考えられる。一方、14 世紀頃と考えられる試料 No. 1 においてはスギ林が優勢であり、照葉樹林も再び分布を広げたと花粉分析結果から推測されており、ニヨウマツ類の二次林が広がった様相は示されていない。試料 No. 1 の土相は黒褐色の泥炭質粘土であるが、暗褐色粘土の小塊が多く混入していることから、古い時期の堆積物が混入している可能性も推察される。すなわち、試料 No. 1 にスギや商用樹が多いと推測されている 13 世紀前半以前の土壌が混入していたことも考えられ、試料 No. 1 から推測される植生については時期を含めさらに検討が必要と思われる。

#### 引用文献

鈴木 茂(1999)神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊. 国立歴史民俗博物館研究報告, 81, 131-139.



表1 産出花粉化石一覽表

和名	学名	1	2	3	4	5	6
樹木							
マキ属	<i>Podocarpus</i>	3	-	-	-	-	-
モミ属	<i>Abies</i>	1	1	4	-	-	3
ツガ属	<i>Tsuga</i>	5	-	2	-	-	-
マツ属複維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	6	-	54	-	-	2
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	1	1	23	-	-	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	3	-	1	-	-	-
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	42	11	30	-	1	8
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T.- C.	3	-	1	-	-	-
ヤマモモ属	<i>Myrica</i>	1	-	1	-	-	-
クルミ属	<i>Juglans</i>	-	-	2	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	2	2	6	-	-	7
カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	-	-	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	-	2	-	-	-
イヌブナ	<i>Fagus japonica</i> Maxim.	-	-	1	-	-	1
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	9	-	52	-	3	11
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	21	3	11	-	1	15
クリ属	<i>Castanea</i>	-	-	2	-	-	2
シイノキ属-マテバシイ属	<i>Castanopsis - Pasania</i>	3	2	-	-	2	9
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	1	-	2	-	-	3
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	-	-	9	-	-	1
フウ属	<i>Liquidamber</i>	-	-	2	-	-	-
ウルシ属	<i>Rhus</i>	1	-	1	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	1
ウコギ科	Araliaceae	2	-	2	-	-	-
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	-	-	1	-	-	-
-----							
草本							
イネ科	Gramineae	232	45	854	-	12	34
カヤツリグサ科	Cyperaceae	32	5	14	-	3	8
ユリ科	Liliaceae	1	-	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	-	-	1	-	-	-
ギシギシ属	<i>Rumex</i>	-	-	1	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	2	-	-	-	-	-
イタドリ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Reynoutria</i>	-	-	2	-	-	-
他のタデ属	other <i>Polygonum</i>	2	-	-	-	-	-
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	-	-	1	-	-	-
アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	18	4	93	-	2	5
ナデシコ科	Caryophyllaceae	5	1	1	-	-	-
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	-	4	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	5	-	32	-	-	3
ワレモコウ属	<i>Sanguisorba</i>	-	-	2	-	-	-
マメ科	Leguminosae	1	-	2	-	-	-
トウダイグサ科	Euphorbiaceae	2	1	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	-	4	-	-	-
アカネ属-ヤエムグラ属	<i>Rubia - Galium</i>	1	-	-	-	-	-
ベニバナ属	<i>Carthamus</i>	-	-	1	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	23	4	82	-	1	2
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	-	8	-	-	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	17	2	5	-	-	-
-----							
シダ植物							
ゼンマイ科	Osmundaceae	1	-	3	-	-	1
単条型孢子	Monolete spore	21	11	16	-	13	105
三条型孢子	Trilete spore	9	1	5	-	-	12
-----							
樹木花粉	Arboreal pollen	105	20	209	0	7	64
草本花粉	Nonarboreal pollen	344	62	1107	0	18	52
シダ植物孢子	Spores	31	12	24	0	13	118
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	480	94	1340	0	38	234
-----							
不明花粉	Unknown pollen	48	6	8	0	2	24

T. - C. はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

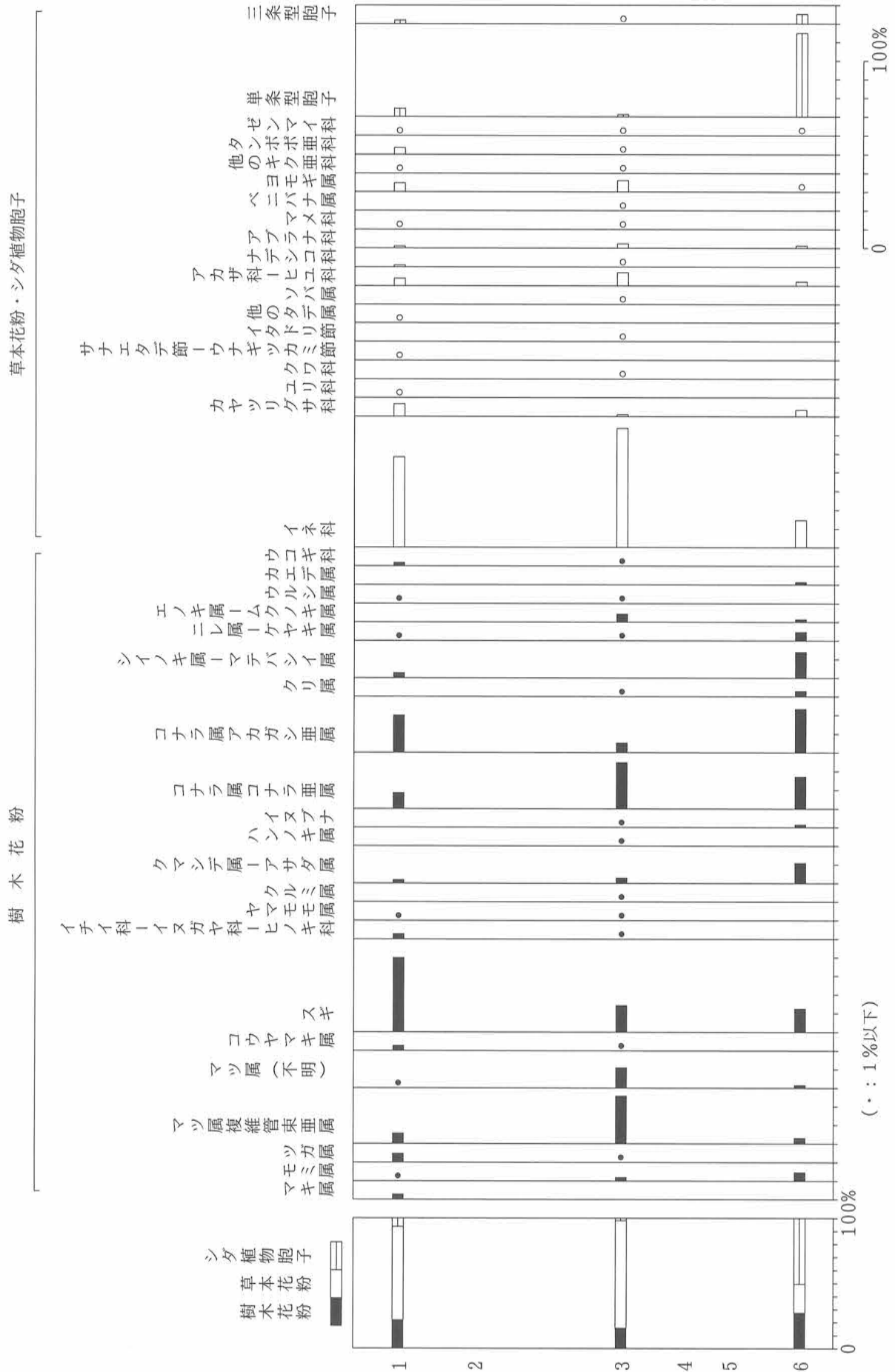
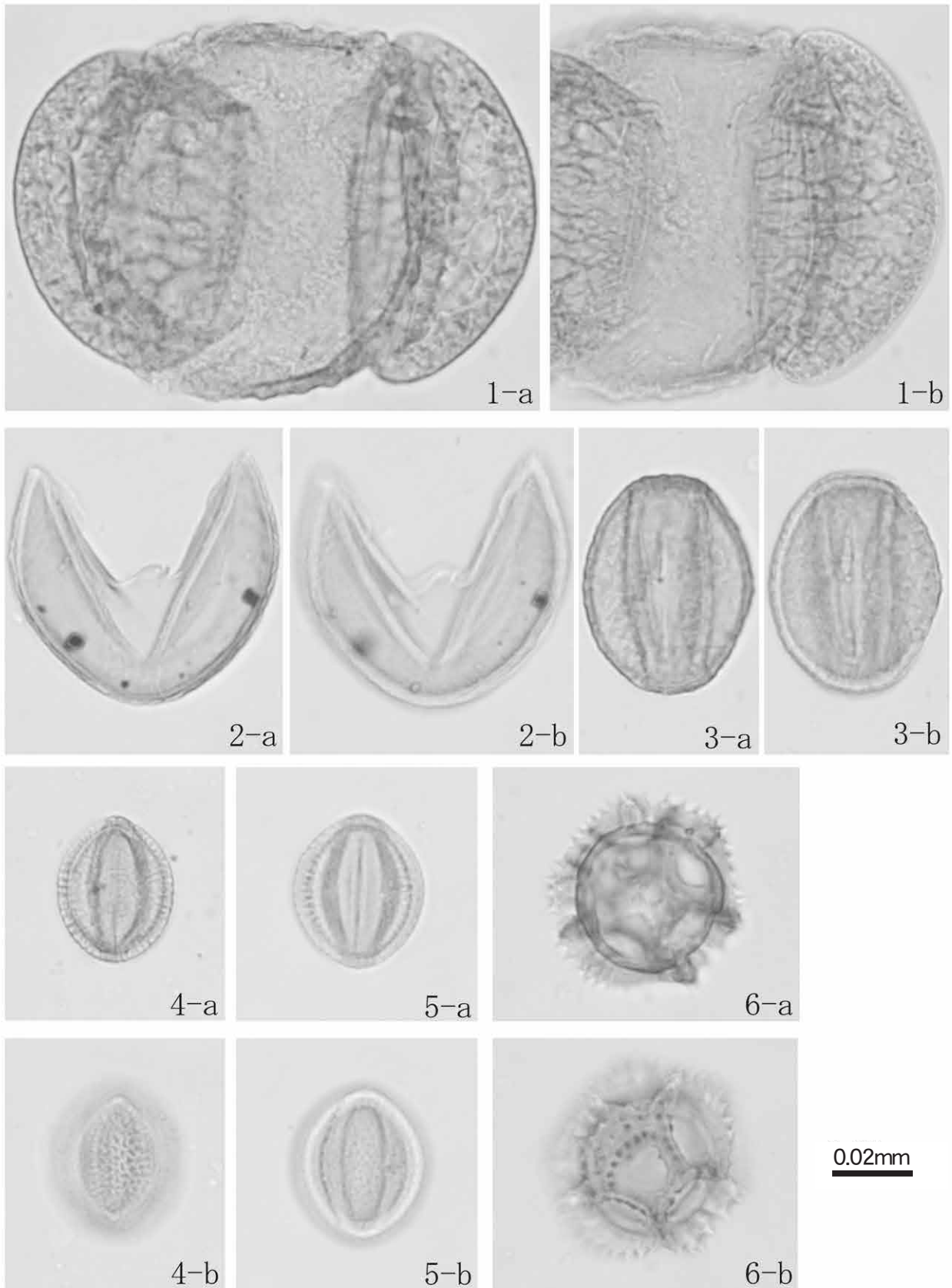


図1 北条時房・顕時邸跡の主要花粉化石分布図  
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・孢子は花粉・孢子総数を基数として百分率で算出した)



図版1 北条時房・顕時邸跡の花粉化石

1 : マツ属複維管束亜属 PLC. SS 5151 試料3  
 2 : スギ PLC. SS 5152 試料3  
 3 : コナラ属コナラ亜属 PLC. SS 5148 試料3

4 : アブラナ科 PLC. SS 5150 試料3  
 5 : ヨモギ属 PLC. SS 5149 試料3  
 6 : タンポポ科 PLC. SS 5153 試料3

## 1. はじめに

北条時房・顕時邸跡において行われた発掘調査で、出土遺物等から 13 世紀中葉～14 世紀と考えられている溝状の遺構が検出された。その覆土層について水田層が存在するか否かを検討する目的でプラント・オパール分析を行った。以下にその結果・考察を示す。

## 2. 試料と分析方法

試料は、調査Ⅱ区南壁に認められた溝状の遺構の西壁（試料 No. 2）および東壁（試料 No. 5）より採取された 2 試料である。試料の土相について、試料 No. 2 はかたくしまったオリブ緑色の粘土、試料 No. 5 は粘性の高い黒～黒褐色の砂質粘土である。プラント・オパール分析はこの 2 試料について以下のような手順にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約 1g（秤量）をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ（直径約 0.04mm）を加える。これに 30%の過酸化水素水を約 20～30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数はガラスビーズが 300 個に達するまで行った。

## 3. 分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求め（表 1）、それらの分布を図 1 に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料 1g 当りの検出個数である。

検鏡の結果、両試料ともイネのプラント・オパールは観察されなかった。最も多く得られたのはネザサ節型で、試料 No. 2 では 100,000 個を超えている。次いでウシクサ族が多く、検出個数は 40,000 個前後である。その他ではヨシ属とキビ族が試料 No. 5 において 10,000 個を超えており、クマザサ属型は 8,000 個前後を示している。また、シバ属が若干観察されている。

## 4. 北条時房・顕時邸跡周辺のイネ科植物

上記したようにイネのプラント・オパールは検出されず、試料 No. 2 や試料 No. 5 層準における稲作について、その可能性は低いと判断される。

遺跡周辺のイネ科植生について、ネザサ節型が多く検出されていることから、北条時房・顕時邸跡周辺の空き地や花粉分析において成立が推測されているニヨウマツ類の二次林や照葉樹林といった森林の林縁部など

表 1 試料 1g 当たりのプラント・オパール個数

試料 番号	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
2	108,100	8,100	5,800	6,900	1,200	4,600	39,100	32,200
5	6,800	7,900	2,600	10,600	1,300	11,900	46,300	30,400

にアズマネザサとみられるネザサ節型のササ類が多く生育していたと推察される。また、ウシクサ族（ススキ、チガヤなど）も同じような所での生育が推測され、ススキーアズマネザサ群集といった草本植生が成立していたとみられる。また、キビ族も同様のところに分布していたと推察される。一方、ヨシ属は溝内に生育していたと推測される。

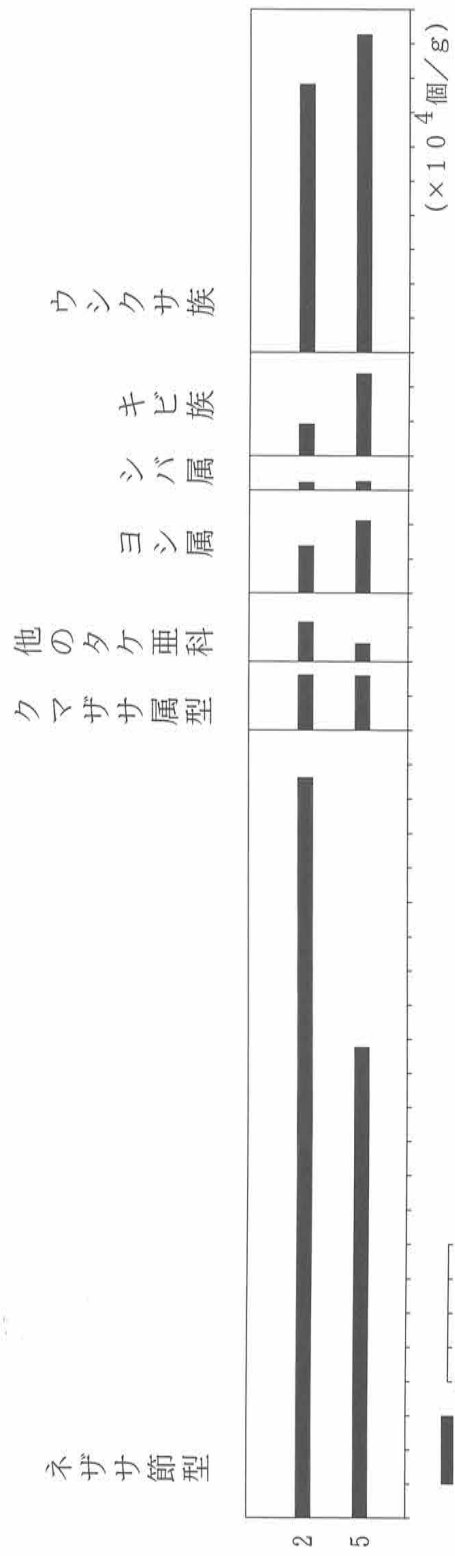
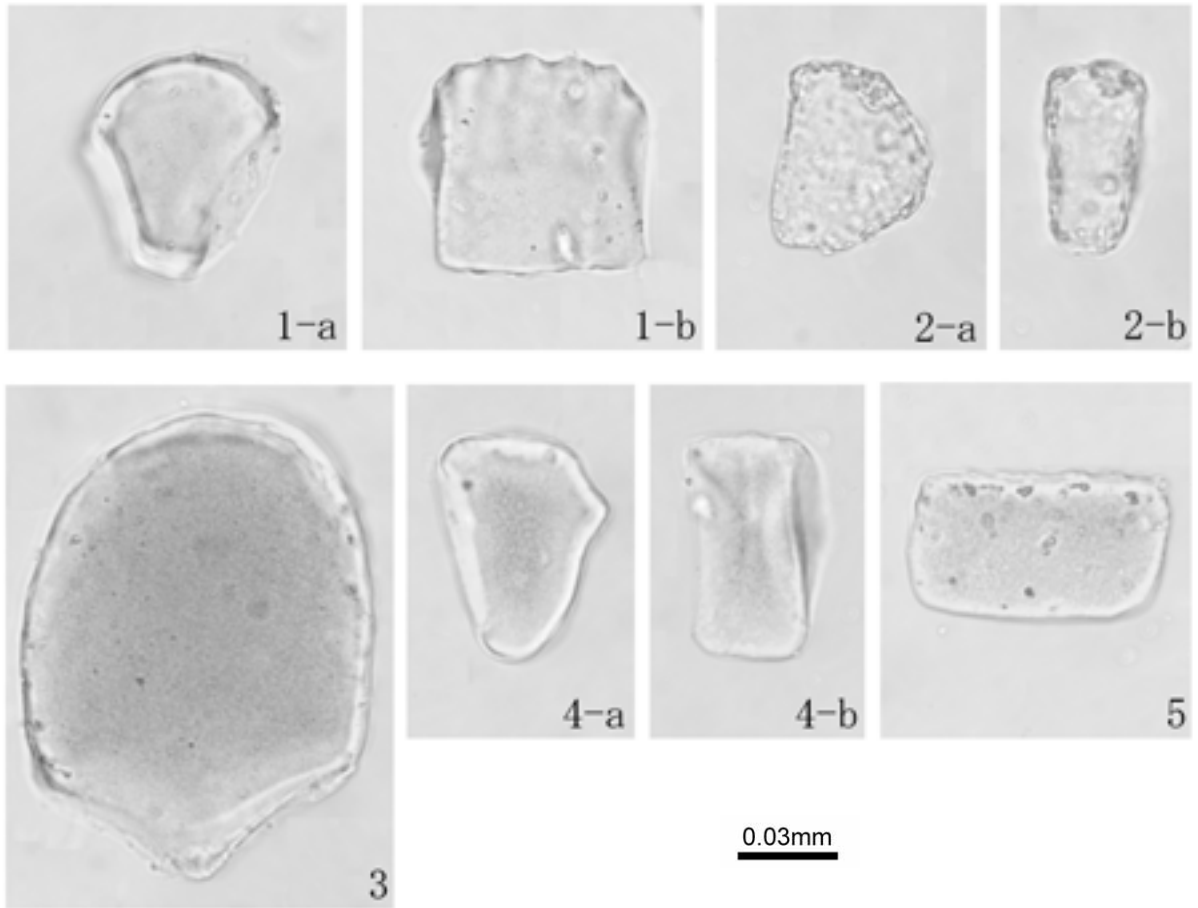


図1 北条時房・顕時邸跡のプラント・オパール分布図



図版 北条時房・顕時邸跡のプラント・オパール

- 1 : ネザサ節型 (a : 断面、b : 側面) 試料 No. 5
- 2 : クマザサ属型 (a : 断面、b : 側面) 試料 No. 5
- 3 : ヨシ属 (断面) 試料 No. 5
- 4 : ウシクサ族 (a : 断面、b : 側面) 試料 No. 5
- 5 : キビ族 (側面) 試料 No. 5

